

G E N T E N K A I K I

原点廻帰Ⅱ

～ あるRI理事の記録より ～

2016～2018年度 国際ロータリー理事
公益財団法人 ロータリー米山記念奨学会 理事長
医療法人 豊寿会 斉藤病院 名誉理事長

国際ロータリー第2760地区
豊田ロータリークラブ

齋藤 直美 Tadami Saito



G E N T E N K A I K I

原点廻帰Ⅱ

～ あるRI理事の記録より ～

齋藤 直美 Tadami Saito

追悼文

国際ロータリー元理事

公益財団法人ロータリー米山記念奨学会理事長

故 齋藤 直美氏 追悼の辞

第2750地区2015-16年度ガバナー 水野 功氏

齋藤さんと初めてお会いしたのは、たぶんRIJYEC(現RIJYEM)の理事長をされていた時かと記憶しています。青少年奉仕活動に大変熱心に取り組まれ、その熱い思い、邪心のない真摯な姿勢、そして何より謙虚な言動に触れてそのお人柄に一拳に魅了されファンとなったことを思い出しております。その後、齋藤さんとは様々なことで一緒にロータリーの活動をする事となり、最近まで公益財団法人ロータリー米山記念奨学会の齋藤理事長の下、副理事長としてお仕えし、一緒にできたことは大変幸せなことでした。

最も思い出深いのは、今年5月にオンラインで開催した「日本のロータリー100周年を祝う会」開催に向けて2016-17年度準備を始めた時から開催するまでのことで、齋藤さんの100周年を祝う会に対する熱い思いを感じながら一緒に働けたことは一生の思い出です。小生にとり何事にも代えがたい財産であると心から感謝の念でいっぱいです。

2019年の神戸でのロータリー研究会にて当時のガバナー会にお諮りした案件が見送りになったとき、齋藤さんが「水野さん、100年に1回しか

い機会をどうして理解してもらえないのかな」と大変残念がっていた姿が今でも目に焼き付いています。

祝う会でのパネルディスカッションに向けて、全精力を傾けてパネラーの方々と準備を進められました。その思いは間違いなく全国のロータリアンに届いたものと確信しております。もうその時にはおそらく体調の異変を感じておられたのではないかと思います。

7月に齋藤さんご夫妻、若林さん(前副理事長)ご夫妻と1年越しに実現した東京での会食会で楽しいひと時を過ごすことが出来ましたが、お礼状の中にその後体調を崩され、奥様との旅行が出来なくなったことが記されていました。

コロナ禍、お見舞いにも何えず、その思いを手紙にてお伝えしたところ、ご返事をいただきました。お医者様から肺がんと告げられたこと、そして妙にスッキリしたとのご心情が綴られていました。その時の言い知れぬ思いをなんと表現してよいのかわかりません。今はただ、齋藤さんのご冥福をお祈り申し上げ、尊敬してやまない先輩に恥じないようなロータリアンになれるよう精進することをお誓いいたし、追悼の辞とさせていただきます。

はじめに

齋藤直美 元RI理事紹介文

ロータリー日本100年史

「100人のロータリアン」発刊に寄せて

第2760地区2007-08年度ガバナー 故 江崎 柳節 氏

理論と実践に裏付けされた、変化を先導するロータリーの伝道師。
危機管理体制基盤を築き、2760地区初のRI理事として活躍し、
青少年奉仕にも尽力した。

2760地区初のRI理事

長らく2760地区は、国内有力地区でありながらRI理事を出さない孤高の存在であり、「愛知モンロー主義」などと揶揄されていた。そうしたなか、2016年に初選出されたのが、齋藤直美氏である。RI理事会における「職業奉仕」のタームを無くそうとする議論で、日本のロータリーの伝統文化としての職業奉仕理念を強硬に説諭するなど、日本の代表として多大なる足跡を残した。

齋藤氏は、1938年生まれ。名古屋大学医学部を卒業後、整形外科の専門医として研修を積む傍ら、青年会議所(JC)で異彩を放った根っからの求道派である。

JCを卒業した1979年に豊田RCに入会したものの、長らく会員相互の交流を目的に例会出席を重ねていたという齋藤氏だが、2000年に「順番

だから」と豊田RC副会長に推され、1年半後には会長の席が待っていると知ったことで、ロータリー理論の追求と自己研鑽に努めるようになる。最初に手に取ったのは、豊田RCの書庫で目に留まった「ロータリーに関する十四の断章」松井幸雄著と、「ロータリークラブ」小堀憲助著。すぐさま心を奪われ、ロータリー研究に没頭した。

さらに2002-03年に豊田RC会長を務めた後も、ロータリー研究と実践で名高い田巻明男氏(紋別港RC)に直接薫陶を受けるなど研究を進め、ロータリー原理主義の論客となり、ついには2006-07年度の地区ガバナーに推されるに至った。

『原点回帰』を地区テーマに掲げ、クラブ強化に邁進

2005年3月25日から9月25日に、愛・地球博(愛知万博)が開催された。ロータリー100周年記念行事の一つでもあった「ロータリー館」の建設および運営を担い、成功へと導いた第2760地区には、華やいた交流ムードが蔓延していた。

ガバナーに就任した齋藤氏は、地区テーマに「原点回帰」を謳い、本来の奉仕アベニューに立ち返ってのクラブ強化策を打ち出した。そして、ときに反発を受けながらも、『クラブ強化はロータリー研修によって果たされる』との信念に基づき、粛々と実践していった。各地区に立ち上げたRLI方式の原版とも言える「ロータリー研究会」は、今日も盛況を続けている。消える趨勢に陥っていたIMも、この年を境に全分区で活発に開催されるようになり、今日に至る。

筆者は、幸運にもガバナーエレクトとして齋藤ガバナーをお手伝いする巡り合わせになり、多くを学ばせていただいた。ちなみに、同期ガバナー補佐から、私を含め3名(片山主水氏<名古屋東南RC・2008-09年度>、

千田毅氏<名古屋東RC・2012-13年度>)の地区ガバナーを輩出。ロータリーの指導理論に前例的なPopulismを決して許さず、先進的で、常に実践的、実験的なプロジェクトを模索するリーダーを求める齋藤ガバナーの厳しい薫陶のおかげと、各々感謝している。

青少年への想い

青少年奉仕にひとかたならぬ手腕を見たのは、2006年に突然惹き起こされた「危機管理対策」という難題を抱えたときであった。

齋藤氏は、2007年に日本青少年交換委員会を立ち上げ、NPO法人国際ロータリー日本青少年交換委員会(現RIJYEM)の第2代理事長としてRIの要請に応え、Zone1、2、3の地区に悉く「危機管理委員会」を設置し、必要な保険も完備した。これは、地区内のクラブおよび会員にとって、“好ましくない事態のすべて(クラブ、会員相互の人的／内的諸問題は除く)”を「危機」とする優れた規範であり、現在も世界の模範的ポリシーとして高く評価されている。

また、若い社会人を中心に夜間例会を行う「中部名古屋みらいロータリークラブ」や、地域社会を基盤とする「豊田広域ローターアクトクラブ」の設立、東日本大震災で被災した福島県の高校生21名によるオーストリア研修の実現など、青少年に想いを馳せたプロジェクトに奔走した。

2018年9月、齋藤氏は、公益財団法人ロータリー米山記念奨学会の第7代理事長に就任した。その公平で温かなまなざしをもって未来を担う国内外の青少年を幅広く支援するとともに、進化に向かう日本ロータリーのリーダーの一人としてのますますの活躍が期待されている。

まえがき

この度、おこがましくも原点回帰〈そのⅡ〉を発刊することにしたが、〈そのⅠ〉同様、これはあくまでも個人的体験、歴史を記録したものである。そこには、様々な影響を与えてくれた知人、友人達との関わりが詰まっていて、お目通しいただければ幸甚である。そんな思いから発刊することにした。

〈そのⅡ〉は2007年RIJYECへの参加以降、走り出して止まらなくなった活動記録を資料として掲載する。また、海外も含めた交流記録、他地区活動参加記録の写真も同時に収めることとする。

PGとして、RI理事としての活動は、ロータリアン個人としての活動であると認識する良い機会の場合となり、同時に大勢の仲間に支えられ、クラブに迷惑を掛けた事が反省される。経時的な出来事や記録写真を見て振り返ると、いかに豊田ロータリークラブのメンバーが参加してくれていたかがよく解る。「あれ、彼も居てくれたんだ!」と失礼きわまりない自分だった…と気づかされる。

この記録を読んで下さった方に、今後何かのお役に立てれば光栄である。

2021 年 11 月

齋藤 直美

目 次

追悼文 / はじめに / まえがき

第1章

ガバナー事務所を振り返って。 そしてパストガバナーとして

- | | | |
|-----|---------------------------|----|
| 1.1 | 原点回帰 その精神を受け継ぎながら | 2 |
| 1.2 | 名古屋中RC ガバナー公式訪問 卓話 | 4 |
| 1.3 | ガバナー事務所の足跡(豊田RC50周年記念誌より) | 7 |
| 1.4 | 地区ロータリー未来委員会に参加して ～ 雑 感 ～ | 11 |
| 1.5 | 地区の現状と将来の方向 | 13 |

第2章

NPO法人 ロータリー日本青少年交換委員会 (RIJYEC) 理事長 (2010～2013年度) として。 次世代に対する想い

- | | | |
|-----|-------------------------|----|
| 2.1 | ガバナー任期終了後の青少年交換との関わり | 20 |
| 2.2 | NPO法人RIJYECと危機管理 | 21 |
| 2.3 | 過去1年間のRIJYECの活動概要報告 | 24 |
| 2.4 | RIJYECからの報告 (バンコク国際大会) | 25 |
| 2.5 | 「青少年交換一期生50周年記念誌」発刊に寄せて | 28 |

2.6	ロータリー雑感 ～ 青少年交換を中心に ～	29
2.7	外務省レセプション招待の報告(豊田5RC宛)	32
2.8	外務省レセプション列席の報告(「ロータリーの友」原稿)	33
2.9	RI青少年交換委員会委員 責務	35
2.10	RIJYECからの報告(シドニー国際大会)	38
2.11	早期帰国など青少年交換の現状報告と課題	41
2.12	第11回ライラ(ロータリー青少年指導者養成プログラム)研究会 挨拶	45

第3章

RI理事

3.1	RI理事就任の報告(豊田RC宛)	48
3.2	理事に選出されて	49
3.3	変化するロータリー ～ ロータリーの向かうところ ～	51
3.4	RID2830地区大会 RI会長代理挨拶並びに現況報告	57
3.5	第45回ロータリー研究会にかける期待	61
3.6	第45回ロータリー研究会 招集者挨拶	62
3.7	第45回ロータリー研究会 閉会式挨拶	66
3.8	これからの国際ロータリーの目指すところ	68
3.9	アトランタ国際大会 日本人親善朝食会	76
3.10	ジョン・ジャームRI会長への感謝状	78
3.11	RI理事挨拶 ～ 理事会に1年間参加して ～	80
3.12	RI理事2年目を迎えるにあたり	82
3.13	RI平和センター大口寄付推進活動委員会 挨拶	84
3.14	優れている日本のロータリー ～ 各種データから ～	84
3.15	RID2500地区大会 RI会長代理挨拶	88
3.16	2017年9月度 理事会報告	93
3.17	コーディネーターニュース	97
3.18	第6回台日国際扶論親善会(高雄) 挨拶	98

3.19	イアン・ライズリーRI会長への感謝状	99
3.20	RI理事退任慰労会(RID2760) 挨拶	101
3.21	RI理事経験からロータリーの流れを見つめて	104
3.22	豊田RCの皆様へ 5年間の御礼	111

第4章

公益財団法人

ロータリー米山記念奨学会 理事長

4.1	財団設立50周年記念式典 RI理事祝辞	114
4.2	米山記念奨学会の意義	115
4.3	RID2620 米山学友会10周年記念式典 祝辞	117
4.4	よねやまだより 理事長挨拶	118
4.5	よねやまだより ご寄付に感謝	120
4.6	よねやまだより 年頭雑感 ～新しい年度を迎えて～	121
4.7	東京米山友愛RC創立10周年 祝辞	122
4.8	米山月間によせて	123
4.9	米山記念奨学会 次期地区委員長セミナー 挨拶	127
4.10	台湾米山学友会総会 挨拶	128
4.11	よねやまだより 理事長年頭挨拶	129
	『海外の米山学友会総会 訪問履歴』	130

第5章

いままでのロータリー これからのロータリー

5.1	名古屋栄RC IM新人研修セミナー	132
5.2	戦略計画とクラブの活性化	137
5.3	ロータリーの流れ ～ 私見 ～	146
5.4	ロータリー親睦活動月間について	150
5.5	ロータリーの魅力、本質そして可能性	151
5.6	もう一度考えるロータリー ～ 入会40年にあたり ～	155
5.7	ロータリーの将来ビジョン	159
5.8	RID2770地区大会 RI会長代理挨拶	163
5.9	RID2750地区大会 RI会長代理挨拶	166

第6章

お世話になった方々との交友録

6.1	手紙（豊田ロータリークラブ 横山眞久氏 宛）	171
6.2	手紙（紋別港ロータリークラブ 田巻明男氏、御令室 宛）	172
6.3	手紙（小学校恩師 宛）	174
6.4	手紙（RI理事 松宮 剛氏 宛）	176
6.5	名古屋大学医学部 整形外科「晩成会」50年誌 寄稿文	178
6.6	千田先生（名古屋大学整形外科医局39会の同期生）追悼文	185
6.7	手紙（佐古亮尊様 宛）	187
6.8	江崎柳節バストガバナー追悼文	188
6.9	豊田西ロータリークラブ50周年記念誌 祝辞	189
6.10	RID2830友好地区協定締結後の交流記録	191

第7章

写真で振り返る16年	 196
------------	-----------

第8章

活動略歴

8.1 私のロータリー歴	 204
8.2 第2760地区10年史に寄せて	 208

第9章

episode ～ エピソード ～

9.1 フランスのGSEに参加して	 216
9.2 中部名古屋みらいRC創立総会 挨拶	 218
9.3 中部名古屋みらいRCの皆様へ	 220
9.4 豊田広域RAC 創立10周年記念誌に寄せて	 224
9.5 翻訳委員会 発足の報告	 225

あとがきにかえて ～ お礼の言葉 ～

秘書(山口美保子)について

齋藤直美プロフィール

2021年7月号「ロータリーの友」よねやまだより インタビューより

第 1 章

2006年度～

ガバナー事務所を振り返って。
そしてパストガバナーとして

第 1 章

ガバナー事務所を振り返って。 そしてパストガバナーとして

2006年度～

1.1 原点回帰 こころ その精神を受け継ぎながら

2006-2007年度地区運営方針

今、世界中でロータリークラブは内部崩壊が起こっていると言われていますが、元気のよい、この地区も例外ではありません。ここ数年で1割のメンバーが、クラブから去っていきました。急ぎすぎる拡大と無理な増強のせいでしょうか？ふくれあがるグローバルなプログラムのせいでしょうか？ロータリーの第2世紀を歩みだした私達は、改めて自分たちの足許をみつめ直して内部崩壊をくい止めなければなりません。過去を振り返ることは、未来への責任だと言われますが、私達はそのためにロータリー100年の歴史を学び、ロータリーの精神を、クラブ運営の原理原則を、改めて確認することが大切です。愛知万博及びロータリー館は大成功に終わりました。また、ポリオ・プラスという人類愛の巨大プロジェクトは、いよいよ終えんをむかえようとしています。やっと、ロータリーの日常性がもどってきました。クラブ奉仕を軸にしたロータリー論を語る一年にしましょう。

また、RI会長テーマは Lead the way-率先しよう- です。このテーマは

家庭で、職場で、そして地域で貴方が何事にも率先しようということですから。固定概念にとらわれることなく、自由に考えそして奉仕の行動に移ることを提案しています。率先しようを合言葉に次の事項を地区運営方針にしたいと考えます。

(I) クラブ奉仕に徹しよう。

— 貴方は例会を楽しむために何を心がけていますか? —

- ① 例会を楽しむ演出を。(100%の出席率をめざし、途中退席をやめよう)
- ② ロータリー情報を活発に。
- ③ 広報活動の強化。
- ④ 仲間の5%増加をめざそう。

(II) ロータリー財団・米山記念奨学会への協力。

— 貴方は社会奉仕、国際奉仕に参加していますか? —

一人のロータリアンとして、1つのクラブとしては、その力は大きくはありません。しかし資金がまとまると人材育成に、街づくりにその力を発揮します。協力することは私達の誇りです。

(III) ロータリーを学ぼう。

— 貴方も、もう一度ロータリーの本を開いて下さい。 —

- ① I・M(Intercity-Meeting)を成功させよう。

IMは同一分区で行う勉強と親睦を深める会合として日本のロータリーでは定着し、継続されています。いわば、日本のロータリーの文化であり、伝統的財産でもあります。一時休会していたIMをまた始めましょう。そして、自己研鑽と友愛の輪を広げましょう。

- ② 地区研修委員会・地区ロータリー情報委員会の新設。

地区リーダーシッププランに従って、明日のリーダーを育成するプログラムを考えましょう。

1.2 名古屋中 RC ガバナー公式訪問 卓話

2006. 7. 31

こんにちは。ガバナーの斎藤でございます。

今日はガバナー公式訪問の初日、第一日目であります。名古屋中RCさんからスタートしまして、最後は11月16日自分のクラブ豊田RCであります。しめて44回の公式訪問となります。ガバナーは医者という職業同様知力より体力勝負のようです。よく食べよく寝て頑張る所存でありますのでよろしく願います。

昨年10月ガバナー補佐8人の方が内定した段階で、早速お願いの挨拶に行っていました。クラブの長老は向うから挨拶に来るのがスジだと言いましたが、お願いがスジでありますので田原町、刈谷、半田、名古屋と廻りました。片山主水さんの事務所でCLPの話になりまして、すでに東南RCでは同じようなシステムで以前からクラブ運営を行っていると聞いて驚いたわけですが、その折に名古屋中RCのクラブ運営とそのための組織(特別委員会)を持ってるって伺い非常に驚きおそれ(おそれというのはロータリーに真剣)を感じました。さらに、会員増強にウェーティングをかけておられる話を聞くに及んで益々驚かされました。50人位がウェーティングと聞きました。

そんな屈強なクラブと申しますか、ハイレベルなクラブさんに今年度の地区大会のホストをお願いできるなんて、なんと運が良いのかとつくづく感じます。

一柳実行委員長さんのお言葉をお借りすれば“地区内81クラブありますから80年に一回のめぐり合わせの奇跡”であるのにそれにめぐり合った私の運の良さを感じます。加納PGさんがある日の諮問委員会の解散後、“斎藤君、地区大会への要望ないかね?”“ありません。宜しく願います”“地区大会は成功だよ。基調講演者が決まったみたい。君は運がいいよ!!”とおっしゃいました。ガバナーにノミネートされてからは運についた人に恵まれた、流れにただ身を任せているだけの感があります。

さて今年度RI会長 ウィリアム・ビルボイドさんはLead the Way「率先しよう」をテーマとして掲げました。サンディエゴの国際協議会の初日の第一声であります。静まり返った大会議場の正面スクリーンに「Lead the Way」が写し出されると1300人のスタンディングオベーションと拍手が一斉に起こり私も思わず立ち上がりました。テーマを皆が待っていた、かたずを飲んで待っていたのだと思いました。

「〇〇を率先してやろう」ということであります。

頭を働かせるのも良いが、手足を伸ばし曲げ、〇〇をやりましょうという行動(奉仕の実践)に力点を置いたものです。

但し、最近のRI会長テーマは継続性を訴えることから、前年度会長テーマを受けその延長線上に出てくるテーマがよくあります。前年度会長ステンハマーさんのテーマはservice above self(超我の奉仕)であり、(1911年のコリンズ提唱service not selfより約10年後シェルドンがservice above selfの方がbetterとして提唱したものとされた代物です。)このRI会長テーマは原点に戻ってロータリーを考えてくれと訴えられたものと解釈すれば、今年のLead the Wayは2年間にまたがり全世界のロータリアンに対する呼びかけであり、奉仕論—理論—哲学をきちんと学習してから実践してくれと説明できるのであります。ロータリー哲学を学び、それから「率先して〇〇をやりましょう」と言っていると理解できます。

次に会長テーマに続く強調事項が4つ示されました。①水保全 ②識字率の向上 ③健康と飢餓 ④ロータリー家族であります。この4つにとりわけ率先して下さいというわけです。会長のビルボイドさんは青少年交換、インターアクト、ローターアクトに関わる次世代をもロータリー家族として扱ってロータリーの将来を託してゆこうと語りかけました。

素敵なロータリアンになるには、私は2つのルートがあると思っています。1つはstep by stepでありもう1つのルートはculture shockの道です。

入会して先輩に付き合い、その折々にロータリーの知識を断片的にせよ吸収していったり、ロータリーの様々な会合に参加してロータリーの各委員会の事業と考え方を学んで成長していくという一般的なロータリアンの歩く道です。10年・20年と経つうちにロータリーのオールラウンドプレーヤー（ジェネラリスト）になりクラブでいつしかリーダーとなっています。

もう1つのルートculture shockルートは入会して1～2年のうちに、ある特定の奉仕活動のスペシャリストとして活躍している先輩ロータリアンの助手として参加していく道です。この場合、青少年交換・WCS・インターアクト・ローターアクト・ロータリー財団等への参加活動です。その活動の純粹さ、ひたむきさに感動し、ショックを受け、積極的にその奉仕活動へ参加して、スペシャリストロータリアンとして成長するルートであります。

どのようなルートであれ、ロータリアンとして成長して頂ければ、モザイク模様例えられる様々な考え方の人々から構成されるクラブですので、それを寛大に容認しながら、しかし原理原則を守り例会運営を行っていただきたいと思います。

ロータリー運動の歴史はクラブ奉仕より始まり職業奉仕に軸を置き、国際奉仕つまり恒久的な世界平和の具現化への奉仕の努力の歴史であります。しかしこの果てしない無限宇宙への夢は、毎週例会へ出席するというクラブ奉仕からその一歩が始まるわけです。足は一歩でも目は宇宙の彼方へ向けていたいものです。最後にもう一度繰り返して申し上げます。

今年の地区大会をどうか宜しく願い申し上げます卓話を終わらせていただきます。ありがとうございました。

1.3 ガバナー事務所の足跡(豊田RC50周年記念誌より)

2010.12.15

“豊田ロータリークラブからガバナーを!”

これは先輩ロータリアンがよく口にする言葉でした。

2002～2003年クラブ会長を拝命してからは、とくに耳にすることが多くなりました。この年は、豊田RCから伊藤康司ガバナー補佐を輩出したこともあって、他の豊田4クラブからの突き上げはかなりのものだったようです。2003年6月26日豊田RC新旧理事会が「福好」にて開催。席上、伊藤ガバナー補佐より「諸事情より豊田からガバナーを出すチャンスは今しかない」と発言があり、受けて元会長の佐々木努さんが「豊田RCより出すなら斎藤君がよい」と酒の席での提案。以降、パスト会長達から「50周年のためにガバナー輩出を」とささやかれていたようです。しかし、50周年のための事業を考えると貯えが心もとないので、年度末に「会費24万円を30万円に値上げ案」を提出。この案件は否決されたので仕方なく、翌年度の藤井一孕石年度理事会からの案「3万円値上げして、年会費27万円とする」を提出し、可決された。これで50周年記念事業へ向けての資金準備は整った。2003～2004年度は何事もないように過ぎていったが、2004年6月17日(木)クラブ例会にて、「ガバナーノミニーとして斎藤直美君を推薦する」決議が行われた。同年9月4日諮問委員会にて承認。11月13～14日地区大会(豊橋市)にて大島ガバナーより発表。幹事に藤井伸三、会計長 伊藤康司、監事 渡辺祥二の3氏に役職を依頼し快くお引き受けいただいた。副幹事8人は、前年度理事及び次年度理事予定者を除いてお役をお願いした。その結果とんでもない最強軍団が結成された。これこそがガバナー事務所成功の鍵だった。事務所は、旧斎藤病院診察室の改装で済ませ、事務所賃貸料はゼロとした。15～16人が囲める椅子・テーブル・応接セット等々の準備に迫られた。

2005年4月21日、第1回ガバナーノミニー研修会開催。大須RCより藤井

元地区幹事、藤田元地区副幹事の両氏を講師として迎える。6月1日、ガバナーノミニーマニースタッフ事務所オープン。7月21日、ガバナーエレクト事務所決起集会（八事の八勝館）。上座に座っても、スタッフが後輩とはいえ強者の元JCリーダーの前では、落ち着かなかった。8月31日、大村北RCへ。佐古亮尊PGを表敬訪問（大村藩主の菩提寺 本經寺住職）。帰宅してすぐに、「原点回帰」をガバナー方針と決めた。10月22～23日、地区大会（主管：豊田西RC）にてエレクトとしてスピーチ。ガバナー方針などほぼ固まるも明言をさけ、2760地区を汚さないようガバナーとして頑張る、と挨拶。

2006年2月15日、国際協議会（アメリカ・サンディエゴ）へ。25日帰国。新車のレクサスが納車されていた。20年乗ったボルボよりチェンジ。豊田のガバナーは、トヨタ車が似合うと思ったから。サンディエゴ滞在中の1週間は9～17時まで授業。半日のメキシコの町の観光のみの講義漬け。夜は寿司を食べに女房殿とこっそりホテルを出る。ネタも米もうまい。Freeの夜は、気の合った仲間3～4人でロータリー談義、の実に楽しい1週間だった。今でもその仲間と付き合っている。

PETS（3月19日）、地区協議会（4月16日）と、地区の公式会議が進み、「率先しよう」というRI会長テーマをガバナー月信1号で訴える。

6月29日、ガバナー事務所激励会は、妙な空気の中で始まった。昨年末の忘年会の席上、“仲間さん！ お前等二人でガバナー事務所をやるのか？”というメンバーの一人から発言があり、一瞬にして空気が凍った。それを引きずったままの一年半だったからだ。M君の「ハイ、記念品。大事にしてよ！」という青いネクタイのプレゼントが大いなる救いとなって、その場の空気を和ませた。

とうとうガバナーと呼称される7月に入った。

3日 神田愛知県知事への表敬訪問、4日 鈴木豊田市長、7日 中日新聞社への挨拶と続き、31日名古屋中RC公式訪問（地区大会開催ホストクラブ）スタートとなった。

地区内81クラブ、44回の公式訪問の始まりなので、何もかも戸惑うばかりで落ち着かない訪問となった。ただ、岡野会長のご配慮で各々のテーブルには途中退席を戒めるキャッチコピーが置かれ、ただただ嬉しかった。(PETSの席上、途中退席は止めようと訴えたから。)

以後、公式訪問の前日には訪問クラブの事業計画書をよく読んだ。会長方針、各種委員会の計画、予算等々に目を通したので、各クラブが実に活発に奉仕活動をしているのがよく解った。豊田RCは恥入るばかりのよい勉強になった。残念だったのは、2つのクラブの会長が欠席されたので公式訪問とならず、後日改めてとなった。8月6日、宮崎茂和(福井RC) RI会長代理が決定し、11月18、19日 地区大会のロータリーミーティングは大村北RC初代会長 佐古亮尊PG、基調講演は奥田日経連会長という、日本各界のリーダーを代表する両講師をお迎えできた。これはとりも直さず、名古屋中RCの底力のお蔭であった。

2007年1月12日、青少年交換プログラムのための地区危機管理委員会準備会が開かれた。当委員会が、2010年4月 規定審議会決定の第5の奉仕―新世代奉仕―の、大きなバックボーンとなるとは思ってしなかった。

1月20～27日、ラオスへWCS活動へ参加し、休む間もなく、2月25日名古屋みなとRCのラオス支援活動に参加し、異文化交流のすばらしさを実感した。

4月28～29日、ローターアクトのお伴にて、青森へ研修旅行。RID2830(青森)ローターアクトと、板柳宣言(友好地区)を採択。

6月5日、老子(おいご)製作所(高岡市)を訪問。ガバナー事務所成功の記念として、鐘(カナダ→横浜と伝わる名鐘)を我がクラブに贈るべく、その製作を依頼した。叩くと、素朴で小さく鋭い高音を出してくれるので、気に入った。

6月11～20日、国際大会(ソルトレイク)へ参加した(伊藤康司、藤井

伸三、孕石邦雄、松井 勇、酒井法丈、斎藤直美夫妻 7人の珍道中)。日本人朝食会へ参加し、次回開催都市がニューオリンズからバーミングハムに急遽変更したのを知る。ハリケーン“キャサリン”上陸の被害の為とのこと。

24日、「豊田広域ローターアクトクラブ」が創立された。9つ目のローターアクトクラブは、当地区の悲願だった。秋田敬治君(豊田RC)の献身的努力によるものだった。

28日、クラブ最終例会を「福好」にて開催。川崎会長 — 杉浦(敏)幹事の慰労会であるべきなのに、ガバナー事務所スタッフ全員へのねぎらいの花束というパフォーマンスに思わず涙した。

30～31日、知多半島内海町の「海風」にてガバナー事務所打上げの宴。予算の倍を要した豪華版だった(津軽塗りの夫婦椀をスタッフへ記念品としてガバナーより贈呈)。積み上げてきた地区への実績は、RID2760豊田RCの存在感を示し、一致団結したガバナー事務所の卓越したリーダーシップは、地区史に残るものと自負している。

楽しい楽しい2年6ヶ月だった。

ガバナーは誰でもやれる!
ロータリーへの燃ゆる思いがあれば!
思いがなければ舞台から降りよ!

前略
今年から国際協議会の会場が
アナハイムからサンディエゴに移りました。
温暖で明るい街です。新しい
RI会長の方針と経済中であります。
帰国次第、報告させていただきます。
2006/2/26
ガバナーエレクト 斎藤直美

サンディエゴ国際協議会にて



ソルトレイク国際大会参加 豊田RCメンバーとともに

1.4 地区ロータリー未来委員会に参加して ～ 雑 感 ～

2010.6.23

パストガバナーとなり、3年間カウンセラーとして当委員会に出席してきました。杉浦委員長の熱気はすさまじく、月1回は120分の委員会を開催して司会を行い、議事録を作成し欠席者には郵送するという丁寧さでした。いいかげんなロータリアンである僕には“ついていけない状態”でした。そもそもこの委員会はマジメ人間が多すぎました。膨大なアンケート回答書をまとめる時になると、時間がかかりすぎる、人手が足りない、効率のよいまとめ方は?など問題が噴出しました。その時僕は、大学時代の親友である大野良之君(尾張旭RC)を思い出していました。名大医学部教授をとめた彼の専門性から、このアンケートデータの集計方法を効率よくご指導いただけるのではないか、ということを考えついたわけです。その依頼を気持ちよく承諾していただいたものですから、杉浦委員長は早速抜け目無く委員会へ出席要請してしまいました。それからというもの彼は、僕より出席率のよいメンバーとなってくれました。

さて、「ロータリー未来委員会」にカウンセラーとして出席させていただきましたが、1番の収穫は色々なメンバーより多種多様なご意見、ロータリーの見方をお聞きできたことです。ここ10年ロータリー原理主義にこり固まって氷結してしまって、それでも今はゆっくり氷解しつつある僕には、その人達の言葉がしっとりゆっくり頭の中にしみ込んでゆくのが何より嬉しかったのです。とりわけ豊島PGのお言葉は、シリアスで本筋をはずれずロータリーの軸のブレを見せず(失礼!)見事なものでした。つつい若いリーダーに妥協してしまう僕には“かくあるべし”と気づかせていただきました。

2つ目は話半分にしても2760地区の現況が大雑把につかめたことでしょうか。勿論アンケートだから、本音で答えた人や、立場上優等生的回答をした人などがあるでしょうから「話半分」で回答を読んでいかなければなりません。

いずれにせよ、これだけ膨大なアンケート資料を事実として数字を記載し解析することは担当者におまかせするにしても、別の解釈ができるよう実数字を残したことは大きな財産になります。このデータを日本全国に発信し、各々の地区で何らかの参考にしていきたいものです。未来の予測はできないまでも、近未来の次なるリーダーの政策決定の一翼を担ってくれるものと確信しています。しかし、だが、しかしである。ロタキチにとってはこの流涎的とも云うべきこのデータも、活用する気のない、目を通さないリーダーにとってはゴミとなることを覚悟しなくてははいけません(悲しいことだが)。一生懸命ロータリー論を説けば説くほど後ずさりするメンバーが少しずつ増えていることを知っておくべきだからです。

第3番目に、研修委員会とその機能が今後ラップしてこないかとの懸念があります。この委員会での意見のやりとりの中で、今はこれこれであるから今後この方がよいのではないか、という場面が何回もありました。これはどうも研修委員会での作業がかくあるべきのように思えますが、いかがでしょうか。

4つ目は、この委員会はRIの政策の解説及び政策推進室ではないことを、胆に命じておくべきでしょう。近未来に考えられるRIの方針を予測して対応できる方策を考えておこうとする意図は、それはそれとして大切です。が、“クラブにリーダーシップ委員会と研修委員会を作る”ということはクラブ会長の努力を逆なでするものでしょう。企業のトップリーダーにリーダー論を説く為に研修会の席に座っていただくことは何ともいやはやの思いあがりでしょう。ロータリーの歴史と心、そして組織と運営ぐらいの学習で、あとは互いに語ることで十分なクラブ運営ができると思います。ですから提言はアンケート解析による事実報告だけでよいのでは?と思います。

以上、4つの事をまとめて書いてはみましたが、カウンセラーとしての役割は果たしてこなかった3年間でした。「カウンセラーの役割とは、パストガバナーの役割とは?」をつくづく考え込んでしまう昨今です。

1.5 地区の現状と将来の方向

2011.10.10

(I) RIの主たる流れ

ロータリーの誕生から長期計画策定まで、「長期計画を持たないとロータリーは消滅する」(1987年チャールズC. ケラーRI会長)

*1905～30年、創始25年間に組織と活動方針確立(創始期)

1905年、ポール・ハリス他、ロータリーを始める

1917年、アーチ・克蘭フがロータリー財団提唱

1922年、国際ロータリーに改称(綱領、定款、細則を定める)

1923年、セントルイス宣言(23-24決議)

1927年、四大奉仕部門設定

1928年、ロータリー財団設立

*1931～55年、第二次世界大戦を挟んで苦難の時代。奉仕活動の芽生えの時代と言える。(第2期)

1933年、四つのテスト発表(ハーバート・テラー)

1935年、綱領4項目として確立

1939年、国連大会「人権尊重に関する決議」自由、正義、真実、人間尊重 等

1942年、ロンドンにて教育・文化を図る会議・機構提唱(ユネスコ)

1945年、国連憲章起草に参画(49人のロータリアン)

1945年、ポール・ハリス死去、財団の国際親善奨学生制度開始

1949年、4月に日本のロータリークラブ、RIへ復帰

1951年、四大綱領の目的「Objects」を「Object」に改正し、綱領中の4項目は等しく大きな意味を持つこと、又同時に行動を起こすべきものである、と手続要覧に明記。(重要)

***1956～80年、ロータリー活動発展期(第3期)**

1962年、インターアクト開始、WCSプログラム発足

1966年、最初のGSE来日

1967年、10年前に始まった米山記念奨学会、財団法人組織になる

1968年、ローターアクト開始

1971年、RYLA(青少年指導者養成プログラム)開始

1978年、3-Hプログラム(保健、飢餓追放、人間尊重)始まる

***1981年～現在、ロータリーの近代化(活動の多様性と発展)(第4期)**

1985年、3-Hプログラムに引き続いて、ポリオ・プラスプログラム開始

1989年、「職業宣言」発表、女性会員入会始まる

1991年、「国際ロータリーの使命」発表

1992年、「社会奉仕に関する声明」発表

1997年、地区リーダーシップ・プラン(DLP)始まる(義務)

2000年、世界平和フェロー奨学制度(ポール・ハリス没後50年)

2000年、「ロータリー財団の使命」改正

2002年、DLPが義務制になる

2004年、クラブ・リーダーシップ・プラン(CLP)理事会決議(推奨項目)

2007年、長期計画を発表

2010年、五大奉仕(4月の規定審議会にて承認)

2010年、新長期計画(11月のRI理事会において「ロータリーの本質」)
が承認。

曰く「地域の人々の生活を改善したいという情熱を社会に役立つ活動に注いでいる、献身的な人々の社会的ネットワーク」と。

＊ロータリーの発展の歴史は「理念、目的、活動方法」の明確な理解が基本！

- ・ロータリー100周年を区切りとして、残すべきものと残されざるものとをはっきり区別し、理解することが必要である。基本理念と綱領の目的はロータリーの基本として変わらないものである。五大奉仕等の奉仕活動の内容と方法は、時代や社会の変化に応じて機能的に、又、効果が上がるように、多種多様な方法を取って行くべきであろうと考える。
- ・従って、原点、目的、活動方法等の明確な理解が必要である。たとえば、「超我の奉仕」の理念は基本のものであり変えてはならないと思う。そして、ロータリーの目的である綱領も現在に至るまで変わっていない。しかし、ロータリー活動の内容、方法は、時代の激変に即応した機能的で変化するものと考えるべきである。
- ・そこで、時代の変化にいかに対応するかが問題だが、時代の変化とは国際社会、地域社会、職業社会の組織、意識、活動内容の変動と多様性の把握である。多様な変化をいかに時代に適應させて行くのか、充分な検討、理解が必要だと思われる。

1963年国際ロータリーは何を思っか改めて「ロータリーの根本的特色」を発表した。その中で「ロータリーは個人的および集団的に特に個人に重きを置く奉仕の実行を奨励する」云々と言っている。

また、同時に発表した「基本の方針」で「運営の根本原則は加盟クラブの実質的な自主性にある」と言い、「規定の範囲において国際ロータリーの方針の解釈および実行は最大の融通性を持っている。それは地方水準において特にそうである」と言っている。ロータリーはまだまだ多くの流動的なものをもっていると言わねばならない。「ロータリーも自分も若かりしころ」と題する中でチャールズ・ニュートンは「かつてポールも言ったようにロータリーは混乱しながら発展し成長して来た。何かの計画をやってみて、うまく行かないとまた別な計画に移って行く。今日のロータリーのあるのは全く試行錯誤の結果である。バターをつくるチェーンのように牛乳を

入れてくるくる回しているとクリームだけが残るという寸法であった。ロータリーはかくして発展したのであり、またかくしてのみ今後も発展し続けることができると信ずる」と述べている。

「ロータリアン読本」直木太一郎著P38～39よりコピー
昭和45年8月13日発行

「ロータリーとは」

地域の人々の生活を改善したいという情熱を社会に役立つ活動に注いでいる、献身的な人々の世界的ネットワーク

—「ロータリーの本質」2010年11月RI理事会—

＊ ネットワークを構成する一単位としてのロータリークラブ。

だから、効果的な強いクラブが求められている。

「かつてロータリー・クラブは」

地域社会に住まう異業種の会員が、相互交流を通じて人間的成長に導かれ、それぞれの職業の価値を実質として高め、より善い地域社会創造に貢献してゆく。

その総和としてロータリー・クラブは存在していた。

(Ⅱ)地区の現状

2005～06年頃までは、ロータリーは職業奉仕を中心にして、職業倫理と自己研鑽をその大きな目的としていると肯定されてきた。そしてそれは今も変わらない。しかし、ロータリーの目的を遂行するために、2007年からRIの長期計画や財団の未来の夢計画など活動するロータリアンを推奨し、効果的なクラブづくりを前面に押し出す方針が目に見えてきた。地区は、原則としてRIの方針に沿った組織づくりであり、全てをガバナーが決定し、あくまでもRIの方針を遂行するため、クラブの各種奉仕活動をバックアップするための組織である（ガバナーの責任は大きい）。2006年以降2760地区はロータリー運動の強化のための自然矯正が生まれた。各々の部門に

個性的リーダーシップを持った委員長が育ち、組織として強固な委員会へ発展した。具体的には以下のような事が列挙できると思う。

- ・ 研修委員会の新設(斎藤)

DLPに隠れていたものをクローズアップさせた。大会前地区指導者育成セミナーもその1つであり、長期計画第1の柱。

- ・ 広報委員会の補強(斎藤)

強化された委員会は、2年間でその機能を発揮(第3の柱)。

- ・ 環境保全委員会の充実(斎藤)

委員会のあり方が確立し、他地区との連携が生まれる。第2の柱として明記。

- ・ ロータリー未来委員会の新設(江崎)

ロータリーの存続そのものを問う新しい波。各クラブへ波及が求められる第1の柱。

- ・ 危機管理委員会の新設(片山)

青少年交換委員会のプログラム継続のための必須委員会。3.11災害発生によりその存在がクローズアップされ新たな任務が生まれた。

- ・ 新世代奉仕委員会の新設(田嶋)

ポリオ後の大きな柱として期待されている。

- ・ ポリオのワクチン投与へ初めての参加 第2の柱(大澤)

- ・ 青少年交換委員会の全国的リーダー地区となる。

(2760地区内にNPO法人RIJYEC分室設置)

- ・ ロータリー財団は日本の中心的存在となる。

以上が、2760地区のここ5～6年の新しい動向である。DLP(義務的)は、2006年には当地区は形としては完成しているので、2003年から推奨事項となっているCLPの各クラブでの検討が待たれる。

(Ⅲ)地区の将来の方向とクラブは

「地域の人々の生活を改善したいという情熱を社会事業に注いでいる献身的な人々の世界的ネットワーク」(2010年11月理事会承認)とロータリーの本質を規定し、ロータリークラブを「人道的奉仕活動の世界的ネットワークを構成する一単位」と考え、このネットワークを十分に機能させるための能力を各クラブが身につけることが望まれる。従って、地区は各ロータリークラブの「ロータリーの綱領」を推進するプログラムや活動を助けることを唯一の目的としている。

今やロータリーは変貌してきているのであり、地区の動向はひとえにガバナーの変貌への認識と、それに基づく地区方針にかかっている。従って、RIの長期計画に提唱されているプログラムや文言に注意をする必要がある。とは言っても、地域に生きるロータリアンとして地域と伴に歩むので、地区にRIに振り回されることなく、自分のロータリークラブの現状を正しく捉え、時流に合わない組織は統廃合すべきだろう。そしてクラブとして人に役立つプログラムを見つけ出し、それを続けるべきだろう。つまり、社会貢献をする団体とその構成員になることが求められているようだ。

注)地区では3.11東日本大震災の支援プロジェクトチームが立ち上がる。



第 2 章

2007年度～

NPO法人
ロータリー日本青少年交換委員会(RIJYEC)
理事長(2010～2013年度)として。
次世代に対する想い

第2章

NPO法人

ロータリー日本青少年交換委員会 (RIJYEC)

理事長 (2010～2013年度) として。

次世代に対する想い

2007年度～

東日本大震災を機に日本の青少年交換の危機管理の必要性が一気に高まり、強い組織づくりが加速したときでした。震災で被害を受けた福島の高校生たちはオーストリアへ。RIJYEC主催、外務省、オーストリア連邦政府等後援の事業として実施したこのプログラムは外務省から高く評価していただき、バンコクとシドニー国際大会の青少年ブレコンにて発表させていただきました。今後もこのようなプログラムが各地で発展し、世界平和へつなげる青年の輪を作って欲しいものです。

2.1 ガバナー任期終了後の青少年交換との関わり

2007年ガバナーが終わってから、自ら志願して地区青少年交換委員会に参加させてもらった。

この、3年がかりで一人の高校生を送り出す事業をあまりにも知らなかったから。そしてその中で20年近くも続く、3月下旬長野県白馬村での交換学生の為のスキー交流会で白馬ロータリークラブに全面的なお世話をいただいているのに、2760地区から一人もガバナーが参加していないことを委員長から嘆かれ、何年か続けて参加していた（僕の狙いは、温泉とそばであったが…）。

こんないきさつもあって、青少年交換プログラムと関わるようになり、同期のガバナー会議長 小澤秀瑛さんに誘われて日本青少年交換委員会へ参加するようになった。

2.2 NPO法人RIJYECと危機管理

2010.11.27 NPO法人国際ロータリー日本青少年交換委員会

新世代奉仕には、80年を越える歴史があります。古くは、1923年のセントルイス大会に於いて「健全な市民を育成するためには、青少年の健全な育成が必要であり、青少年奉仕を第5の奉仕部門にする」という提案がなされたようでありました。近くは2001年規定審議会にて、「青少年奉仕をロータリーの第5の奉仕に追加するよう」理事会に要請、という提案がありましたが、いずれも日の目を見ず、それから今日、新世代奉仕と名改め第5の奉仕部門になりました。ランケの提唱する“時代精神”が背景にあり誕生したものと思われます。今まさに、時代が必要としている新しい輝かしいテーマと考えられます。今までは、国際奉仕部門の一小委員会でありました青少年交換委員会は、今後この第5の奉仕部門を構成する大事な委員会になろうかと思われます。まさに、2005年2月ステンハマー元RI会長が、「私には夢があります。私の夢は、すべての17歳の青少年がロータリー青少年交換奨学生となることです。世界でこれを実現したなら、この世から戦争が消えてなくなることでしょーう!」とスピーチした有名なフレーズのように、夢を形にしたいものです。

従来、このプログラムを推進する手続などの繁雑さのために、各地区は大変な苦勞をされておりました。1971年、在日ロータリー青少年交換連絡事務所を設立したり、1970～98年ガバナー会連絡会議事務所がこの事業を円滑に進めてまいりました。2000年7月1日、ガバナー会はその翼下に全国青少年交換委員会を設立し、委員会の皆様の御努力で、ご苦勞されながらも順調に運営されてきました。

そのさなかの2005年、国際ロータリー理事会は、青少年交換プログラムにおける虐待およびハラスメント防止のために、各地区に危機管理への対応を義務づけました。危機管理への対応が適切に取られている地区へは証明書を出し、証明書を貰った地区でなければ、2006-2007年度以降、青少年交換プログラムへの参加はできないとしました。いわゆる「青少年交換に関するRI指針」を発表しました。その内容は、①交換委員会を法人化すること、②「虐待およびハラスメント防止」保険に加入すること、③地区危機管理委員会を設置すること、の3つの条件を整備することでありました。

しかしながら日本では、ガバナー会の指導のもとに設立されたJYECのすばらしい努力のお蔭で、このプログラムは何ら問題なく遂行されてきました。しかし、時代とともに変わる交換学生の実環境は、この3つの条件を必要とする、好ましくないものに変化したと考えられます。この3つの条件は、ガバナー、クラブ会長、地区青少年交換委員長をいわれなき訴追から守る大事な役割があります。一方、何よりも交換学生にかかわる全ての人々に警鐘を鳴らし、青少年の保護育成という交換事業が安心して行われるよう、周辺整備を促してくれると考えられます。しかし、当初この指針の対応に応じきれない各地区は戸惑いました。この事態を収拾すべく、直ちにガバナー会JYECはRI指針検討委員会を結成。そして、その対応にあたりました。法人化、保険加入、地区危機管理委員会など、慣れない事を手探りで進める大変な苦労がありましたが、2007年7月、NPO法人RIJYECを設立することができました。そして2008年2月、認定書が発行されました。初めの1年間は、青少年交換プログラム遂行のための、保険専門委員会と擲擲される始末でありました。この「虐待およびハラスメント防止」のための保険と危機管理委員会は、繰り返しますが、地区ガバナーをあってはならない交換学生の虐待とハラスメント被害のいわれなき訴訟から守るという、大きな役目があります。当NPO法人は、一歩進んで地区青少年交換委

員長も、ガバナー、クラブ会長と同様にガードされる保険へ拡大させることが出来ました。

2010年6月末、ガバナー会JYECが解散され、その機能をRIJYECが引き継ぐことになりました。即ち、NPO法人として望まれる事業形態へ変化しました。

それでは、ガバナー会のJYECの機能とは何だったのでしょうか。

まとめますと、

- ①地区青少年交換委員会からのさまざまな相談に応じること。
- ②国際大会前世界青少年交換役員会議(青少年プレコンベンション)へ出席して地域活動報告をすること。
- ③ガバナー会青少年交換委員ホームページおよびメーリングリストを作成、管理、運営すること。
- ④全国青少年交換委員長会議主催、ロータリー日本青少年交換研究会の主催をすること。
- ⑤全世界より発信されてくるinbound、outboundの地区間や外務省との調整。
- ⑥交換学生のオリエンテーションの計画と実施のアドバイス等々。

これらの役割をRIJYECは引き継ぎますが、RIJYECたらしめるものは地区危機管理委員会の存在です。この委員会は、青少年交換プログラムに関わる全ての人々に警鐘を鳴らし、保護いたします。

この危機管理委員会を充実させるために、

- ①青少年交換委員会と、新世代関連委員会と三者合同で開催して下さい。そしてガバナー、ガバナーエレクト、ガバナーノミニーなどリーダーがとりわけPGのお目付的参加が必要と考えます。
- ②危機管理ハンドブックなど手引書を作成し、クラブレベルへ普及させるよう努力をして下さい。
- ③ケーススタディなどの訓練を進めてください。

④研修部会の新設。

新しく発足したRIJYECは、研修部会を持ちます。その部会が中心となり危機管理の普及活動に努める予定です。危機に対応できる能力こそが、青少年交換プログラムを守り育てることに他ならないと考えるからです。万一事件が起きた時の最高責任者はガバナーであることをくれぐれもお忘れ下さいませよう皆様方の一層のご理解とご支援を賜りたいと存じます。

最後に一つ皆様方にお願ひがあります。それは、2006年6月スウェーデン・マルメで開催されたRI理事会での決定事項「ガバナーエレクト又はノミニーは、地区青少年交換委員会に所属する事」を各地区で実行に移していただき、そして青少年交換委員長の背中を押しあげていただきたいこととあります。皆様方の“ああいいよ！それで行こう！”という言葉がどれほど若いリーダーを励ましてくれるかをお考え下さい。評判のよいパストガバナーになられんことをお祈りしながら、私の役目を終わらせていただきます。ご清聴ありがとうございました。

2.3 過去1年間のRIJYECの活動概要報告

2012.7.1 ガバナー懇談会

一部昨年と重複しますが、重ねて概要をお知らせします。

- | | |
|------------|--|
| 2011年3月11日 | 東日本大震災発生 |
| 12日 | 深夜、緊急避難として2760地区(愛知)がinbound学生を受入れを表明。 |
| 15日 | 帰国勧告 |
| 4月10日 | 緊急委員長会議(大阪市(大阪声明を全世界へ発信)) |
| 21日 | 関西4地区委員長会議(シェアの確認) |
| 23日 | 九州地区セミナー(シェアの確認) |

- 5月22日 ニューオリンズ国際大会プレコン報告(水野(吉)名古屋北RC)
- 6月4・5日 松山会議第16回RIJYEC研究会(諒解事項決まる)
→7月1日ガバナー会へ提出、承認
- 7月23・24日 全国委員長会議(危機管理と統一マニュアル作成の件)
- 8月2日 2530地区青少年交換21人オーストリアへ短期派遣
(両国政府後援事業)
- 9月4日 RIJYEC総会
- 11月12日 北海道東北ブロック委員長会議
- 2012年4月28・29日 第17回RIJYEC研究会 札幌会議
(留学のすすめ、ローテックスの結束)
- 5月3日 バンコク国際大会プレコンにて報告(斎藤理事長)
ジャパンナイト開催

*日本を当番制にしながら廻るのは、RIJYECの大きなテーマ「危機管理」を普及していきたいという目的があります。また、青少年交換統一マニュアルを作成し誰でも青少年交換委員長に就任できるよう準備をすすめています。

2.4 RIJYECからの報告 (バンコク国際大会)

2012.5.3 青少年プレコンベンション

皆さん、こんにちは。

齋藤直美といいます。日本から友人の山田さんと来ました。彼は私の通訳です。彼もロータリアンです。

昨年ニューオリンズ大会で、緊急報告をしました。今回はその第2報です。

この報告の栄誉を与えてくださいましたRIJYECの役員の皆様に感謝申し上げます。

それでは映像を中心にして、日本語で説明をすすめます。



この東日本大震災の混乱の中で、日本のロータリアンは世界の皆様方からお預かりしている生徒たちの安否確認と現状把握を、まず第一に行いました。

全員無事でした。傷一つ負っていませんでした。

RIJYECとして3月15日帰国勧告を出しました。

次に我々は、次年度の対策のため1か月後の4月10日に緊急大阪会議を開催しました。

「何人が母国に帰ったのか？」 153人中109人でした。

YE-Students in JAPAN	
since summer 2010	
Immediately after the earthquake	
Early departed	109/153
Stay on	44/153
Today now	
As of Mar.31.2011	
In Bound	88
Out Bound	133
As of Feb.29.2012	

OSAKA STATEMENT

1. Appreciate understand one way exchange for 2011-12
2. We welcome youth exchange student in safe area (No nuclear risk area)
3. Evacuation ready acceptance of exchange students
(To safe area first and send back immediately)

また、「危機管理の対応はどうだったのか」、「次年度はどうするか?」。激しい討論でした。「難しいから中止。」とか、「日本の安全な地区で替わって実施できないか?」等の様々な意見が出ました。

結論は、「日本へ来たいと希望する高校生を、日本全体で迎えよう」とするオールジャパンの考えでした。それが「大阪からの日本の声明」としてRI本部から発信されました。その結果、沢山の協力の申し出をいただきました。ありがとうございました。

あれから約1年2か月が過ぎました。この間、世界中から沢山の支援をいただきました。



被災後1か月には、ヨーロッパを中心とした、日本の復興を願う音楽家の皆さんのコンサート、小学生の励ましの絵画集、そして莫大な金額の支援金、とりわけOut-Boundの子供達の高校からの、その町からの支援金は、一つ一つに物語があり、涙ながらのお礼ばかりでした。この災害に遭い、日本人が取り返したものは日本人の良心であります。本当にありがとうございました。

最後に、皆様には是非ともお知らせしたい出来事があります。

それは、日本とオーストリアのロータリアン二人の、固い信頼に結ばれた20数年に及ぶ友情が両国外務省を動かし、両国外務省後援となったプログラムです。クリストフさん、近藤さん、御起立をお願いします。

オーストリア政府に招かれた福島県の21人の高校生の、夢のような夏休みの物語です。

この物語の成功のお蔭で、外務大臣招待レセプション列席という栄誉を受けました。その紹介はオーストリアの皆様におゆずりして、日本からの報告を終わりとします。





バンコク国際大会にて

2.5 「青少年交換一期生50周年記念誌」発刊に寄せて

2012.3.30

50年前、一人の日本の女子高生が、オーストラリアのロータリアンから留学生として温かく迎えられました。これをきっかけに、日本の高校生は世界へ飛び立ってゆきました。日本の歴史と文化を伝え、様々な平和大使としてその役割を果たしていただきました。それは、日本のロータリアンや派遣した高校生の予想をはるかに超えた成果となって、成長してゆきました。地区と地区との、誠実なロータリアンを窓口にした交換学生は、やがて社会人となり後輩達にその物語を語ってくれています。窓口となったロータリアンは、来日した高校生の結婚式へ出席のため、海外へ嬉しそうに自慢げに、奥様と飛び立ってゆきます。そんな楽しいプログラムだからこそ、応募者が増え個人の枠を超え、地区の委員会の手助けが必要となりました。日本人の特性ででしょうか、各地区の委員会の作業手順を均一にして、地区による準備の凸凹をなくしてゆきました。各地区に伝わる青少年交換委員のヒーロー達の手を離れ、膨大となった業務は委員会という組織へと流れ込まざるをえませんでした。

ガバナー会の中に設置されました青少年交換委員会は、10年余の役目を終え、NPO法人RIJYECへと進化しました。そのRIJYECの心

を、思いを強くしたものが、2011. 3. 11の惨事でした。青少年交換事業をオールジャパンとして取り組もうとする地区を超えた「絆」でした。海を越えた「絆」でした。東日本大震災後、直ちにオーストリアのロータリアンから、日本の高校生を夏休みだけでもオーストリアへいかがですか、とお誘いがありました。その御好意を実現させるために走り回ったのは、なんとローテックス（青少年交換学友）の人たちでした。50年前の温かい物語を知らない若いローテックス達にも、実は同じ思いが今もお脈々と受け継がれているのです。その熱意は、両国外務省後援事業となりました。

派遣一期生の皆さんが折に触れ語り部となっていていただいていることに、言葉では言えない感謝の気持ちでいっぱいです。皆様方の後を追って、10年毎の同期会が生まれることを祈っています。老いたりといえどロータリアンにはまだそれを応援する力は残っています。せいぜい御利用下さい。

50周年誌の発刊おめでとうございます。

RIJYEC理事長
齋藤直美(2760地区 豊田RC)

2.6 ロータリー雑感 ～ 青少年交換を中心に ～

2013.8.2 尾張旭RC卓話

新世代奉仕は、ロータリーの第5の奉仕となりました。呼称はともかくとして、青少年への関わりを深め次世代のリーダーとして育成しようという考えは、ロータリー創立の初期よりあったようです。1923年セントルイス国際大会においても、青少年奉仕委員会の設置が叫ばれたようです。1960年代に入り、国際ロータリーは新世代の為のプログラムを多く設けました。その中でも青少年交換は、各クラブに好意的に受け入れられ大きく発展してきました。日本では、青少年交換連絡事務所を米山財団内部に、ガバナー会の中に設置しました。2005年、RIは「青少年交換に関する行

動指針」を発表し、青少年交換プログラム実施にあたり学生の保護を厳しく求めてきました。①青少年交換委員会を法人化すること、②そして法人が保険に加入すること、③地区・クラブに危機管理委員会を設置すること。この3点をクリアしなければ、地区・クラブは青少年交換プログラムを実施できないとするものでした。日本では、34地区が一本化されクリアできました。2008年のことでした。

しかし、「危機管理委員会」というネーミングがロータリーにはなじまず、何をする委員会なのか各地区に浸透しませんでした。2010年度よりNPO法人国際ロータリー日本青少年交換委員会(RIJYEC)では、この普及のための3年計画を立て、実施を始めました。2010年春の、地区協のショック(アンケートにて危機管理委員会の認識“ゼロ”)を受けてのものです。

しかし普及活動の最中の2011年3月11日、東日本大震災が発生し、日本の青少年交換事業は大混乱に陥りました。受入れ学生の御両親、スポンサークラブより母国へ帰国させるようにという、強い要請が続きました。しかし地区とクラブとホストファミリーと本人と、連絡が取れません。2760地区青少年交換委員会では、「一時愛知へ避難させて下さい。愛知が引き受けます。全員でもよろしいです。」と日本全地区へ発信しました。その覚悟は岡田委員長のリーダーシップの下に、2760地区8分区分への振り当てまで検討されました。しかし実際には、ほとんどの学生が帰国してしまいました。それでも長崎、京都、大阪など数地区へ学生が一時避難しました。この時を境に、オールジャパンの考え方が生まれ、関西空港からの帰国、福岡港からフェリーによる釜山への避難など討議されました。そして次第に危機管理という意識が、日本ロータリーに浸透しました。

この大混乱の中で生まれた物語があります。

4月の緊急全国委員長会議(大阪)の最中に、一つの話題が流れまし

た。オーストリアのロータリーより、「福島の高校生を何人でもオーストリアで過ごし、癒しの夏休みにして下さい。滞在費は全てオーストリアのロータリーが負担します。」という招待でした。8月1日、豊田地区5RCで歓送会を開き、豊田に泊まり、翌日セントレア空港よりウィーンへ飛び立ちました。このプログラムは、外務省後援と格上げされ、外務大臣招待レセプションへ参加しました。今年の5月のピースフォーラム広島では、1963年オーストラリアに派遣された7人の皆さんが、元気に「50年を振り返って」と感想を述べて下さいました。パスポート・ビザ取得のため列車で福岡から上京したこと、オーストラリアではまだ反日感情が残っていて気遣いに苦労したこと、広々とした地平線のショックなど、報告していただきました。

こんな物語を作るのがロータリーではないでしょうか？ 仏、豪、カナダ、ブラジルでも同じ物語があるはずです。気が遠くなる程の時間とエネルギーが必要であり、しかも継続という作業が求められるからこそ、物語となるのでしょうか。ロータリーというのは、こんな政治の隙間、歴史の隙間を埋める作業を一人一人が出来ることから始める行為だと思います。とりわけ次世代を育てることは、私達ロータリアンが第一の柱にすべきプログラムだと考えます。

2.7 外務省レセプション招待の報告 (豊田5RC宛)

2012.3.9

拝啓 早春の候、ますますご健勝のこととお慶び申し上げます。いつもお世話になり、誠にありがとうございます。

さて、昨年8月1日、福島の被災地の高校生21人をオーストリアへ送る激励会を当地で開催しました。鈴木公平元市長をはじめ、豊田5ロータリークラブ会長幹事、関連委員及び地区青少年交換委員等々の皆さんにご参加いただきました。翌2日には、トヨタ自動車 村端秘書部長にご同乗いただき、大型バスでセントレア空港へ送り出しました。

子供たち21人は、オーストリアの3週間をマスコミに追い回されながら十二分に楽しんでできました。この青少年交換短期留学プログラムは、両国の外務省より復興支援事業として高く評価され、この度日本国外務大臣主催レセプションに招待されることになりました。たまたまこの時期、このポジションに座っていた小生はその御縁を大切にして、この栄誉を受けることになりました。

上記通知は、ガバナー会を通じ3月6日に小生に知らされましたので、皆様方にお知らせするのが遅れてしまい、申し訳ありませんでした。全国のロータリー青少年交換委員を代表して、3月12日夕刻、外務省のレセプションに列席させていただきます。これも皆様方のご協力の賜物と厚くお礼申し上げます、御報告といたします。

不順な天候が続く季節柄、ご自愛下さいますようお願い申し上げます。

敬具

平成24年3月9日

豊田ロータリークラブ 齋藤直美

2.8 外務省レセプション列席の報告 (「ロータリーの友」原稿)

2012.3.12

去る3月12日(月)玄葉光一郎外務大臣主催のレセプションに招待され、列席してまいりました。「東日本大震災発生後一年が経過する節目に、犠牲者を追悼し、国際社会に対する謝意を改めて表明するとともに、我が国の復興をアピールするため」の催しでありました。

具体的には、NPO法人国際ロータリー日本青少年交換委員会(RIJYEC)が、福島の被災地区の高校生21名を2011年8月2日から8月22日まで、オーストリアにロータリーの短期留学生として派遣しました。これは、オーストリアのロータリークラブ(RID1910/1920)から正式招聘を受け、RIJYEC主催、外務省、オーストリア連邦政府等後援の事業として実施したのですが、このプログラムを外務省から高く評価していただきました。



外務大臣 玄葉光一郎氏(当時)と

会場は、外務省飯倉別館でした。大広間の入り口周辺の壁面には、各国の子供達から送られた励ましの絵画が所狭しと張り出しており、眺めるうちに涙が出て仕方ありませんでした。会は、外務大臣の各国の援助への謝辞から始まりました。駐日大使130名を含む300人の出席者を前に、大臣の心を込めて気配りしながらのスピーチは素晴らしく、より勉強をさせてもらいました。続いて、福島県立安積黎明高校女子60名位の合唱が披露され、全国大会金賞受賞校として見事にハーモニーされた4曲に、一同聞き惚れていました。立食パーティー形式の食事会では、あちこちで名刺交換風景が見られました。招待のお礼を申し上げる小生に、外務大臣より、来年も宜しく続けてくださいと要請されました。各国、各種団体及び個人の支援は公表されることなく、淡々としたうちに閉会となりました。

日本では、ロータリーの実施するプログラムが国政レベルで評価されることが皆無に等しいと思われる昨今、今回の出来事は公共イメージの向上に役立ったと考えています。

2.9 RI 青少年交換委員会委員 責務

2013.8.28

2013～15年、国際ロータリー青少年交換委員会委員に就任。主な責務は下記文書の通り。RIの担当者Kate Hoeppel(ケイト・ホーペル)氏には大変お世話になった。彼女から頂いた恐竜化石のカットは今も良き思い出である。

齋藤様

このたびは、2013-14年度青少年交換委員会委員の役目をお引き受けいただき、誠にありがとうございました。私は、本委員会との連絡を担当しております職員、ケイト・ホーペルと申します。本日は、委員会に関する基本情報をお知らせ申し上げます。

責務内容

2013-14年度青少年交換委員会の責務内容は、以下の通りです：

本委員会は、青少年交換プログラムと関連する事柄について、理事会に助言を行うものとする。また、相互評価や自己評価のプロセス開発に関する意見など、青少年交換に関する事柄や提案について審査する。さらに、会長の指示の下、青少年交換役員大会前会議のプログラムの内容を立案し、計画を立てるものとする。本委員会は、理事会への提案を行う際に、RI戦略計画を念頭に入れるよう奨励されている。

上記でお分かりいただけるように、責務の中には、2014年青少年交換役員大会前会議、および、地区が現行の活動を見直し、改善する上で役立つ相互評価や自己評価のための資料作成の計画が具体的に盛り込まれています。全委員のリスト、および責務内容の資料を添付いたしましたので、ご参照ください。本委員会の連絡担当職員として、今年度にできる限りのお手伝いをさせていただきます。

第1回 委員会電話会議:2013年8月28日(水)

本委員会は、可能な通信手段を使って話し合いを行っていくことになります。このため、Eメールまたはそのほかの遠隔通信手段を用いることが奨励されております。職員として委員会をより良く支援できるよう、委員間の連絡の際には、極力、私にCCを付けていただければ幸いと存じます。

今年度1回目の電話会議の日程は、多数の委員のご希望により、8月28日(水)の以下の時間となりました。

8月28日 (水曜日)	シカゴ	ヒューストン	スラト	サンパウロ	フェニックス	ウィーン	東京
	8:00 AM*	8:00 AM*	6:00 AM	10:00 AM	6:00 AM	3:00 AM*	10:00 PM

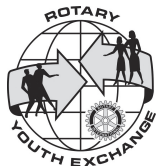
「*」の付いている都市は、夏時間です。

この会議では、日英の同時通訳が提供されます。この電話会議にご参加いただけるかどうか、また、ご参加いただける場合には、当方からかけることのできる電話番号をお知らせください（日本人通訳がお電話いたします）。

近日中に電話会議の議題資料を作成し、委員の皆さまにお送りする予定となっております。また、ご参考までに、2013年青少年交換役員大会前会議に出席した方々によるアンケート調査結果を基にした「Evaluation Report」、ならびに同大会前会議のプログラムも添付いたしますのでご参照ください。

ご質問などございましたら、私までご連絡ください。どうぞよろしくお願いいたします。

Kate Hoeppel (ケイト・ホーペル)



2013-14年度国際ロータリー青少年交換委員会メンバー

2013-14 Youth Exchange Committee

This committee shall advise the Board on matters related to the Rotary Youth Exchange program. It will review issues and suggestions related to Youth Exchange, including input on the development of peer review processes and self-evaluations. It shall, under the direction of the President, develop program content for and plan the Youth Exchange Officers Preconvention Meeting. The committee is encouraged to consider the RI Strategic Plan in its recommendations.

Chair: **Alan D. Wylie** (aerospace mgmt. retired) (Spouse: Gaye) U.S.A.
(Term ends: 30 Jun 2014)

Vice Chair: **Vikram B. Sanghani** (info. tech. services) (Spouse: Bina)
India (Term ends: 30 Jun 2014)

Members: **John M. Brodbeck** (machining) (Spouse: Marilee) U.S.A.
(Term ends: 30 Jun 2015)

James A. Landmann (grape production) (Spouse: Janet) Brazil
(Term ends: 30 Jun 2016)

Erwin Zeller (rubber industry) (Spouse: Ingrid) Austria
(Term ends: 30 Jun 2016)

Tadami Saito (orthopedics) (Spouse: Masako) Japan
(Term ends: 30 Jun 2015)

Liaison Director: **Seiji Kita**

2.10 RIJYECからの報告 (シドニー国際大会)

2014.6月 青少年プレコンベンション

2011年3月11日、私たちは日本列島の東北地方福島県の北東130Kmを震源とする、巨大地震に襲われました。さらに約1時間後、14～15m高の大津波に襲われた東京電力福島第一原子力発電所は、重大な原子力事故を引き起こしました。私たち日本は、福島は、かつて人類が経験したことのない二重三重の大被害に見舞われました。このニュースはたちどころに全世界を駆けめぐり、世界中から莫大な援助を私たちは頂戴いたしました。この詳細は2012年5月3日開催のバンコク国際大会のプレコンの席上発表させていただき、心からのお礼を申し上げました。

この不幸な出来事からわずか2週間もたたないある日、オーストリアのロータリアンからの一本の電話によって、原発被災地区の高校生21名が「オーストリアへ癒しの夏休み」へ招待され、8月2日に旅立ちました。このプログラムは、両国外務省後援事業として認定されました。この東日本大震災発生から2年6ヶ月の間に、世界各地各国からの同種の多数のプログラムが被災地へ寄せられていますが、関係する国の政府の公式後援事業は、このプロジェクト以外にはありません。8月22日、この高校生21名はオーストリアの2地区（1910、1920地区）のロータリアンから頂戴した友情のHospitalityを心に無事帰国しました。



この成功裏に終わったプログラムは、第2、第3の物語へと発展してきましたので、以下ご報告いたします。

それでは第2の物語です。

日本から派遣された高校生の中に「吉田昂城 よしだこうき」という男子生徒がいました。彼は帰国後駐日オーストリア大使館にお礼の訪問に行き、大使の前でお礼のピアノ演奏を披露したのです。その場に居た全員が、その演奏力に感動し、Bustle大使、福島のリョータリアン、オーストリアD1910、D1920のリョータリーとリョータリアンが中心となって、彼の夢「オーストリアでピアノの修業をしたい」を実現させてくれました。2013年9月、Rinzのブルックナー音楽大学に飛び級で入学します。さらに2014年春、ウィーン国立音楽大学に入学するそうです。

次に、第3の物語を紹介させてください。

大災害発生から2年6ヶ月が経過して、この大災害の記憶は日に日に日本人の記憶から消え去りつつあります。津波による被害をこうむった地域では、一部復興も見られるようになってきました。しかし、福島東京電力原発の放射能被害をこうむった地域は、何らあの3月11日と変わってはいません。放射能汚染にさらされ、故郷を追われ避難を強いられている人々…。故郷に帰れる見込みはまだありません。

私達はこの絶望的な現状、原発と放射能汚染にさらされた福島の大地を、このままにしておくことは出来ません。私たちは3月11日から今日まで何を経験し、何を学んだか、そして今後、福島の大地に何が起こり、放射能にさらされた人々、その子供達、子孫に何が起こるか、しっかりと目を据え、歴史の証人として将来に伝えていく義務があります。

福島のリョータリーの若き青年たちにその証人になって欲しいと思っています。世界の若者にも伝えていく、それが福島のリョータリーの青年の重要な役割であると思っています。そして、今回の福島とオーストリアとのリョータリー青少年短期交換がその理念の実践であり目的である、と私達は考えます。

今年の夏、オーストリアへのロータリー短期交換派遣学生として、8名の大学生を選びオーストリアに送りました。福島2530地区とオーストリア2地区との合同プロジェクトです。彼らの多くは医学生であり、自分たちの故郷福島がこうむった原発放射能被害の現状はどうか、そして今後福島の人々に、福島の社会にどのような影響を与えていくのか、オーストリアの若者にも伝え、原発ゼロを決めた国・オーストリアの若者と共に考えていきたい、というものです。

そして来年はオーストリアの若者たちが日本を訪問することになるでしょう。私たちは少なくとも5～6年の交換をする中で、この原発放射能汚染問題を統一テーマとして互いに研究し、5年後、あるいは6年後に、日本、オーストリア両国の若者たちにより、原発放射能汚染の研究結果報告フォーラムを福島で開催して欲しいと思っています。

オーストリアにはIAEAの国際本部があります。また福島にもIAEAの支部・ブランチが設置されつつあります。今回、オーストリアのロータリアンの力で、日本からの派遣学生は、このIAEAの国際本部を訪問しました。単なる福島・オーストリアの文化交流的な青少年の交換ではない、はっきりと目的を持った青少年短期交換が始まりつつあります。

まさに、福島・日本とオーストリアの青少年交換プロジェクト、そのエピソード3が始まり出したのです。そればかりではありません。2014年7月12日より約2週間オーストリアの大学生9名が福島へ来日します。エピソード4です。

このように青少年交換プログラムは次から次へと自己発展し、青少年奉仕やがては世界平和へつながる青年の輪を作ってゆくのです。

Eyes to find Justice

原文：近藤 眞道(RID2660高槻西RC)
校正：齋藤 直美(2014. 2. 7)

2.11 早期帰国など青少年交換の現状報告と課題

2015.5.16 第20回 国際ロータリー日本青少年交換研究会 富士の国会議

ご紹介いただきました齋藤でございます。

私に与えられたテーマは、「現状確認」であります。サブタイトルとして
—青少年交換におけるRIの方向性、早期帰国など現状報告と課題—
となっておりますが…。

私はRIの中枢部に出入りしているわけではありません。ここ2年、RI青少年交換委員として情報交換に参加しているだけの立場ですので、その辺を御理解下さいまして、お聞きいただければ幸いです。

2007年7月よりパストガバナーになりまして、以来今日まで青少年交換プログラムと関わってまいりました。

ここ2年間は、RI青少年交換委員6人のうちの1人として電話会議に参加していますが、昨年の夏以降、サンパウロ国際大会の前会議のテーマを巡って、やりとりが頻繁にありました。「セッションのテーマは？」「司会者は？」等々の打合せでした。

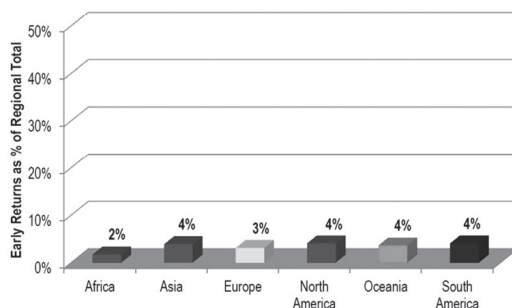
私はテーマ作りをするなら、「今、世界の青少年交換プログラムで何が問題なのか、そのうちの上位5ぐらいをピックアップしたらよいのでは？」と提案しました。すると、そのテーマ作りの基礎となるデータが出てまいりました。

1つは、ローレン・ライバンによる2012～2013年の青少年交換の実態調査であり、続いて、2014～2015年のアーウィン・ゼラーによるアンケート報告がそれであります。

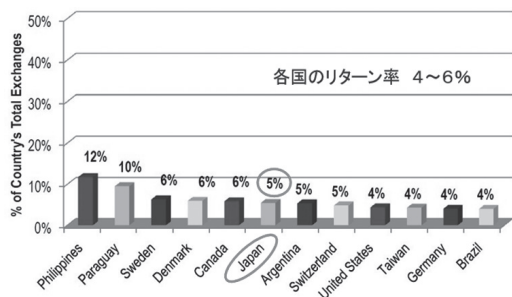
はじめにローレン・ライバンによる2012～2013年の報告から、話を進めさせていただきます。

2012～2013年には全世界で7600人余の交換学生がりましたが、4%の学生がearly-returnしています。地域別と国別に示しますと次の通りであります。

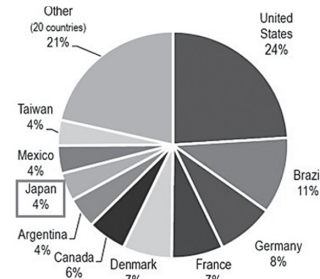
2012-13 Early Returns as Percent of Regional Totals



2012-2013 Early Returns as Percent of Country Totals



Early Returns by Country



Country	Early Returns Reported
United States	66
Brazil	30
Germany	22
France	20
Denmark	19
Canada	15
Argentina	12
Japan	11
Mexico	11
Taiwan	10
Other	59
ALL COUNTRIES	275

ローレン・ライバンによる2012～2013年の青少年交換の実態調査から

実数は275人ですが、うち11人は日本の学生で、日本の派遣学生の5%にあたります。これは由々しき問題で、原因の解明など急がれます。このような原因の背景はどのように考えればよいのでしょうか。次にこれにヒントを与えてくれるのが、アーウィン・ゼラーのアンケート調査(2014～2015年)であります。

この調査は、交換後の参加学生2000人が協力したアンケートの分析です。大きく3つの原因を指摘しています。

それによれば、原因の一番目は受入れ地区／クラブのカウンセラーによるサポートの欠如を挙げています。55%の学生が、この問題を指摘しています。

二番目には、受入れ学生が、留学先の**言語が障害**となって新しい友人もできず、地元の学校になじめず登校に意義を認めていないようです。

三番目の原因として、早期帰国した学生の半数が、**ホストファミリーとして不向きな家庭**があったことを挙げています。

この3つの主要な問題点は、日本でも長年、青少年交換に携わっている委員長さん達から、度々指摘されてきたことであり、全世界共通のテーマのようです。

さて、これ等諸問題に対処する為にRIで検討されていることが4点ほどあります。

1つ目は、青少年交換プログラムに関与するボランティアの方々の、**選考と審査の基準**を設けるというものです。

2つ目は、交換学生のあらゆる問題を支援する最低3名の**サポーター**を準備すること、そのサポーターは互いに無関係であり、ホストファミリークラブと親しくないことを条件にしているようです。

3つ目は、パートナー地区間の相互信頼の証としての、プログラム運営上の主要事項に関する**覚書の交換**です。これは、近年交換する地区が増えているようです。

最後に、**運営の一貫性**を図るために、後継者の育成計画を立て資質あるロータリアンから成る強力な**委員会を編成する**、というようなことが検討されているようです。そして今述べました4点は、いずれ具体的な指示として出てくると考えられます。

このように、様々な規制が生まれてくる可能性があります。それは1にも2にも青少年交換プログラムは、青少年達の安全を第一として遂行されるよう義務付けられていることに他ならないからです。学生達の志は高く、それを育てる必要がロータリーにはあるからです。青少年交換に参加した学生の40～50%は、ライラ・ローターアクト・インターアクトにも関心を示し参加しています。このボランティア志向・未来志向の強い青少年が

ループ(年間33万人)を大切に安全に育てる必要があります。そのために、「危機管理体制の強化」が求められ、これを担保する責任賠償保険へ加入することが必須条件であり、その為に地区・クラブの法人化、青少年奉仕部門の委員会が求められているようであり、その時期がいずれ来ると考えられます。こうなりますと、毎年、各地区毎にやっていると事務作業などが非常に繁雑となり、効率が悪いです。よって3～4地区まとめて多地区合同事業としたらどうか、という考えも出てきます。いかがでしょうか？

そろそろ時間となりました。最後に1つだけ追加しておきたいことがあります。先程にも少々申し上げましたが、青少年交換に参加した学生の40～50%が、インターアクト・ローターアクト・ライラに参加しています。アーウィンゼラーの調査によると、インターアクトには52%の学生が、ローターアクトは39%、ライラは53%の学生が参加しています。日本の調査のデータはありません。奉仕活動に参加したいという青少年交換学友(ローテックス)の声をよく耳にしますが、この声を育てるシステムが日本には無かったのですが、やっと東京に一般社団法人ローテックスとして受け皿が出来ました。また、この青少年奉仕の4部門が一つになって交流する研究会も、神戸で、東京で開催され、この新しい試みは大成功でした。これは、縦割りのRIの青少年奉仕のあり方に横串を通すクロスプロモーションとして、時代を先取りする動きと評価できると思います。今後、期待するところが大きいものです。

丁度時間となりました。テーマに合った話になったかどうか自信がありませんが、この後の分科会でさらに詳しく話を深めていただけるとしますので、御期待下さい。

ありがとうございました。終わります。

2.12 第11回ライラ(ロータリー青少年指導者養成プログラム) 研究会 挨拶

2019. 2. 4

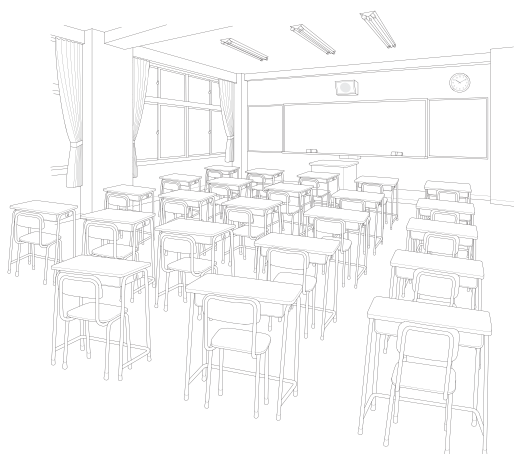
第11回ライラ研究会へようこそお集まり下さいましてありがとうございます。
心より歓迎申し上げます。

青少年問題につきましてはご存知のように、ロータリーは誕生の頃より次世代の育成に気をかけてまいりました。そのためロータリーの歴史に様々な新世代エピソードを提供してきたのであります。ライラは1971年RIの正式なプログラムとして採用され、そして各地でその地方の風俗習慣文化に地域のニーズを加味しながら、多種多様な形をとり発展してきました。その目的とするところは青少年のリーダーの育成でありますから、育成の方法論としての切り口が一律でないことが大きな発展の要因の一つになってきたかと考えます。日本に於いては、1975-76年度当時の第366地区(大阪和歌山)が初めて実施し、大成功をおさめたと伺っております。英語圏の国々でのライラは野外活動を中心として自己啓発プログラムが推奨されてきたようですが、日本では学校形式がプラスされた活動がすすめられたのであります。このように、特別な型式にとらわれることなくリーダーシップの学習が行われてきたのですが、この神戸の地に於いてライラは「ライラの心」つまり哲学が注入されプログラムが整理され、日本のライラのモデルとして教育的役割を果たしてきました。

また最近ロータリーでは「第5の奉仕」として青少年奉仕が取り上げられ、各々インターアクト(1962)、ローターアクト(1968)、青少年交換(1972)、ライラ(1971)の活動にさらに、財団奨学生、米山奨学生までにその対象を拡げています。そして、そこに参加する若者の保護育成に細心の注意を払うようになっていきます。そのために、個人情報管理から危機管理まで、従来では考えられない厳しい保護が求められるようになりました。このように見廻してみますとライラの目的とするものは、各々のプログラムと幾重にも

重なり、そこへ学ぼうと集う若者もオーバーラップしています。「志の高い若者」がリーダーとして育ってくれることを願うロータリーの「祈り」が透けてみえます。そのためでしょうか、このプログラムにかかる時間、費用、エネルギーがどんどん膨らんできているように思われます。実に好ましいことではありますが、それはそれで一つのネックとなって来るかと危惧されます。そうならないよう私達はプログラムを改善していく必要があります。そしてネックにならず、少しずつこの各々のプログラムが発展していくためには、例えば青少年奉仕サミットとしてまとめ、各地区の持ち回り制として一堂に会し、各々のプログラムを分科会として企画運営して、最後は各分科会報告を行って青少年奉仕活動をまとめる方向が好ましいと考えています。あくまでもこれは素人の私(試)案であります。

本日はライラを学び、青少年奉仕活動の今後の在り方も考える一日にしたいと考えます。



第 3 章

2016～2018年度

RI理事

第3章

RI理事

2016～2018年度

理事1年目(2016-17年度)は、ジョン・ジャーム会長のもとにロータリー財団100周年をアトランタで祝い、ロータリーの持つ無限の可能性を感じ、会長のリーダーシップに感動しました。また、2年目(2017-18年度)は、イアン・ライズリー会長のもとにロータリーの持つ多様性とそれを理解する思いやりを学ばせていただきました。

この2年間の理事会は、新たな「友情」と「発見」の自己啓発の場であり、このような機会を与えて下さいました皆様方に、心より厚く御礼申し上げます。

また、第45回ロータリー研究会およびアトランタ日本人親善朝食会の準備にご尽力くださった我が豊田RCのメンバーにも感謝申し上げます。

3.1 RI理事就任の報告(豊田RC宛)

2015.1.29

豊田 RC
パスト会長 各位

本日はわざわざ小生のRI理事就任に関する会議を開催していただき、恐縮しております。感謝申し上げます。

ガバナー就任の時も、ガバナー事務所スタッフとして多大なるご協力を頂戴いたしました。また、パストガバナーとなってからも様々な地区要請に迅速に対処、御協力をいただきました。これら一連の業績が高く評価され

RI理事に推薦された、と友人のバスターから聞きました。

今回のRI理事就任の件は、日本の34地区をまとめ、さらには世界537地区を相手とする重責であります。しかしながら、この職務は私個人の責任に帰するところが全てとなりますので、そのように対処する覚悟であります。願わくば、精神的支援とクラブ奉仕の一環としての御助力をお願いするものであります。

どうか本日はその辺りをお含み下さいまして、ご協議下さいますようお願い申し上げます。

草々

2015年1月29日

豊田RC 齋藤直美

3.2 理事に選出されて

2016.7月号「ロータリーの友」

理事ノミニーに選出された時、頭は茫として定まらず、サンパウロ大会にて理事エレクトとして壇上で紹介を受け、何故この場所に居るんだろうと考え込み、そして事の重大さに慄然としました。しかしその後、お二人の前任理事の後追いをしながら学び、やっと背筋が伸び始めました。ジョン・ジャームRI会長は、“Rotary Serving Humanity”という解り易く親しみのあるテーマを提唱して、世界のロータリアンにその実践を呼び掛けています。理事として、そのテーマをメンバーの皆様と一緒に頑張っていきたいと考えています。幸いなことに、各種ゾーンコーディネーターの方々そして地域別会員増強コーディネーターという優秀なスタッフがお見えます。この方々のお力添えをいただきながら、一生懸命務めさせていただきます。

今年の4月、シカゴ(米)で規定審議会が開催されましたが、決定された案件をよくよく読むに及んで頭痛のタネが一つ増えました。つまり「日本のロータリー100年」という大きな宿題があるのに、この案件は第一義的な

取り扱いをしなくてはならないと感じたからであります。「日本のロータリー100年」は元RI理事の北清治さんの御尽力で準備会も動き出しましたが、他方、審議会で採択された制定案は各地区代表議員の努力にもかかわらず、解釈をめぐる各该地区で混乱を招いていると耳にしています。これは可及的速やかに整理作業に入る必要があると思いますので、今回の地区代表議員の世話人をお務めいただいたPDG三木明さんを中心に4～5人のグループをお願いしてことを進めたいと考えています(地区代表議員の任期は今審議会決定で3年となりましたので)。そして11月に名古屋市で開催されます第45回ロータリー研究会でも検討を続けるよう、一つのセッションを設けさせていただきました。今回の制定案はロータリーの根幹を揺るがす事項が多々あります。是非とも各该地区で頻繁に検討会を開催していただきたいと思います。

次に、「日本のような大事な国は…」と何かにつけその動向が注視されている日本のロータリーは100年の区切りとしてその歴史を総括し、これからの100年を考える資料作りという重厚長大な作業が始まろうとしています。実に嬉しい限りです。

3つ目は“財団100周年の祝い”についてです。今年のソウル国際大会に始まり、来年(2017年6月)のアトランタ大会でフィナーレとしたいというジョン・ジャーム会長の意向を受け、地区・クラブでその祝賀キャンペーンを繰り広げていただきたいと思います。それがそのままロータリーデーと結びつき、ポリオ撲滅へ向けた私達の努力と成果を訴える場となれば、地域に定着し公共イメージの向上につながり、ロータリーのブランディングに多大な力を発揮してくれると期待できます。

最後に、「会員増強」とゾーンの再編成問題があります。日本はあくまでも日本で1つのロータリーであるために、ゾーンを削ってはなりません。3ゾーンを堅持する必要があります。そのためには、10万5千人のメンバーが日本に求められます。今回の規定審議会の各種制定案は、クラブ強化と会

員増強のための絶好のチャンスと理解していただいて、地域の実績に応じた柔軟な対応をしていただきたいと思います。

お願いばかりの多い年度になるかと思いますが、ご指導ご鞭撻のほどお願い申し上げます。

3.3 変化するロータリー ～ロータリーの向かうところ～

2016.9.30 RID2830地区指導者育成セミナー

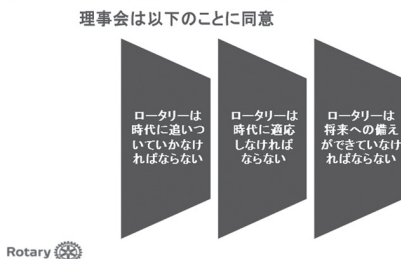
愛知・豊田RCの齋藤です。長嶺ガバナーより、「ロータリーの向かうところ」との宿題を頂きました。恐れていたタイトルです。原稿を書いたりして悩んでいたのですが、小山内さんの一言で肩の荷がスッとおりました。27日まで1週間、理事会の延長でアメリカに居て帰ってきたところです。時差ボケがまだ続いています。28日は70年ぶりの小学校の同級生が8人長野から来てランチをしまして、講演の原稿もそこそこで、ここに駆け付けた次第です。

青森には大勢の顔見知りのパストガバナーがいらしてホッとしています。鐘ヶ江さんは同期で、黒田元RI理事は、私が理事ノミニーの時に費用や英語力の事などをこっそり聞いたりしました。山崎さんはガバナーの時から存じ上げており、色々な方からお世話頂いています。そんな方の前でお話をするのは、「齋藤どうだ？」と面接試験を受けているようで、私としてはやりにくい地区です。RI会長代理として真ん中に座っているだけだと楽ですが…。私が理事になったときに、山崎さんに「齋藤さん、そのままがいいよ」と言われました。あまり勉強しない理事ですが、よろしくお願いします。

さて、村井さんが地区代表で規定審議会に出席する直前の2週間前に、実は戦略計画の最新情報が流れました。RIの指導者グループが本気になっている事がわかります。冒頭に「ロータリーがしかるべき運命を

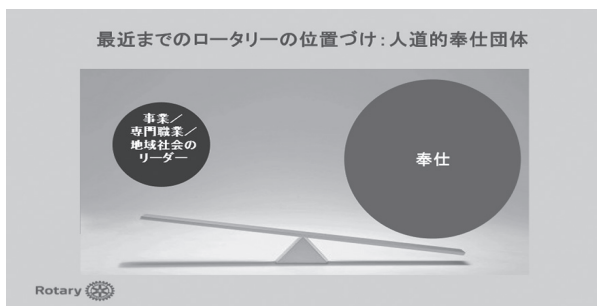
切り開くには、常に進化し、時には革命的にならなければなりません」(ロータリー創設者 ポール・ハリス)が出てきます。様々な変革が行われました。RI理事会の半年前(2015年10月)の決定事項です。

2015年10月の決定



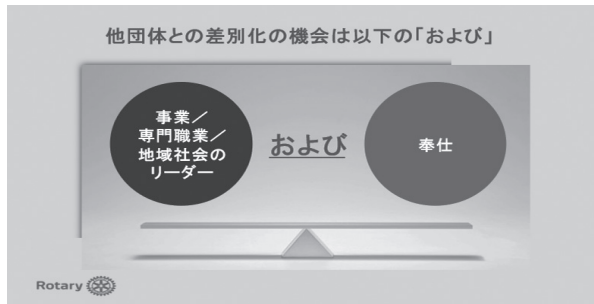
①ロータリーは時代に追いついていかなければならない…これにより同意して、②番目にロータリーは時代に適応しなければならぬ…これはDLPやCLPでした。③番目の、ロータリーは将来への備えができていなければならないは、戦略計画だと読ませていただきました。これらは、2016年の規定審議会で大きな変革を遂げる覚悟で準備していることがわかるのであります。

シーソーゲームのような図です。最近までのロータリーの位置づけは、人道的支援が重視されていました。



この力関係であったために、世界中のロータリーがくたびれ、破綻していくのではとロータリアンが気付いて、今度はバランスを変えようとしたの

でしょう。ここで大事なことは、僕が思うに、「平均で行きましょうね」は、実は村井さんが「もっと厳しくなった」と言っていましたが、柔軟性がある方が厳しいのです。人道的奉仕のみではなく、左側のロータリーの特性を有する活動がフィフティ・フィフティで行かなければならないのです。



日本のロータリーは、RIは職業奉仕をはったらかしにして人道的奉仕を…と言いましたが、彼らはキリスト教文化圏の中で、非常に倫理観が強く、職業に対する思い入れも強く、職業奉仕に厳しいのです。そうですからこのバランスで良かったのではなく、我々は我が身を律しなくてはならず、その上で人道的支援をやろうということに変わったのです。

ある女子大生が大学卒業と同時にマザーテレサの下へ行き、奉仕に参加させてほしいと申し出たら、マザーテレサは「お帰りなさい。あなたの周りに助けを求めている人はたくさんいる」と言ったそうです。作り話かもしれませんが、そんなエピソードもあります。これがロータリーの原点で、本質であろうと考えます。「誰でも力になれる、自分にできることから始めましょう」という言葉で結ばれていて、ここまでが昨年10月に検討されたことです。

私はサラリーマン時代、よく引っ越しをしていたので、ロータリアンになってからも資料を片っ端から捨てていましたが、ある時1985年の「ロータリーの友」6月号が残っていて出てきました。その中に「次期事務総長フィリップ・リンジー氏に聞く」との記事があり「組織がどんなに大きくなっても、

ロータリーの事業のいくつかが世界規模になっても…、ロータリークラブは地域社会を基盤とする奉仕団体でありますから、实际的活動は公共的ですがロータリー自体はむしろ個人的でプライベートなものというべきでしょう」とありました。これって、僕らが30年前に言われたロータリーの神髄であると思います。そんな親父の姿を見て、従業員が育っていく、倫理観の強い人が出てくるのだと思います。私は79年にロータリーに入れて頂いたその時、これがバックボーンだったような気がします。

当時、私は委員会活動も行われず、昼飯を食べるだけのロータリーを辞めようと思ったことも何度ありました。豊田と岡崎を流れる矢作川という川があります。蜂須賀小六が秀吉を叩き起こしたという逸話がある橋が架かっている川です。僕らの町はこの上流で、矢作川の清掃をJCやライオンズ、RCが行います。豊田に4つのロータリークラブがあり、うちのクラブは参加しないので、私は聞いたことがあります。その時、「ロータリーはそんなことはしない、ごみを捨てない人を育てる」と言われ、納得した記憶があります。当時は人づくりにウエイトがありました。むしろ個人的でプライベートな活動であった、またここへ戻ってきていると、今回の規定審議会ではそんな感想を持っています。

主な採択です。村井さんがお話になって、山崎さんも戦略計画で詳しくお話になりました。

2016年規定審議会にて採択された主たる制定案

- ・ 制定案 16-21号（例会運営と出席に柔軟性を与える）
- ・ 制定案 16-36号（会員資格に柔軟性を認める）
- ・ 制定案 16-7号（「入会金」という語句がRI細則、クラブ定款から削除。しかしクラブの裁量で入会費に関する規定をクラブ細則に加えれば徴収できる）

21号と36号が、規定審議会で話される前に臨時のR I理事会が開かれ、(理事エレクトの) 私たちに傍聴するようにとの連絡がありました。理事会では会費の値上げと共に、どう扱い通過させるかとの事でした。この21号と36号に対し、前の理事会の17人が、この案件が通るようならロータリーではないと、当時のジョン・ジャーム会長エレクトやラビンドラン会長が言っていました。日本でもこれが通るなら価値観が打ち碎かれる、と言っていたので、この発言は嬉しかったです。

会費を上げる過程で、よく日本には発言権がないと言いますが、事前に日本はどうかと連絡があり、日本の意見の動向を気にしていることを感じました。

今回の規定審議会は思ったよりも私は良い規定審議会だったと感じ、本部の姿勢がわかったと思います。なぜ、柔軟性が出てきたのか、

- ① 世界のロータリーの変化は理事会・事務局の予想をはるかに超えて動いている。世界の変化を日本も意外と感じていないので対応が遅れている。イスラム教、キリスト教、仏教、ヒンズー教等、一定のルールに収まらない。
- ② 世界のロータリーの画一的運営はほころんでいる。
タイの理事が怒っていました。インドネシアへR I会長代理で行ったら、インドネシアのクラブでは大切に扱ってくれない。言葉が違う、宗教が違うからと、彼は怒っていましたがそれは無理だと思います。同じやり方では無理なのです。
- ③ 地域・地区のクラブの運営裁量権が少しずつ拡大されてきた(組織維持のため)。日本のパストガバナーはびっくりすると思いますが、中南米では2、3カ月も例会をしていないところも沢山あるそうです。柔軟性が認められ、グアテマラの理事が大喜びしていました。例会の在り方、出席率は崩れていたのも、それが通ったので地区に帰れると。

では、地区やクラブはどうしたらよいのでしょうか。山崎さんが親切丁寧

に話をしました。

- ①今まで通りにやる
- ②クラブ戦略計画の徹底。クラブビジョンを作っていく。これをやらないとクラブは死んでいきます。長嶺ガバナー方針にもあります。RI会長賞にチャレンジして下さい。それをする事で姿がはっきりしてきます。
- ③COLの活用(柔軟なクラブ運営)。COL2016を活用しようよ、自分のクラブを柔軟にしないと生き返りません。

まとめとして、「ロータリーの運営に柔軟性が認められました。クラブを強くする絶好のチャンスです。元気な会員の集まるクラブを目指しましょう。」人道的支援と言っても自分の事業活動の中で時間を作って参加する、日常的なことは自分の周りです。戦略計画の中の大事な質問で「あなたはなぜロータリーを続けているのですか？あなたのロータリークラブはあなたの町でどんな評価をされていますか？」とのとても厳しい質問があります。ですから、戦略計画を持ち込み、我が身を正さなければ進めないと思います。

たしか岩手と青森の県境で青少年交換を一生懸命やっている小さな町が、挙って生徒を迎え入れています。そのクラブのホームページには、「ロータリーとはなんですか？」とあり、「自分の暮らしや町をよくする人たちの活動です」とあります。

以前、ロータリーとはこうですとロータリーの思想を広めようとトップを走っていたロータリー哲学の先進地区は青森でした。そんな歴史があることを肝に銘じて下さい。明日もあります。酒を飲みながらも自分の町を挙げてどうしようか話し合ひましょう。御清聴ありがとうございました。

2016年9月30日

豊田RC 斎藤 直美

3.4 RID2830地区大会 RI会長代理挨拶並びに現況報告

2016.9.30

皆様改めまして、こんにちは。本日ここに、長嶺康廣ガバナーご指導のもとRID2830地区大会が盛大に開催されますこと、誠におめでとうございます。ホストクラブ会長をはじめ、久保田実行委員長、ホストクラブの会員の皆様、ご苦勞様でした。

ジョン・ジャーム会長は、私にRI第2830地区大会へ会長代理として出席しご挨拶するよう命じられました。今年度のテーマ“Rotary Serving Humanity”は3語からなる、わかりやすい、明快にして説得力のあるフレーズと受け止め、奉仕活動に増強活動に世界中のロータリアンが取り組み励んでいます。

RI会長のクラブ戦略計画を推し進め、会長賞にチャレンジをとの方針、それをそのまま長嶺ガバナーが地区方針としたことをジョン・ジャーム会長に伝えたいです。

ジョン・ジャーム会長はテネシー大学に入学、苦学して卒業後空軍に入り、ナビゲータとして務め、除隊後にエンジニアリングの会社の面接の時に、10年後にはこの会社の共同経営者になる、と言ったそうです。38歳でRCに入会、その時JCのメンバーで会長まで務めていたそうです。JCで献血運動の柱となり、50歳の時にリサイクル工場を建設し、障害のある方を雇用し、野球場やその他多くの施設を作り、市には無くてはならない人となったそうです。

ジョン・ジャーム会長の目標は、ポリオ撲滅の後のターゲットにロータリーの会員基盤に焦点を当てることでした。今年4月に規定審議会が開かれました。全世界540地区より1人の代表議員とRI役員など含め約700人が一堂に会し、5日間に亘り180余の案件の検討を行いました。採択された案件を拝見しますと、長年ロータリーが培ってまいりました大切なルールが改訂されました。クラブ運営に柔軟性をもたせ、会員資格にも多

様性を認め、クラブの裁量権を拡大しました。若い人、お母様方、地域のボランティアなどの入会を促しています。超高齢化社会に入った日本のロータリーの課題への問題提起だと思います。

先程、長嶺ガバナーはこれから後どうなるか?とおっしゃっておられましたが、例会出席などが柔軟になると、子育てや仕事で忙しい30代の人が入りやすいように、例えばローターアクトもロータリアンになれるようにと、今回の規定審議会では様々な制定案が採択されました。その中には日本のロータリークラブの皆様には馴染まないような事もありますが、若い人、新しい人を入れるチャンスです。規定審議会の後、本日参加の京都の坂本パストガバナーと、弱っているロータリークラブを立て直すチャンスだと話しました。

来年、ロータリー財団は100周年です。財団100周年記念事業はソウルの国際大会から始まり、世界中でその祝賀行事を様々な工夫を凝らしながら地域の人々と共に展開しております。そしてそのお祝いのフィナーレはアトランタ国際大会です。盛大に祝おうと計画されております。来年のアトランタ国際大会へは是非ともご参加下さいますようお願い申し上げます。しばらく行われていなかった、初日の日本人親善朝食会も復活したいと考えています。そして、地区やクラブで開催するイベントには、財団100周年やポリオ撲滅などの冠を付けて行って頂きたいです。

次に、9月のRI理事会の議題です。

- ① COLとクラブ戦略について
- ② 青少年保護について、2003年以降トラブルが増えています。私はパストガバナーになると、青少年交換プログラムにかかわり、保護の為の案件に取り組んできましたので、「理事会で取り上げるのは如何なものか?ガイドラインは持っているはずだ」と言ったら、日本は進んでいるが、他の国では遅れているとの事でした。
- ③ また、ポリオ撲滅まで“あと少し”で終わりだとの雰囲気ですが、今年に

入り野生株による発生が2例報告されました。撲滅まで決して手をゆるめてはならないという警告だと思います。

- ④ ガバナーノミニーの研修が始まります。現在ガバナーエレクトの研修(GETS)がありますが、まもなくガバナーノミニーの研修が始まります。
- ⑤ 組織やプログラムのシンプルさ単純さを考えて、といっています。順調に流れているか、一度立ち止まって考えてみるということが始まっています。RI自体も戦略計画を考えるように、とのことでした。

会員減少があるのはガバナーが動かないためではないとか、アルゼンチンやパラグアイなどの国名が挙げられ、またパレスチナとの文言が入ったロータリークラブがあるのはおかしいとか、また、南米の4000km離れた地区を統合する?と話題になり4000kmと言ったら日本を往復する距離です。ヨーロッパの方があきれ果てていました。

理事会では、グループ討論があります。個人の力量が試されます。ロータリーの価値は何ですか?ロータリーのメリットは?新しいクラブはどんなクラブ?とか。COLについては昨日山崎さんが話をされましたが、そんな討論を6人3組でやっています。日本にいとそんな情報が入ってきませんが、現場へ行ってわかったこともあります。これからもおしゃべりをしながら皆様に伝えていきたいと思っています。

4月の規定審議会でいろいろなことが変わり、ソウルの国際大会の時にラビンドラン会長が最後の挨拶で、ロータリーは変わった、と言いました。長嶺ガバナーもおっしゃいましたが、戦略計画を取り入れる、入れないでクラブの差が出てくると思います。戦略計画は特別なことではありません。ロータリークラブを俺の町でどうしていくか?3代に渡り語り合っていくことです。同じ町にあっても異なることをやる。青少年交換をやるクラブ、母子の健康に重点を置く、それぞれのクラブで何をやるか立案し、クラブを特化する。これが戦略計画です。クラブ全員で楽しいクラブ作りを、戦

略計画に取り入れて下さい。

私達のロータリー活動の原点は、私たちの回りにあるごくありふれた地域の問題を取り上げ、よりよく解決していくところにあるのではないのでしょうか。そしてロータリーを伝え、ロータリーを知ってもらい、仲間に加わってもらいましょう。この一連の作業は戦略計画と称され、クラブ会長を中心にエレクト、ノミニーに参加してもらい継続しなければなりません。自分の町のテーマを探し、地道に取り組みたいものです。

一緒に同じ方向へ進むロータリークラブ、明るく元気なロータリークラブを作りましょう。

最後に重ねて、地区大会開催まことにおめでとうございます。

3.5 第45回ロータリー研究会にける期待

2016.11.21「中部経済新聞」

- ①. 様々な誤解が和らぐ場
 - ②. 「ロータリーが大きく変化しはじめた」と認識してもらう
 - ③. 次に自分の街で地域でこんなクラブを作ろうと力を与えられる場
 - ④. 若者や女性にも参加しやすいロータリー
- ①～④あれど②が中心

第45回ロータリー研究会が東京を離れ名古屋で開催されます。679人という記録的な登録を頂戴しましたことに感激して唯々感謝申し上げます。

中央から地方開催へというものの珍しさもあるかと存じますが、私は今年4月にシカゴ(アメリカ)で開催されました規定審議会(ロータリーの立法制定会議)にて採択されました制定案に、鋭く反応を示された日本のシニアリーダーの感性の賜物と思っています。

これに対して会長はどんな言及をされるのだろうか? 地区代表議員はどのようにまとめた作業を発表してくれるのだろうか? と大きな関心を寄せています。できることなら新しいクラブ作りの指針を、元気な強いクラブ作りの方策を提案してくれないだろうか? と期待しています。

次に多種多様な奉仕活動の報告に基づいて、クラブの実践活動計画のアドバイスにならないかと期待するものです。長年継続して取り組んできた活動は必ずや自分の町のためになる計画づくりに役立つはずです。

最後に本研究会は「日本のロータリー100年(1920年誕生)」の歴史のまとめと、「これからの100年」を検討作業中の特別委員から2020年東京オリンピック・パラリンピックの協力支援と絡ませて中間報告がありますので、日本のロータリアンにすばらしい夢ある計画が発信できると思います。

3.6 第45回 ロータリー研究会 招集者挨拶

2016.11.30 開会式

おはようございます！

ようこそ名古屋へお越しくださいました！そして、ようこそ第45回ロータリー研究会へご参加下さいました。全国から多数のリーダーの皆様方にご登録をいただきまして厚くお礼を申し上げます。11月26日までに678名のご登録をいただきました。これは驚くべき数字でありまして、唯々感激しており感謝申し上げます。

今回のロータリー研究会は、ジョンジャーム会長より大きな宿題“Rotary Serving Humanity”というテーマをいただきましたが、これを反映させるプログラムに仕上げたつもりであります。ソウル国際大会の席上、ジョンジャーム会長はロータリーの潮目が変わったとつぶやかれました。4月のCOLを受けてのものと私は勝手に解釈しております。つまり今年は「ロータリーの歴史110年の転換の年」と、後日ロータリーの歴史家たちに語られると思っています。ですから、今回の研究会は、例年にも増して襟を正すべき研究会と捉えられるかと存じます。これからの100年を各クラブが考えご指導されるリーダーの皆様方の参考に、少しはお役に立てないかと企画したつもりです。

次に、日本のロータリー100周年に向けてのテーマが次第に現実味を帯びてまいりました。幸いなことにその準備会が動き出しています。是非、皆様と共にその日を楽しく迎えたいものです。

明日の第3、第4セッションは、我々日本のロータリアンが誇れる奉仕活動の実績報告であります。世界のロータリーは「世界でいいことをしよう」を合言葉に、地域で奉仕活動に汗しております。職業分類、多様性、中核的価値観、そして柔軟性とロータリーのロータリーたるゆえんを崩すことなく、この奉仕活動に取り組みたいと思います。朝から駄弁を浪しました。どうか二日間宜しく願いして挨拶といたします。



第45回 ロータリー研究会プログラム

2016-17年度 国際ロータリーゾーン1. 2. 3

第45回 ロータリー研究会 プログラム

開催場所：ウェスティンナゴヤキャッスル2階

第1日目 ロータリー研究会 2016年11月30日(水)

司会進行 実行委員会副委員長 江崎 柳節 (小 牧)

07:30～09:00 登 録 ロータリー研究会 (2階ロビー)

09:00～10:10 開 会 式

点 鐘	RI 理事	斎藤 直美 (豊 田)
国歌斉唱 (アメリカ・日本)		
開会の言葉	実行委員会顧問	石川 和昌 (豊 橋)
招集者挨拶ならびに来賓紹介	RI 理事	斎藤 直美 (豊 田)
挨 拶	RI 会長	John F. Germ (チャタヌーガ)
挨 拶	TRF 管理委員長代理	北 清治 (浦和東)
RI 理事会近況報告	RI 理事	斎藤 直美 (豊 田)
RI の5カ年財務見通し計画	RI 理事	斎藤 直美 (豊 田)
ロータリー財団近況報告	TRF 管理委員長代理	北 清治 (浦和東)
ポリオ・プラスの現状報告	RI ポリオ委員会委員	小沢 一彦 (横須賀)
RI 会長ノミニー指名委員会報告	RI 会長ノミニー指名委員	小沢 一彦 (横須賀)

アトランタ国際大会のご案内

2017年アトランタ国際大会推進コーディネーター 辰野 克彦 (東京西)

10:10～10:20 休 憩

10:10～16:00 パートナーのためのプログラム ～名古屋城本丸御殿と徳川園・美術館を訪ねて～
 10:10 集合場所 銀の間 10:15 出発 16:00 ホテル着予定

SAA, PDG 豊島 徳三 (一宮北)

10:20～11:50 各種報告・RI 委員紹介

ロータリー日本財団報告	副理事長	渡辺 好政 (児 島)
ロータリー米山記念奨学会報告	理事長	小沢 一彦 (横須賀)
ロータリーの友報告	委員長	清水 良夫 (横 浜)
ロータリー文庫運営委員会報告	副委員長	大塚 信郎 (上 尾)
ロータリー日本100年史編集委員会報告	委員長	神崎 正陳 (茅ヶ崎湘南)
日本のロータリー100周年委員会報告	委員長	北 清治 (浦和東)
日韓親善会議報告	第14回日韓親善会議実行委員長	市川伊三夫 (東京銀座)
日台親善会議報告	総 裁	板橋 敏雄 (足利東)
2016年規定審議会報告	地区代表議員	三木 明 (姫 路)
国際ロータリーおよびロータリー財団委員紹介	RI 理事	斎藤 直美 (豊 田)

11:50～13:00 昼 食 (天守北・青雲の間)

13:00～13:10 ロータリーモーメント (心に残るロータリー体験)

田口 絢子 (盛岡北)



13:10～13:40 基調講演

「ROTARY SERVING HUMANITY」～人類に奉仕するロータリー～

RI 会長 John F. Germ (チャタヌーガ)

13:40～14:10 特別報告 「ロータリー財団100周年記念」

日本ロータリー学友会：財団100周年記念シンポジウム報告

シンポジウム実行委員長 田中栄次郎 (東京)
副委員長 高木 直之 (かながわ湘南)
副委員長 柚木 裕子 (かながわ湘南)
RRFC 竹腰 兼壽 (岐阜南)

財団100周年を祝って

14:10～15:20 第1セッション 「日本のロータリー 100 周年に向けて」

モデレーター	日本のロータリー100周年委員会委員長	北 清治 (浦和東)
パネリスト	ビジョン策定特別委員会委員長	本田 博己 (前 橋)
"	記念式典等特別委員会委員長	鈴木 喬 (東京江北)
"	組織連携特別委員会委員長	水野 功 (東京飛火野)
"	ロータリー日本100年史編集委員会副委員長	安平 和彦 (姫 路)

15:20～15:40 休 憩

15:40～17:30 第2セッション 「これからのロータリーを考えるー規定審議会より見えるものー」

モデレーター 規定審議会と戦略計画の位置づけ

2016年規定審議会代表議員世話人代表 三木 明 (姫 路)

パネリスト 審議会のトピックスと重要案件

「例会の柔軟性の導入と E クラブの抹消」

柔軟性の導入がクラブの革新をもたらすのか？

「16-36、38、40 会員身分」(ローター・アクター、学友、準会員、家族会員、法人会員、会費等)
柔軟性への取り組みに関する提言

2007年・2010年規定審議会代表議員 小船井修一 (釧 路)

審議会のトピックスと重要案件

「第五奉仕部門の否決と職業分類の維持」

柔軟性の導入がクラブの革新をもたらすのか？

「16-99 人頭分担金」柔軟性への取り組みに関する提言

2016年規定審議会代表議員 曾我 隆一 (前 橋)

2016 年規定審議会の意義

「審議会の結果を踏まえて」

柔軟性の導入がクラブの革新をもたらすのか？

「16-07 入会金」

入会金に関する見解の表明

新クラブ設立目標の設定、課題を抱えているクラブの運営刷新

2016年規定審議会代表議員 横山 守雄 (大阪中央)

審議会のトピックスと重要案件

「一票差の奇跡」

日本のロータリーのあり方、あるべき姿

2016年規定審議会代表議員 岡部 快園 (名古屋大須)

17:30～17:40 諸事お知らせ

SAA、PDG 岡部 快園 (名古屋大須)



第45回 ロータリー研究会プログラム

18:30～21:00	希望晩餐会	(天守北)	
	司会進行	実行委員会 DGN	村井總一郎 (豊 橋)
開会の言葉		DG	服部 良男 (岡 崎)
挨 拶		元RI会長	田中 作次 (八 潮)
乾 杯		元RI会長	黄 其 光 (台 北)
閉会の言葉		DGE	神野 重行 (名古屋駅)

第 2 日 目 ロータリー研究会 2016 年 12 月 1 日 (木) (天守南)

司会進行 実行委員会副委員長 千田 毅 (名古屋東)

09:00～09:10	ロータリーモーメント (心に残るロータリー体験)	川口 豊 (中部名古屋みらい)
-------------	--------------------------	-----------------

09:10～10:30	第3セッション 「一あれから5年一東日本大震災の支援活動と提言」	
モデレーター	PDG	千田 毅 (名古屋東)
"	PDG	小野寺則雄 (二 戸)
被災高校生支援委員長		本多 満 (名古屋東)
元奨学生		田代 優仁
"		高木 桜子
パネリスト	DG	濱守 豊秋 (大船渡西)
"	PDG	小野寺則雄 (二 戸)
"	PDG	桑原 茂 (塩 釜)
"	PDG	菅原 裕典 (仙台泉)
"	PAG	黒田 勝基 (高 浜)

10:30～10:40	休 憩	
-------------	-----	--

10:40～12:00	第4セッション 「地域と共に」 34地区実践報告	
モデレーター	PDG	高野孫左エ門 (甲 府)
パネリスト		「千本桜植樹」と心の伝承 ～千本桜植樹が生み出したもの～
"	PDG	鐘ヶ江義光 (八戸東)
"		拡がる「交換学生スキーマの集い」を支えるクラブの活力
"	PAG	石田 弘行 (白 馬)
"		地域社会を巻き込んでの「シチメンソウ」保護育成
"	DGE	駒井 英基 (佐賀南)

12:00～13:00	昼 食	(天守北・青雲の間)
-------------	-----	------------

13:00～14:10	ロータリー財団100周年記念 特別講演 「世界を照らすLED」	
-------------	---------------------------------	--

ノーベル物理学賞受賞 名古屋大学教授 天野 浩 氏

14:10～15:10	オープン・フォーラム	
-------------	------------	--

RI会長 John F. Germ (チャタヌーガ)
TRF管理委員長代理 北 清治 (浦和東)
RI理事 斎藤 直美 (豊 田)

15:10～15:30	閉 会 式	
-------------	-------	--

閉会の挨拶 RI理事 斎藤 直美 (豊 田)
次年度開催の御案内 RI理事エレクト 石黒 慶一 (鶴岡西)
点 鐘 RI理事 斎藤 直美 (豊 田)

3.7 第45回 ロータリー研究会 閉会式挨拶

2016.12.1 閉会式

本当に長丁場、ありがとうございました。感謝申し上げます。皆さんに背中を押されて4日間何とか踏ん張ってきました。やっと閉会のあいさつをできる状態にこぎ着けました。厚く御礼申し上げます。

このプログラムを終了するに当たりまして、もちろん関係諸兄のご協力の賜物と申し上げるのですが、一番心掛けたことは、今年の研究会は4月のCOLの制定案を受けて、そういう研究会でありましたから、かなり注目度の高い、そういう研究会にしていきたいな、そうさせたいなというふうに思って参ったのでございます。特に、この制定案の問題を柱に据えながら、法律家でもあるまいし、原理原則の研究の場、討論の場としてはならないだろう、と。

片方では、やはり奉仕活動を一生懸命しているクラブもございます。そして、そういうクラブから離れて個人で奉仕活動をやっている大勢の人を私も知っております。そういう人たちにやはり出ていただきたい、仲間として知ってほしいという思いもございました。

3つ目は、ただ今ちょっと触れましたが、大震災の問題がだんだん記事として減ってきております。それはやっぱり良くないと。あんなに一生懸命やった、日本人の精神構造まで変えてしまったあの出来事を、どんどん私たちは後世へ伝えていく義務があるんじゃないだろうか、そんなふうにして企画させていただきました。

皆さんリーダーですから、これからの日本のロータリーの100年がどうなるんだろうというテーマが実は残ります。ちょうど折しも東京にロータリークラブができて100年になるわけですがけれども、それを記念しながら、来し方100年を振り返りながらそれを記録として残していく。それもまた一つの大きなロータリー研究会の柱ではなかろうか。こんなに色々あれやこれや考えて進めて参ったつもりです。

そういうものがうまく反映される研究会であったかどうか全く自信がありません。ただ、一つ自信があることは、これを支えてくれた、黒子に徹してくれた、わが豊田ロータリークラブの皆さんのお力に大変感謝申し上げます。

以上で閉会の挨拶とさせていただきます。ありがとうございました。



希望晩餐会にて



3.8 これからの国際ロータリーの目指すところ

～ ロータリーの潮目が変わった ～

2017.3.4 西三河中分区IM

豊田ロータリークラブの齋藤直美でございます。この時期になりますと、全国一斉にIMが開催されます。ガバナー補佐さんが一生懸命に準備されてきた研修と親睦の場であります。私は一年ぐらい前からすでにガバナー補佐の小島さんに「この日は空けておくように」と要請されていました。

古い話ですが、ガバナーエレクトだった10年位前に、IMが中断ないし中止する危機がありました。そこで34地区のガバナー事務所にアンケートをとりました。「来年もIMを開催しますか?」と。すると全部返事が来ました。「IMを止めるとは何事か!IMは日本ロータリーの文化である」、「その地域のロータリアンの交流の場であると同時に研修会の場である」と。ガバナーになる僕は安心しました。自信となりました。

愛知8分区全部、IMは開催され、その全部に私は藤井地区幹事と出席しました。とても楽しかったです。東三河分区(豊橋、新城、田原地域)では、我がクラブ自慢を延々とやりました。11クラブですから3時間です。笑いあふれたクラブ自慢でした。

今日は後半に親睦の時間が取られているようで、前半は私が野暮な研修部分を受け持ちます。それでせっかくの与えられた時間ですので、大事な事、皆さんがエッ?!と言うような事をお伝えしようと思います。

それは「ロータリーが変わった」という事です。「毎月普通どおり例会をやっているじゃん!」と皆さんは言うでしょう。その通りです。元気の良い愛知、それも西三河中分区は、淡々とロータリー活動を続けています。豊田ロータリーは6人も新会員が増えました。他の分区、地区では信じられない事です。今日本では、あらゆる事に二極化が起きています。会員の減少をどこかのクラブが増強してトータルで同じ会員数となっています。あとでその表をお見せしますが、ロータリーは変わっていく方向へ進んでいま

す。変化しつつあります。ここからはガバナーの服部さんの方がこの解説は適任と存じますが、立場上続けます。

何年か後に私たちの後輩ロータリアンが「2016年の規定審議회를境に、ロータリーが変化した」と位置づけてくれる年が昨年であります。それを確認するために、ジョン・ジャーム会長の昨年のソウル大会の閉会式でのスピーチを紹介させていただきます。これはスピーチの後半部分を曾我隆一パストガバナーが訳されたものです。それを紹介させていただきながら、これからのロータリーは大きく変わってゆくだろうと、いやむしろ、変わってゆかねばならないと思い、こんな大それたタイトルとさせていただきました。

ジョン・ジャーム会長は冒頭に「皆さん、私たちは今、歴史的な時代に入りました」と切り出し、「私たちは、変化の必要性と、より柔軟性を取り入れるべきです」と言われました。この二つの文章より「ロータリーは新しい時代に入りました」と断言しています。

続いて、「今回、ロータリーは次の世紀での在り方・方向性を示しています。従って、私たちは、ロータリーそのものの組織の歴史を最も進化させる段階に入ってまいりました。つまり、ロータリークラブも会員も今後どう臨むべきかを問う機会でもあります。また、同時に何をもって核として残すべきか問う時」と述べ、「ロータリーの次の世紀の在り方は何か？」「核として残すべきものは何か？」と私達に問いかけています。そして、やはり「職業分類の原則による多様性」、「倫理の大切さの原則」、この多様性と倫理を中心に置くべきだと言っています。

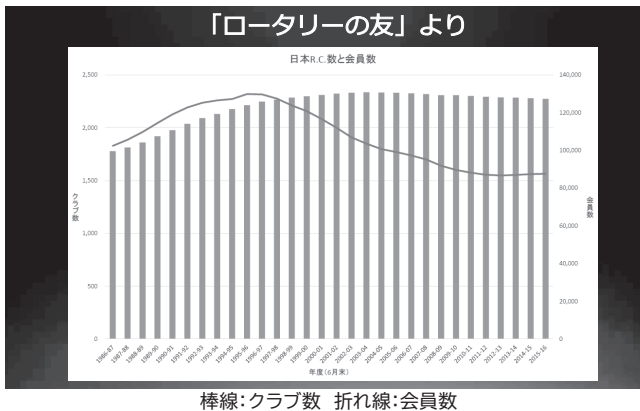
会長のスピーチは、柔軟性を認めても根っこの部分は変えてはダメ、と訴えていると思いました。

また、これは即ち、「2016年4月のCOLを正しく理解してくれ」と述べていると思います。即ちクラブ改革や新クラブ設立の為の提案と考えます。COLの最中のある朝の理事会でのつぶやき「こんな案件が通れば

ロータリーじゃなくなる」という声を耳にしました。これはロータリーの原則を崩す案件と推察しました。意外でした。RIの理事会で聞く言葉かと我が耳を疑いました。感動しました。RIの理事会もロータリーに対する思いは同じだと痛感しました。ですから紹介させていただきました。

さて本題に入らせていただきます。

このグラフは、1986年から30年間の日本のメンバー数とクラブ数の推移です。棒線はクラブ数、折れ線はメンバー数です。



1996年、97年の13万人をピークに下降しています。クラブは減らないのに、メンバーは減っています。つまり1クラブの人数が少なくなっているということです(64人→34人)。また、次の表に示したように、30人未満のクラブがどんどん増えています。

地区別30人未満クラブ数

	1996年	2006年	2011年	2016年	地区クラブ数
第2760地区	0	9	9	14	83
第2580地区	2	9	17	21	70
第2750地区	2	3	26	37	100
第2650地区	2	11	22	27	97
第2660地区	2	14	24	27	81

※クラブの最適人数は？

この表は20年間の推移です。例えば、2580地区は19クラブ増えました。

ところで、このようにクラブが小さくなるのを20年間見つめたままで、何も努力しなかったのでしょうか？この表は、私たち2760地区の直近6年間の会員数の増減表です。

第2760地区 年間会員増減数（2009～2015年）

年度	クラブ数	会員数	女性会員	入会者	退会者	増減
2009.7.1	82	4,922	159	338	406	-68
2010.7.1	82	4,841	167	350	373	-23
2011.7.1	82	4,809	171	355	370	-15
2012.7.1	82	4,792	189	367	394	-27
2013.7.1	83	4,762	190	371	361	+10
2014.7.1	84	4,770	202	324	345	-21
2015.7.1	83	4,754	204	327	337	-10

退会者の4割以上は6月に退会する

歴代のガバナー、増強委員長は全力をつくしたと僕は思いますが、毎年各クラブは目標値をセットしても達成されずにゆっくり減少しています。

この繰り返しが続き、会員が入会し易く、退会しにくい環境整備をしてくれなかった。つまり、既定のルールの中で努力した結果なのです。2760地区の会員増強委員長の今年度の方針がこの表であります。

自クラブの長期計画を作る

- ・自クラブの現状把握（何人入会して何人退会したか？）
- ・将来何人のクラブにしたいのか？会員間ではっきりさせる
- ・自クラブの平均年齢を確認する
- ・若手会員の増強
- ・女性会員の増強
- ・クラブ会員の多様性

（第2760地区会員増強委員長 光岡新吾）

全国に先駆けて戦略計画に基づいた会員増強の指針であります。この指針に沿って各クラブは取り組みをしたと思います。規定のルールを改正するなんて、定款、細則を改正したり、例外規定を作ったり、柔軟性を導入するなんて、日本のロータリアンは考えもしなかったアイデアです。

さて、4月のCOLでロータリアンの定義が簡単になりました。既定の会員の身分の分類や、例会・出席の規定に柔軟性を持たせれば、ロータリーに入会できる人が沢山居ます。以下の通りです。

制定案16-38号

会員身分の柔軟性を認める件

ロータリアンの定義を簡潔にする

“善良で高潔性、リーダーシップを持ち、良い評判を受け、奉仕の意欲のある人”とする。
従来の条件はすべて削除

➡ 426対85で採択

※16-38号をクラブ細則に具体的に記載

弾力あるロータリークラブの運営（細則に明記）

1. 地区の各種委員会など出席を少なくする
例会は夜間（仕事を終えてから）
1. 食事は各自で — 例会場の変更 —
1. 例会出席はインターネット利用
1. 時に例会を一般公開
1. 事務局は必要か？ 合同で？

まだ条件はあるでしょうが、この条件を採用すれば、入会できる人は多くなるでしょう。次に出席規定の例外です。

制定案16-21号

クラブ例会と出席に柔軟性を認める件

標準ロータリークラブ定款を下記のように改正する

第6条 会合および出席の例外規定

細則に、本定款の第7条第1節、第10条第1,2,3,4,5節、第13条4節に従わない規定や要件を含めることができる。かかる規定あるいは要件は本定款にある規定や要件よりも優先するものとする。

➡ 392対82で採択

柔軟性（規定の例外）

本定款の第7条 例会の規定：毎週一回定期会合

第10条 出席の規定：メイクアップ、出席免除

第13条 会員身分の終結：出席率50%

続いて会員資格の例外規定です。

制定案16-36号

会員資格と職業分類を認める件

第5条 会員

第3節 会員資格と職業分類の例外

クラブは、第5条第2節(b)(職業分類関係)に従わない会員資格に関する規定や要件を採用することができる。かかる規則や要件はこの定款のこれらの節に定める規定や要件よりも優先されるものとする。

会員は正会員と名誉会員であるが、正会員のサブカテゴリに準会員、家族会員、法人会員など可能とする。

➡ 386対75で採択

16-30号

直接あるいはオンラインの両方による出席
を認める ➡ 392対82で採択

16-34号

子供の誕生により12ヶ月間を超えて欠席は
出席免除 ➡ 395対97で採択

16-40号

ロータリーアクトが正会員になることを認める件
➡ 413対97で採択

このいずれも採択されました。皆さんはこれをクラブ細則に明記しますか？

もし明記しないならあなたのクラブは今まで通りです。ゆっくり会員が減っていきます。それでもいいのです。クラブの裁量権です。ジョン・ジャーム会長は、「伝統あるクラブを改良するのは大変です。クラブが分裂します。退会者が出ます。新しいクラブを作った方が早いです。良いクラブができます。」と言っています。是非、今回のCOLを検討してください。若い人が入会し易いクラブを作りましょう。そしてロータリーの芯をはずさない、つまりロータリーの価値観を芯に柔軟な運営をするクラブを作りましょう。これがジョン・ジャーム会長のスピーチの結論だと思います。

さて、ここまで述べてきたことをまとめるようなニュースが、RI本部より入りました。それも2週間前にですから一番新しいニュースです。先ほど述べました規定審議会の決定を受けた、例外規定を用いた柔軟性ある運営をしているクラブの推薦であります。このスライドにありますように、推薦クラブの適用には4つの項目が入っています。これを推進しなさいと言っているわけです。このように世界のロータリーは均一的なルールから多様性のある柔軟なルールへと変化させ、組織を強化しようとしています。その功罪は、7年、10年先にならないと評価できません。

2017年2月17日（金）
国際ロータリー日本事務局より通達

日本の元気なクラブのご推薦（Ⅰ）

2016年4月規定審議会での変更事項を受けてクラブ
の柔軟性（例会数の緩和、オンラインツールを併用
した例会等）を活用しているクラブ

日本の元気なクラブのご推薦（Ⅱ）

例えば（RI本部からの適用事項）

- ・ 例会をディナー時より昼食時、またはその逆にして
会員が参加しやすい時間帯に変更する
- ・ 例会時、オンラインツールを利用して、遠隔からの
参加もできるようにした
- ・ 若い世代の入会を強化する為に奉仕活動をアピール
するように心がけていく
- ・ 女性会員の積極的な勧誘を始める

今や日本のロータリーは大ピンチです。会員が増えないのです。特に女性と40歳未満のメンバーは世界水準以下です。ジョン・ジャーム会長に、メンバーが減って3ゾーンから2.5ゾーンに、財団寄与も第2位から下がり第3位どころか第4位も危ぶまれる昨今となり、日本のロータリーの地盤沈下は著しい、「新しいクラブを作るのが早くて良いクラブができる」とまで言われてしまいました。繰り返しますが、多様なクラブ作りを目指したいものです。

ご清聴ありがとうございました。終わります。

3.9 アトランタ国際大会 日本人親善朝食会

2017.6.26

2017年6月11日(日)アメリカ合衆国ジョージア州はアトランタの地において2017年国際大会が行われました。本年はロータリー財団設立100周年を記念する特別な大会でもあります。

日本からも2400名程度の登録がありました。2760地区豊田ロータリークラブの斎藤直美RI理事は早くに「日本人親善朝食会」の復活を掲げ、私たち豊田ロータリークラブからも28名のメンバーが運営・設営を行いました。一昨年のサンパウロ大会は日本からの登録者が少なかった事、そして昨年のソウル大会では登録者が多かった事により日本人親善朝食会を見合わせてきた経緯がありました。今回は記念すべき大会である事から斎藤RI理事も是非この朝食会を復活させたいという思いで開催する運びとなりました。

計画では500名の参加者を想定して準備をしておりました。朝食会にしては少し高額で10,000円という登録料にもかかわらず760名の登録を頂く事が出来ました。おかげで皆さまから頂戴した浄財からロータリー財団(ポリオ)へ10,000ドル、米山奨学基金へ7,000ドルを寄付する事が出来ましたことは登録して頂いたロータリアンの皆さまに感謝する次第であります。

朝7時から始まった朝食会は、斎藤RI理事の歓迎の挨拶・来賓紹介に始まりRI会長ジョンF.ジャームの挨拶、そしてロータリー財団へ寄付金の贈呈、米山奨学基金への寄付金贈呈をし、それぞれの代表からご挨拶を頂戴しました。終始なごやかなムードの中で進行し来場された皆さま方の笑顔を確認できましたこと、そして皆様からとても良い朝食会であったと声をかけられた事を大変うれしく思っています。

豊田ロータリークラブ 幹事 鈴木秀和氏による報告

朝食会登録者人数	760名
海外招待者	30名
トータル	790名






Japanese Fellowship Breakfast

日本人親善朝食会

日本人親善朝食会で
ジョン F. ジャーム会長のスピーチを聴こう！

2017年

6/11(日)



登録料 10,000円 (ポリオドネーションを含む)

日本人
朝食会復活!!

6:30	開場・受付
7:00	開会
7:30	RI会長スピーチ
9:00	閉会

会場

HOTEL HYATT REGENCY
265 Peachtree st NE Atlanta
GA U.S.A 30303
TEL 1-404-577-1234

ホテルより徒歩20分
シャトルバスも利用可能

日本人朝食会に参加してアトランタの
ダウンタウンを散策し、大会会場に
行ってみてはいかがでしょうか！



3.10 ジョン・ジャームRI会長への感謝状

2017.2.15

日本での前評判は、“気さくで陽気”なリーダーだから、齋藤は良い時に理事になる、と言われました。一緒に仕事をするトップがそうなら、安心して嬉しい限りと理事エレクトを迎えました。いきなり国際ロータリーの中枢部の人達と接する僕には、それはそれは緊張の連続でした。

理事会の席での議事への参加の仕方、仲間や先輩との接し方と戸惑いましたが、時が経つにつれ、ジョン・ジャーム会長の冗談か本当かの区別もつくようになりました。会長を中心とする各種ディナーの席での立ち振る舞いもやっと慣れてきましたが、やはりそこはジョン会長のかもしだす雰囲気、会場の皆さんへ伝播して明るいディナー、話の弾むディナーとなり、英語の理解が出来ない自分も空気に溶け込めました。そのようなムードメーカー役を果たしてくれる会長に多大なる感謝を捧げます。

次に名古屋に来てロータリー研究会に参加された時の事ですが、長旅をものともせず、4日間と、東京へ日帰りセミナー参加1日の計5日間をフルに出席して頂いたことに心から敬意を表します。中退、早退をせず、熱心に研究会に参加されましたが、日本のパストガバナーにその真剣なる態度を示されました。そのためか、席をたつパストガバナーが少なく、熱気に包まれた研究会となりました。最後の締め「日本のロータリー会員は減っているのだから、柔軟性あるクラブ作りをして下さい。」とおっしゃいましたが、この言葉もシニアリーダーの心を打ったことと思います。

ロータリーは皆同じ方向へ向かって力を合わせれば、不可能を可能にするとんでもない力を発揮するという事をポリオ撲滅への努力で教えてくれました。これはロータリアンの財産だと、何度もスピーチされ、我々ロータリアンを励ましてくれました。この励ましをガバナーがスピーチし、クラブ会長が例会で語り、ジョン会長の名声と一緒に仕事をする我々理事の誇りを高めてくれました。

最後に2016年4月のCOLの様々な決定を、皆が決めたことだからと受け入れられました。この歴史的な出来事(COL)は心痛むものであるはずですが、“残すべきものは何か?”と決断された事に、日本を代表する理事として感謝しても感謝しきれないものがあります。日本のロータリーもこの変化に沿って変わってゆきますが、「人類に奉仕するロータリー」であり続けたいと思います。私もその方向で引き続き努力します。

1年6ヶ月のご指導に感謝申し上げます。

齋藤 直美、雅子



ビルゲイツ氏を迎えて。アトランタ国際大会にて

3.11 RI理事挨拶 ～ 理事会に1年間参加して ～

2017.7.1 ガバナー懇談会

改めましてこんにちは！一夜にしてパストガバナーになられた直前ガバナーの皆様、ご苦労様でした。精一杯お務めになられたと思います。まだあと3～4ヶ月は続けたいという方がいらっしやると伺いましたが、次のガバナーさんにきちんと引き継ぎをおやりになられましたでしょうか？

10年前と違って最近は継続性が強く求められるようになりましたが、いかがでしょうか？

さて恒例の理事会報告ですが、これは案件がございませんで代わって一年間理事会に出席した感想を述べさせていただきたいと思います。

理事会は緊張します。理事会のメンバーという世界のロータリー運動の梶取り部門の一員でありながら、つつい日本代表という意識が出てしまいます。会議中に誰かが「〇〇で困っているんだが…」と発言がありますと、「ああ、日本はこれは大丈夫」とか「そんな事は日本ではもう対処済みだよ」とか思ってしまう、その発言した理事と一緒に考えていこう、世界のロータリーを考えようとする姿勢が出てこないで、あくまでも日本ではこうしようと狭くなっている自分に気づかれます。

それというのも理事はゾーン代表ですから、ゾーンの様々なデータ、例えば会員の増強数などの説明を求められます。そのデータそのものが理事の評価表となるわけで、会員動向から財団寄与率まで報告しなくてはなりません。なぜその数値なのか、下がった原因は何かを説明するわけです。

3ヶ国も4ヶ国にも渡るゾーンを担当する理事には辛い報告となります。対前年度比が全て上向きという報告が出来る理事は非常に少ないのです。ところが日本は全てのデータがいいんです。強いて弱点をあげれば、女性会員が少なすぎる、40歳未満の会員比率が少ないという2点でしょうか。

日本のロータリーは、日本のロータリアンは自信を持って下さい。国内の様々な会議の場できまってその地区の長老の方々より「日本は世界の

ロータリーの中で存在感がない!」 「日本は発信力が弱い」とお叱りを受けます。そんな事は全くありません。各種データを全世界の中で比較してみると、とび抜けて良好です。そのこと自体が日本のロータリーの存在感を示し、強い発信力を持っていると考えます。

自信を持って日本のロータリーは国際ロータリーの優等生と言えます。長年に亘るガバナーの努力、先輩理事の方々のエバンストンでの活躍が今日の結果となって表れていると思います。この一年夢中で走ってまいりましたが、以上のような感想を持ちました。理事会報告に代えての報告とさせていただきます。

次に日本のロータリー100周年委員会の件であります。準備委員会が3年経過しましたので、今年度より2020年末までの新たな3年を迎えるにあたり、実行委員会と改称いたします。今年度より新たに石黒理事が誕生し、2名の理事体制となりますので、このプログラムは理事専任事項と考えまして、委員長に齋藤が、副委員長に石黒理事が就任させていただきます。この実行委員会をどのように進めていくか、先輩諸兄の皆様と相談しながら進めさせていただきますが、事務局機能が必要と考え、2750地区パストガバナーの水野 功さんに事務局長をお願い致しました。

以上で今年度のスタートにあたってのご挨拶とさせていただきます。
ありがとうございました。

3.12 RI理事2年目を迎えるにあたり

2017.7月号「ロータリーの友」

国際ロータリー理事1年目は西も東もほやけ、五里霧中の歩みの年でした。2016年規定審議会(COL)で採択された柔軟性の問題、そしてゾーンの再編成問題という2つの大きな課題を抱えた厳しい年でした。

第45回ロータリー研究会(11月28日～12月1日)は、全国のシニアリーダーのご協力のお蔭で、無事お役目を果たすことが出来ましたが、結びのオープン・フォーラムの席上「日本のロータリーへ望むことは？」という質問に、会長より“日本のロータリーは新しいクラブを作ることがよろしいのでは？”と喝を入れられました。つまり「拡大して増強を計りなさい」という事です。この会員を増やす事こそが、日本ロータリーの大きなテーマとして突き付けられたと痛感しています。その事を暗示するかのように、イアン・ライズリー会長エレクトが「ロータリー：変化をもたらす」とテーマを掲げました。私はジョン・ジャーム並びにイアン・ライズリーの両会長の息の合った素晴らしい継続性を訴える国際ロータリーの波と捉えました。つまり2016年をもって、RIは方向転換したのでありまして、2017年国際協議会にて「2016年のCOLを重視したクラブ運営」をするよう訴えがあり、ロータリーを変えようとするRIの強い意志を感じました。2016年COLは世界中のロータリアンの総意と受け止め、日本のロータリーも歩調を合わせる必要があります。足並みを合わせ同一方向へ歩むことこそ、日本のロータリーの発信力を作る基礎と考えます。そのためにはまずクラブを強くする必要があります。日本のロータリークラブは約40%が30人未満のクラブです。日本のロータリー2,263クラブの40%≒905クラブ位にあたります。この905クラブと新しく創立するクラブは以下の項目にご配慮いただきたいと思います。

- ・ 例会のあり方を日本の伝統的な形式から変えなければなりません。
- ・ 平日に働きながら出席(60～90分の会議に参加)できる時間帯は何時なのか。

- ・ その日出席できない会員のための配慮として、型を変えた出席方法は？
- ・ 安価なクラブ運営を徹底的に行う方法は？(注)
- ・ 地区委員会への出席は極力避けてインターネットを活用する(注)
- ・ ロータリアンという会員身分と職業分類をクラブで検討。
- ・ 30人未満のクラブは10人前後を増強するクラブ目標をたてる。
増強の発想を変えないと実現しない。(注)

街づくり、地域づくりのためのクラブ戦略計画を作成し、地域の人々のニーズに応えられるクラブへ奉仕活動を特化する。そのためにはクラブを越えて同一地域内のロータリークラブと協同(共同)し、継続するクラブを開発実施する。

等々が考えられますが、COLを重視した新しいクラブ作りは日本の急ぐべきテーマと考えます。

次にゾーン再編問題は、1ゾーンあたりの会員数(35,400人)という客観的な基準があるため、財団寄与率とか、世界的ボランティア活動への参加貢献度などは全く考慮されずにゾーン再編作業が進行しています。2019年のCOLにて最終決定となります。

(注)地域でボランティア活動する青年や退職者にとっては月々2万～3万の会費やロータリー財団、米山財団への寄付そしてクラブの各種委員会や地区委員会出席に伴う出費(食事代も含め)の加算を考えた時に、家計に影響を及ぼさない金額を強く配慮しなくてはならない。給与所得者にとってはこの月々の負担額はロータリー入会拒否の第一の要因と考えます。

3.13 RI平和センター大口寄付推進活動委員会 挨拶

2017.8月 2017-18年度RI大口寄付推進活動委員会(米国)

初めまして。私はTadami Saitoと申します。Call me “Tada” please!!

日本から来ました。2760地区 豊田ロータリークラブのメンバーです。1979年ロータリーに入会。2006年～07年ガバナーを務め、2016年よりRIの理事です。

ロータリーの目的である平和な世界を築くという作業は、私達ロータリアンだけでやり遂げられるものではありません。私たちの周りの人々の力をお借りして、とりわけ平和構築のための専門集団、スキルアップされた専門分野の人々の力が必要であります。平和フェローといわれる人々のノウハウが必要です。この平和フェローの育成に大きな力を発揮するのが資金推進活動であります。とりわけ大口寄付活動は欠かせない活動であります。この平和フェローという言葉は、クラブレベルまで届かず、知られておりません。日本でも同じであります。しかし、Mr.金杉が昨年日本にて100万ドルディナーを開催し、大成功しております。彼の感想は、「日本では成功すると思っていたのにこんなに賛同を得られた」と、閉会の挨拶で述べられました。各国とも同じだと思います。成功を信じ、各々の国で企画・実行したいものです。

3.14 優れている日本のロータリー ～各種データから～

2017.8.25 名古屋みなとRC卓話

こんにちは。豊田RCの齋藤でございます。10年前にガバナーを拝命しました。当時の野村会長—鈴木哲直前会長(当時の幹事)さんのお誘いでラオスの支援活動に参加させていただきました。それ以来、ご縁ができてお付き合いさせていただいております。今回は卓話に来て国際ロータリーの情報を入れるようにとのことで出かけてまいりました。

1年間6回の理事会に出席してみて感じたことを報告させていただきますが、よく以前に私が耳にしていた「日本のロータリーの存在感が無い」、「日本はもっと強い発信力を示すべきだ」という先輩方のお声は、あまりあてはまらないと感じました。むしろ日本のロータリーは、世界のリーダーとして歩んでいると強く感じ自信を持たせていただきましたので、うれしく御報告させていただきます。理事は、その受け持ちゾーンの結果を報告することを義務づけられていますので、そのデータを中心に報告させていただきます。

ではパワーポイントを使って報告させていただきます。

まずこの表、今年の5月末の全世界のロータリークラブの動向表の一部であります。読みにくく比較しにくい理事泣かせの表です。

しかし今はマイロータリーより入り、クラブセントラルから登録するみたいで、瞬時に本部にデータが集まります。集計表はゾーン別となっています。理事はこのゾーンから選出されていますから、自分のゾーンの報告をするわけです。

ZONE	クラブ会員数の増強					40歳以下の会員増強				
	BASELINE 1 July 2016	Prior Year March 2016	Prior Quarter March 2017	既定 31 May 2017	COMPARISON TO BASELINE	BASELINE 1 July 2016	Prior Quarter March 2017	既定 31 May 2017	COMPARISON TO BASELINE	
1	28,037	28,518	28,678	28,818	↑	0.78%	0.71%	0.72%	↓	
2	27,524	27,992	28,135	28,310	↑	0.82%	0.80%	0.84%	↑	
3	32,158	32,809	32,747	32,972	↑	0.70%	0.66%	0.72%	↑	
ZONE	グローバル補助金へのクラブ参加					地区補助金へのクラブ参加				
	BASELINE RY 2015-16	Prior Year March 2016	Prior Quarter March 2017	既定 31 May 2017	COMPARISON TO BASELINE	BASELINE RY 2015-16	Prior Year March 2016	Prior Quarter March 2017	既定 31 May 2017	COMPARISON TO BASELINE
1	2.90%	1.80%	2.90%	3.50%	↑	45.84%	44.83%	49.28%	49.22%	↑
2	7.06%	6.58%	6.90%	7.21%	↑	48.93%	48.09%	51.07%	51.07%	↑
3	4.29%	3.40%	5.44%	6.06%	↑	39.22%	38.04%	37.72%	37.63%	↓

ゾーン1・2・3は日本ですから、2016～17年の担当理事は齋藤つまり私であります。この表で問題があるのは、40歳以下の会員数比率です。圧倒的に少ないという現実です。これに対して私は、日本の伝統的社会の特徴と苦しい答弁をしました。それ以外は全て優秀であります。

次に、財団への寄付貢献度であります。5月31日締切ですから年度末のデータではありませんが、ゾーン全てが昨年度に比べて下がっています。しかし以下の通り、日本とアメリカは他と比較にならない高い寄付率であります。大したものです。

財団年次プログラム基金へのクラブ貢献度は、

アメリカ 85～95% 日本 92～98% イギリス 50%
インド 43～50% ドイツ 50～68%

その後、日本は6月末で100%。つまり寄付しないクラブはゼロであります。

続いてポリオ基金への貢献度は、

日本 50～57% ドイツ 21～40% イギリス 14～35%
インド 11～13% アメリカ 62～80%

このようにまとまります。

次は世界のクラブの何%がこの基金を使って奉仕事業を行っているか、というデータです。いわばクラブの活発度であります。

グローバル補助金

日本 4～7% ドイツ 3～9% (全クラブの1/10～1/9)
イギリス 14～15% (全クラブの1/6) インド 10～12.3% (全クラブの1/8)
アメリカ 15～19%

地区補助金

日本 38～51% ドイツ 9～12% イギリス 11～16% (全クラブの1/6)
インド 5～11.6% (全クラブの1/8) アメリカ 44～50%

「年次基金」及び「ポリオ基金」への貢献度は、アメリカおよび日本のそれが大きいのがよく分かります。つまり、財団への寄付貢献度は、アメリカ

に次いで2～3番目という事になります。この事自体は、日本のロータリーの存在度を示す事実と考えます。

次に、この集まった基金を使つての奉仕事業への関与度ないしはプロジェクトの立ち上げとクラブの参加度、つまりクラブの活発度を表す「地区補助金」の利用度は、アメリカと1、2位を争う位置にいます。とりわけ地区補助金への参加は、世界一であります。一方、グローバル補助金の利用度は日本人の民族性でしょうか、言語の壁でしょうか、先進国の中でも4～5番目と低い位置にいますので、国際的プログラムへの参加が強く求められます。このようにデータを分析していきますと、「発信力の弱い日本」「存在感の薄い日本」という従来から自虐的に言われている日本の評価は当たらないと考え、もっと日本のロータリアンは自信を持っていいと強く言いたいと思います。英語で話すことに習熟していない日本のロータリアンは(私も含めて)、国際的な会議の場で発言しません(発言能力がない)ので、いつの間にか「存在感のない日本のロータリー」となってしまったのかもしれません。しかし発表の場と持ち時間10分～15分が与えられれば、映像と英語の原稿で報告いたします。私もシドニーの国際大会では、3.11への世界の支援に対して津波の動画と英語による感謝のスピーチを行いました。ジャパニーズイングリッシュでいいのです。オーストラリア英語、アメリカ南部英語、インド英語と呼ばれる英語があるようですから…自信を持って舞台に出ていきましょう。日本のロータリーは世界のロータリーのリーダーですから。

3.15 RID2500地区大会 RI会長代理挨拶

2017.10.7

皆さん、こんにちは！ご紹介いただきました2760地区 RI理事の齋藤直美です。成瀬ガバナーのリーダーシップのもと、地区大会開催にご尽力された、本間弘哉大会実行委員長はじめ、ホストクラブの網走ロータリークラブ及びそのご家族の皆様方に、心から謝意と敬意を表する次第です。

日本ロータリーの多くのリーダーを輩出された貴地区に、イアン・ライズリーRI会長・ジュリエット夫人は、その代理として私たちに出向を命ぜられましたことは、私たちにとりまして大変光栄であると同時に、その責任の重大さを深く心に命じております。2日間どうぞよろしくお願いいたします。

地区大会は、ガバナーのリーダーシップのもと、地区内ロータリアンが一堂に会し、交流を深め、ロータリーを語り合い、明日への行動を思索する場と考えます。大会2日間が、地区会員の皆さんにとりまして有意義で活気に溢れた大会になりますことを心より祈念申し上げます。

さて、会長代理には「会長テーマを中心に、地区会員の皆さんに意識を喚起し、鼓舞、激励すること」「RIを始めロータリーの現況報告」をすることが求められておりますが、お時間の関係もあり、本日はパストガバナーとなって10年間に経験し、感じたことを、現在拝命しています役職を踏まえながらお話しさせていただきたいと思います。

イアン・ライズリーRI会長の最優先事項はもちろんポリオ撲滅です。撲滅へ向けてのカウントダウンがもう始まっております。しかしまだ資金が必要とされています。皆さんの今一層のご支援をお願い致します。

2番目の重要事項は、「3つの戦略的優先項目」の実践であります。1つ目の優先項目である「クラブのサポートと強化」について取り組むべき課題は、男女会員のバランスとロータリアンの平均年齢です、と述べています。今年のカバナー539名のうち、103名が女性です。翻って日本はガバナー34名中1名の女性ガバナーです。

もう1つの年齢はどうでしょう。40歳未満の会員は、わずか5%しかいません(日本は0.04%です)が、世界のロータリアンの大半は60歳以上です。10年後、20年後を考えると、若い人を会員に迎えることがいかに大切かは分かります。

2つ目の「人道的奉仕の重点化と増加」についてはどうでしょうか。井戸を掘っただけでは駄目です。人々が井戸を維持管理できるよう見届け、ポリオは封じ込めるのではなく、撲滅することです。ロータリーの活動は、ポリオ撲滅活動が示すように、持続可能な奉仕こそがロータリーの奉仕のモデルなのです、とRI会長は述べています。そのため、財団に続いて国際奉仕委員長及び会員増強委員長は、継続性が重視され3年務める事が求められるようになりました。

3つ目の優先事項は、「公共イメージと認知度の向上」ですが、前2つとおのずと結びついて考えられることです。

以上3つの優先事項をまとめると、「持続可能性」であり、あらゆる事を支えているもう1つの側面があります。この側面についてロータリーではほとんど語られていません。それは「地球の持続可能性です」と言っています。

1990年、当時のパウロ・コスタRI会長は、全ロータリアンに地球の環境保全を呼びかけ、「環境に対する良心は地球に貢献すること、未来への貢献に対する誓いを新たにすること」と言われたとイアン・ライズリー会長は紹介しています。そして具体的には、2018年4月22日の「アースデイ」までに各会員1人1本植樹しようと訴えました。このことは地球を変えるばかりでなく、参加したロータリアンや家族の意識を変え、クラブの活性化をもたらす大きな影響力がある「変化をもたらす」と信じます、と述べています。

成瀬ガバナーの地区方針「今こそ行動を！ークラブが活気になるために地区が元気であるために。そして私たちの未来のためにー」を示唆する

ものだと言えます。

次に、日本のロータリーについて私見を少しお話しさせていただきます。入会した1979年頃は、一業種一人、例会は皆出席が求められ、クラブ事業は単年度制で、他クラブや他団体との共同プログラムは禁止され、ボランティア団体とは認めず「職業奉仕こそロータリー」状態でした。その社交クラブの居心地の良さが、2016年4月の規定審議会の各種採択で突然壊されました。ご存知のクラブ運営の柔軟性の導入の認可でした。「志」を1つにして、善行を積む集団といえど、多民族とその文化によって形成されるこのロータリーを、1つのルールで管理運営することの難しさを露呈した瞬間ではなかったのでしょうか。ジョン・ジャーム直前会長のつぶやきによれば、“ロータリーは潮目が変わった”のではないのでしょうか。この大きく梶が切られてから1年半、日本のロータリークラブの変化が少しずつ報告され始めました。例会回数、例会の持ち方、例会場、会費など様々です。各クラブの皆様は、ご自身のクラブの置かれている状況はよくご存じですから、今後ロータリークラブはどんどん変化していくと思います。世界のロータリーの変化と歩調を合わせていくと思います。いやむしろ、日本のロータリーはリーダーとなって引っ張っていくと思います。それを裏付けるデータがあります。

さて立場上「日本のロータリーのおかれている位置」について言及させていただきます。理事としての1年目が終わる今年の4月頃、ゾーン別の各種データが出ます。そのゾーン担当者である各々の理事17人がそのデータを説明しなくてはなりません。日本の理事は3ゾーン1カ国、同一民族、同一言語、同一文化でありますから説明は楽です。理事によっては7カ国12言語とか、15時間帯のゾーン受け持ちとかまちまちです。例えば、

- ① ルーマニア・セルビア・クロアチア・ブルガリア
- ② ギリシャ・アフリカの一部からケープタウン
- ③ カナダ・アメリカ・北アメリカ五大湖周辺からニューヨーク北部
- ④ グアテマラ・メキシコ・ペルー・チリ

⑤ アルゼンチン・ブラジル・ウルグアイ・パラグアイ

1 地区が数千キロメートルあります。地区大会はどうする？地区とは？ガバナー会とは？考えられません。

このような拡がりがある内で、

- ① 日本のロータリーとは
- ② 日本のロータリーの存在感とは
- ③ 日本のロータリーの発信力とは

これ等は何を基準にして何に向かって言うのか？よく分からなくなってしまう。従って数値という現実を基にして判定するしかありません。そうすると日本はアメリカと並んで、目立って優れたデータが浮かび上がってきます。

①財団寄与率(年次寄付)

日本：ゼロクラブゼロ 100% アメリカ：80%

ドイツ・イギリス：50% インド：43～50%

②ポリオ

日本：50～58% ドイツ・イギリス：13～40%

アメリカ：60～80% インド：10%

③DDFへの参加クラブ

日本：40～50% インド：5～11%

アメリカ：45～50% ドイツ・イギリス 9～15%

④初めての決議審議会への提出議案

10カ国から38件 日本19件

こうしてみると、財団へ積極的に寄付して積極的に寄付金をDDFとして利用するクラブが日米とも半分近く、他国は10分の1クラブになっています。

最後に決議案の提出件数ですが、これはロータリーの関心度を示していると考えられますので…ただし狭いエリアではまとまり易く、広いエリアで多民族であるが故にまとまりにくいのかもかもしれません。

以上こんな姿が見えてきます。日本のロータリーはよくまとめ、活発であり、世界をリードしていると考えられます。

しかし、この後が日本のロータリーの課題と考えます。つまり、日本のロータリーは広報活動が弱く、お金だけを払っているロータリー、汗を流す国際奉仕をしないロータリーと見られていないでしょうか。今後世界へ向け、自分たちのやった奉仕活動をどう発信するか工夫が待たれるところ です。

最後に、この地区に私はお礼を申し上げなくてはなりません。プログラムのご挨拶にも書きましたが、私は20年のスリーピングメンバーを経て、クラブ会長に任命されましたが、その私にロータリーに対する様々な情報へ導いて下さったのが、芽室ロータリークラブのバスター・松井幸雄さんが書かれた一冊のご本「ロータリーに関する十四の断章」です。そして背中を押していただいたのが、紋別港ロータリークラブのバスター・田巻明男さんでした。その他多数の2500地区内シニアリーダーとご交宜を頂戴いたしました。とりわけ田巻明男バスターには、私どもの豊田ロータリークラブの研修会にまでご出席賜り、ご指導を頂戴したり、国内のシニアリーダーのご紹介をいただいたりしました。

この地区の先輩方との出会いがなければ、今日この場に立っていません。改めて、イアン・ライズリー会長のこの度の御下命は、天の声とありがたく受け止め、成瀬バスターと2500地区の皆様との出会いに感謝申し上げ、また成瀬則之バスターの強いリーダーシップのもと、イアン・ライズリー会長テーマ「ロータリー：変化をもたらす」を实践され、元気な地区にクラブになられますことをご祈念申し上げ、ご挨拶とさせていただきます。ご清聴ありがとうございました。

3.16 2017年9月度 理事会報告

2017.10.18 決議審議検討会議

こんにちは。ご苦勞様です！私にとりまして決議審議会という聞き慣れない言葉が出回り始め1年半が過ぎようとしています、こんなに3つのゾーンがまとまって素早い対応が出来るのは日本だからこそだと思います。

理事会に出席していますと、他の理事の方々は大変です。各々の受け持ちエリアつまりゾーンが広くて苦勞されています。5か国語7言語に及ぶゾーンとか、15時間帯のゾーンとか、日本人には想像もつかない地域を受け持っている理事が大勢います。ですから決議審議会のための打ち合わせ会をこんなに素早く体制作りが出来るのは、日本という特殊性、単一国家、単一民族、単一言語、そしてそこから生まれる似たような思考法。ですから日本人の考える理事会のハイライトとか、現在のロータリーの問題点とかは、他の理事にとってはハイライトでもなければ問題点でもないわけです。

そのいい例が6月の理事会で最後の最後に取り上げられた「銃規制とロータリーマークとの組み合わせ」でした。この討論に入る前にイアン・ライズリー会長とオーストラリアの理事は、「私たちは銃規制に賛成の立場です」と表明。仏の理事も同じ立場ですと表明しました。アメリカの理事は「銃社会という文化です」とか「アメリカには銃社会という日常性がある」とかを強調しました。この案件が可決したらロータリーはアメリカでは存続できないと訳の分からない発言があったりしましたが、コーヒータ임을 タイムリーに利用して、事務局へ差し戻しとなりました。「銃使用禁止とロータリー」はアメリカ、オーストラリア、ニュージーランドの各ロータリーの最大のトピックであり、日本のトピックにはなっていない訳です。日本では電子投票をどこまで拡げるか、そのリスクはとか、ロータリーの理念組織に関することが最大のトピックとなっているわけです。その他、日本ではCOLは毎年電子投票で開催できるような方向をさぐる案件とか、DLPの

再検討、ビジョン声明の決定などがハイライト扱いされました。

しかし、9月理事会では、COLを毎年電子投票できるような方向への案件は否決されました。理事会はFace to FaceのCOLの大切さを充分熟知しています。

DLPの再検討とビジョン声明の扱いは無視に近い状態でした。私はむしろ危機感を持ったのは、120万人で動かない世界のロータリアン人口を打倒するために、従来にないカテゴリーの会員を作らねばと提案された発言があったことです。そしてその検討を事務局長に具申したことです。グローバルメンバーシップモデルテストプロジェクトが発足されようとしています。その前座に、2016年COLを受けて新しいクラブが増えていることや、新入会したいとネットからの申し込みがここ1年間で1万3,000人あったがまったく放置されている、ガバナーは何しているんだと討論があり、その延長線上に出てきた話です。その申込者の若いメンバーは、ロータリーの知識を求めているのではなく、ボランティア活動に参加したい人達だと報告されました。ですから若い人中心のボランティアグループが結成され、ロータリーの枠内に取り入れていくかどうかという大きなテーマが投げられました。このことはよくよく注意していく必要があります。

さて次に、曾我世話人代表より、9月度理事会報告をやるように御下命があるものですから以下、報告させていただきます。

理事会の前に財団管理委員会との合同会議（ジョイントミーティング）がありまして、

①ポリオ：2017年9月 パキスタン5例、アフガニスタン6例

ワクチン1本 50～60セット

投与する時に3ドル必要（1.16%が資金集めの費用）

ワクチン由来ポリオは増えているが自然消滅

②残っているDDFが多すぎる…RRFCは何をしているか？

③災害が多発しているが日本の支援金はいつも第2位の割合
(アメリカが1位)

④戦略計画最新

- ・ 4～5年間の目標設定。150万人の会員に参加してもらう
- ・ クラブの奉仕活動時間を計る

次に9月25～28日に第2回理事会が開催されましたので、そのハイライトを報告します。11の委員会報告と51の決議が議題となりました。

- ・ クラブと地区
 - 1,202,937名 (-4,969名)
 - 35,656クラブ (+257クラブ)
 - 平均会員数 34名/クラブ
- ・ ロータリー研修サイクルから地区リーダーセミナーを除外する
- ・ 国際大会
 - 2023年 スウェーデンが辞退
 - 2024年 シンガポール
 - 2025年 カルガリー(カナダ)
- ・ 地域リーダーの評価方法が承認
 - RC、RPIC、RRFC、E/MGAのパフォーマンスが今後評価されます
- ・ ローターアクトとロータリアンの二重会員はロータリアンとしての登録料を払う
- ・ 同一家族、同居人がメンバーなら一人の会費を減額
- ・ ファミリーメンバーを取り入れている
 - (カナダ、スイス、インドのデリーはダメ)
- ・ 年齢による人頭分担金
- ・ 5か国語7言語のゾーンのロータリー研究会は考慮を
- ・ 中国深川の経済特区にRC (19クラブあり外国人のみ)
- ・ 2017年6月理事会決定第167号

COLを3年ごとの代わりに毎年オンラインで行うことの利点を検討し、移行させるための制定案(2019年のCOLに向けて)は否決(理由:メールは集中できない。言語別にやるので正確でない)

- ・ 第168号(ビジョン声明)

取扱いについて言及なし。但し2018年国際協議会で公表か?
それまでは地区で言及しないで…

- ・ 第181号(DLPの再検討)

- ・ 会員構成

北米 29% 中東・ヨーロッパ 24% アジア 32% 上昇中
70歳以上 13% 60～69歳 13%の現実を見ないと
毎年15,800人入会 15,400人退会
理由:①コスト ②時間 ③クラブの空気
退会者の41%は元自分のクラブをお勧めしない

- ・ 決議案 — 38件(日本19件)

- ・ 13,000人の若い人が電子データを利用してコンタクトしてきたが
放置された

- ・ グローバルメンバーシップとして育てないか

- ・ 若い人はロータリーの知識でなく奉仕に関わりたいたと欲求

- ・ 20年間メンバーが120万人と一定なので新しいカテゴリーの会員が必要

以上

3.17 コーディネーターニュース

2018.6月号

嬉しいニュースを2つ皆様にお知らせいたします。

1つ目は、去る4月27, 28日イタリアのターラントで、イアン会長主催の平和会議(母子の健康)が開催されました。その席で偶然、財団学友(2006～2008年)の澤屋奈津子さんにお会いしました。彼女は2760地区名古屋大須ロータリークラブをスポンサーに持つ、活発な女性活動家です。現在はアフリカのニジェールに住み、現地で仕事に励まれています。彼女とは、昨年のアトランタ大会で名刺交換をして我が地区出身と知り、親近感を覚え家内と3人で30分くらいお喋りをしたので、今回の再会は3人で抱き合っ
て喜びました。しかし、平和フェローなど海外で働く学友の中には精神的に病む者、就職先が決まらない者など、新たな課題となっています。社会に出てからも彼等と連絡を取り合い相談相手となって、彼等の志を頓挫させないようにしたいものです。



イアン会長主催 平和会議
(イタリア ターラント)



平和フェロー奈津子さんとRIヨーロッパ支局事務局員さん

次に、2つ目は全国のロータリアン有志によるRIの公式文書の和訳が、本部の日本語課と相談しながら進めることが可能になりました。この事によって、RIの政策決定と今後の方向性が理解でき、安心して地区運営・クラブ運営に取り組むための大きな指標に出来るようになりました。

以上

3.18 第6回台日国際扶論親善会(高雄) 挨拶

2018.3.1

第6回台日国際扶輪親善会の開催おめでとうございます。

2008年より始まりました本会議の相互開催の前年、2007年に本会議は発足いたしました。その発端になりました2580地区 地区大会には会長代理として台湾の林士珍パストガバナーが訪日されました。その大会に出席しておりました私は、流暢な日本語を操り、語彙も表現力も到底及ばない先生の造詣の深さに大いなる感動を受けました。氏の専門職としての知識の深さ広さをご講演の中からお教えいただき、ただ深い感銘に浸っておりました。この会の誕生の中心は、林士珍先生(マイクロさん)だったと私なりに信じて疑いません。この感動が大会出席者のリーダー達の心を揺さぶり、魂を奮い立たせて本会への設立へと導いたと思います。

そんな思い出のある本会議が、この高雄にて今年は開かれます。ご尽力下さいました張 瑞欽 理事長(PDG)はじめ、クラブの皆様方に心より感謝申し上げます。この高雄と申せば、私は2人のお方を思い出します。

お1人は青少年交換の奉仕活動を何年にもわたってご尽力されておられるロータリーネーム ケンちゃんです。言葉を交わすことはほとんどありませんでしたが、若い人たちからいかにも親われている青少年交換のリーダーのお方です。

もう1人は、RI本部の職員で通訳を担当されている方で寺尾栄子さんです。彼女は台湾生まれで最近ではゲイリー・ファン元会長、ジャクソン元理事、林元理事と中国語、日本語、英語を駆使して通訳いただいています。ロータリーは素晴らしい人材を有していて、瞬時に対応できるシステムになっています。そのシステムに助けられて、私は理事という役職をかりうじて務める事ができています。

最後に台湾の皆様にお礼を申し上げなくてはなりません。3.11東日本大震災と福島原発事故への多大なご支援は言うに及ばずです。日本からの留学生を支援する仕組み、ロータリー米山奨学金制度のような制度をお作り下さしまして活動されていることに深くお礼申し上げます。ご支援くださいました若者がやがて大きな力となり両国を繋いでいます。歴史はどんどん変わります。老人の感動から青年への強い絆を信じています。

あれやこれや駄弁を労しましたが、台日親善会議がこれからも益々隆盛となりますよう祈念申し上げ開会のご挨拶とさせていただきます。

3.19 イアン・ライズリーRI会長への感謝状

2018.3月

イアンRI会長、ジュリエット夫人

長いようで短かった2年6か月が過ぎます。理事エレクトの時は建物や自分の動き方、エバンストンの街の地図など全くわからず、ウロウロ、オロオロしていましたが、次第に覚え落ち着いて理事会に参加できるようになりました。しかし最大の難問が待っていました。「英語による会議」でした。日本語通訳部のお2人(栄子さん、信子さん)のおかげでなんとか乗り切れたと思っていますが、イアン会長はある理事会の時に、「英語を母国語としない理事の方々には、言語のことで大変ご苦勞をお掛けして申し訳なく、それを乗り越えて参加いただくことに敬意を表します。」と挨拶されました。この一言で私はどれだけ救われた思いをしたか、感謝のしようもありません。日本語、フランス語、スペイン語、韓国語の同時通訳がありましたが、レシーバを絶えず耳に着け、レシーバに集中してなかなか討論に集中できないのです。それに気づいたイアン会長の心遣いに心が温まります。また次のことは、韓国のムーン理事が言いました。「私達もフリートーキングの時は初めから参加したいのだが、理事会議題による資料が多すぎ

て訳すのに苦労があり、討論まで頭が廻らない」と。「だからできるだけ早く議案を下さい。訳してきて討論に参加します。」と。会長は、「気づかないで悪かった。議案を早く開示できるようにしましょう。」と答えました。事実、議案開示となりました。

また、“Why don't we?”の時間を持ち、会員同志アイデア交換を促しました。これは理事一人一人が担当ゾーンの成果報告をすることにより、他ゾーン担当理事にアイデアを提供する結果を生み、とても感謝して自分のゾーンへ帰国することが出来ました。

3番目の感謝は、慣れない英語に疲れる私は会長が度々口にするジョークにどれほど癒されたことか、実にありがたいことでした。

最後に、ジュリエット夫人に対してパートナーとして接すること以上に、行動するロータリアンの戦友として接している姿を見せていただいたことです。「君はどう思う？」という問いかけを何度か見せていただき、私達夫婦の師としての姿を示していただきました。ご夫婦そろって各国ロータリアンに対する思いやりをお示し下さったことに厚く感謝いたします。

リーダーとして前へどんどんお進みください。

齋藤 直美、雅子



イアン会長ご夫妻と



通訳でお世話になった寺尾栄子さんと

3.20 RI理事退任慰労会(RID2760) 挨拶

2018.8.2

エレクトまで入れますと2年6カ月間エバンストン通いになります。その間感じた事をお話したいと思います。

まず1つ目は、「日本と国際ロータリー(よく世界のロータリーと言いますが…)は少しかけ離れている」という、日本のリーダーが、長老が口にする事についてです。何について、何々だから、かけ離れているということなのでしょうか?

私が推測するに、「ロータリーとは何か」を語り学習するプログラムも作らずに放置して、ひたすら奉仕活動を奨励し、その為の仲間を無節操に増やすその態度が、本末転倒であるという事だと思えます。片山主水PGがある会でのスピーチの時に、「あの人達は実に率直に抵抗感なく奉仕活動に手や足を使い、体を動かす。日本ではありえない光景である。」と、印象深い話をされました。私はそれを受けて、「日本ではまず皆で討議し、納得してから手足や体を動かす。」と続いたと推測いたします。条件反射的奉仕活動と、熟考検討型奉仕活動との差とでも申すべきでしょうか?この差は生まれ育った地域の歴史と文化・風習に基づくものであると思います。

今年のカバナー村井さんは、7月17日の中部経済新聞で「やたらと奉仕団体へと傾きロータリーらしさがどんどん失われている。ロータリーの心をもっと学ばなくては。」と的確な指摘をされています。エバンストンでは、職業奉仕について在任中は議題として挙がったことはありませんでした。1度グループ分けされた理事4~5人の小委員会で、「職業奉仕という言葉は若い人に受け入れられないので、文語を変えましょう。」と司会者が言いました。議案として取り上げずに、さも当然とばかり自然にその語句を取り消しましたのでビックリした僕は、「一寸待って下さい!日本では言葉には精神(心)がある…2000年続く日本の仏教の教えだ。言葉が消えるこ

とは心を失うことだ。」と反対スピーチをしました。結局そのアメリカの理事は、語句を残してくれました。それを聞いたのでしょうか。事務方のリーダーは、「職業奉仕という言葉を残したいなら、COLの場でドイツと手を組んで上程しなさい。」とアドバイスがあり皮肉られました。それが実情です。しかし待ってください！ラビンドラン、ジョンジャーム、イアンライズリーのスピーチには、「四つのテスト」「職業分類」などに触れ、ロータリーの心に言及しています。2016年のCOLには、ロータリーは変わっていく、と嘆きともとれる言葉を、そのお三方から耳にしましたから。RIの中核のリーダーは、ちゃんとロータリーの心を把んでいます。私は、ちゃんと把んだ上ですぐに条件反射的に、奉仕のための手足と体を動かしているのだ、と嬉しく感じていました。ひるがえって、日本はどうでしょうか。仏の人類学者・歴史学者のエマニエル・トッドさんが、朝日新聞に最近投稿（7/17）して日本の人口動態問題に触れて以下のように述べられています。「1990年代に訪日した時、少子化などの人口動態問題を語る人は多く、ヨーロッパよりも意識が高いと思った。以後16～17回訪日したが、人口動態危機について“日本人には何も行動しないまま議論し続ける能力がある”と今は考えている。」と皮肉たっぷり。「国力を増やしたければ人口動態に取り組むはずだ。それをしない姿勢は、ナショナリズムとは云えない。」と結びました。日本のロータリーと職業奉仕にそっくりですから紹介させていただきました。日本は議論し納得すればどんどん力を発揮します。それがデータとなって現れ、RIで集積されています。実にすばらしい日本ロータリーのデータであります。

2つ目は、諸外国はロータリーの勉強をしているのか？という疑問です。地域セミナー、コーディネーターそして研修会の奨励など型を作っていますが、効力はないようです。日本は国土が狭いこと、同一民族、同一言語文化の為すぐ浸透しますので、日本のロータリアンのレベルは高くなっていきます。2016年春のCOLで、クラブ運営の柔軟性と多様性が大幅に

認可され、私は慌てふためき2016年のロータリー研究会のテーマの1つにしました。その後2年経つのに、日本のロータリーは中心的名門クラブの運営は変わりません。COLの影響はほとんどありません。理事1年の時に、青少年奉仕部門の危機管理について、ロータリアンの不祥事(女子高生に対するセクハラ)が理事会議案に上がりました。私はカーッと became しました。この対策のために日本は2006年以降、苦勞に苦勞を重ね、青少年奉仕委員会の法人化や保険への加入、危機管理委員会の設置等を行って、整備は終わっていたからです。「この問題はすでにRIとしては対策を講じ、ノウハウは青少年奉仕部門が有していますので、担当者によるレクチャーでよい。」と主張しましたが、レクチャーは行われず、単に事実報告のみが行われました。後で事務方の担当者に、「何故、むしかえすのか?」と尋ねると、きちんと青少年奉仕の原則を守っているのは日本だけだから理事の皆さんに再認識して欲しかった、という返答でした。このように日本のロータリーは、RIの方針に逆行することなく実に素直に方針を順守しているのです。RIと少し乖離しているように見えるのは、事あるごとに職業奉仕を説きつつ社会奉仕プログラムを遂行する日本と、ダイレクトに社会奉仕に手足を出す欧米、特に英語圏のリーダーとの差を見て乖離している、と言うのではないかと感じました。

3つ目は、日本ロータリーの優秀性についてです。理事としての1年間が終わろうとする4月ないし6月に、理事の責任管轄のゾーンの実態がデータで示されます。会員増強とロータリー財団への寄付(寄与率)の実績であります。日本は女性会員の比率と40才未満の青年会員の比率が低いのであります。これは日本の歴史と風習とに起因していると考え(いわゆる市民革命が行われず)、よって3代経過しないと日本は変わらないと開き直っています。それ以外のデータは全て優等生であります、僕らが努力するわりには会員の増加がありません。失われた0.5ゾーンを取り戻す努力、18,000人増員を目指す(1年3,000人×6年間)または(1年1,800

人×10年間続ける)のが努力目標です。

4つ目は、日本のロータリー100周年記念事業計画と国際大会を日本へ誘致するテーマが、検討事項として残りました。

以上です。貴重なお時間ありがとうございます。

3.21 RI理事経験からロータリーの流れを見つめて

2018.11.12 甲府RC例会卓話

初めまして!豊田RCの齋藤でございます。名門甲府ロータリークラブにお招きいただく栄誉を頂戴しまして、厚く御礼申し上げます。

高野PGさんから「世界のロータリーの流れ—大きな視点から—」という宿題をいただき卓話を依頼されました。こんな大それたテーマは手に負えませんので、「RI理事経験からロータリーの流れを見つめて」と改めさせていただければ何となくお喋りできるかな、とやって参りました。

理事就任前に様々な先輩同僚より、「世界のロータリーと日本のロータリーが乖離しているのは何なのか見つけるように。」と口酸っぱく言われました。この作業をするためには日本のロータリーの立ち位置現状を確認する必要があります。難しい作業ですが、客観的データが必要です。情緒的にならずに、会員の動向は?入会退会は?DDFを使ったボランティア活動への参加は?マイロータリーへの加入率は?ロータリー財団への寄与率は?とりわけポリオへの参加は?グローバル補助金プログラムへの参加は?これらのデータはRI本部に蓄積され、理事会にて自分の担当ゾーンのデータ一覧表の説明をします。それを見ると、日本の3ゾーンは突出して優秀であります。しかし、世界ではどうしても勝てないデータもあります。40才未満の若い人の会員比率、女性会員比率であります。12~3年前、フランスのリヨンでメーキャップしました。「お前のクラブの話をしろ!」と。「女性会員は、何人か?」「ゼロです。」「何故ゼロか?日本の女性

の参政権は何年か？」と散々しぼられました。この2つのデータ以外は、日本は優れていることをお伝えします。

これに付け加えて例会重視のクラブ運営、親睦活動中心のプログラムを日本のロータリーの立ち位置と仮定しますと、今後日本のロータリーはどのように変化していくのでしょうか？2016年4月、COLが1週間シカゴで地区代表540人位を集めて開催されました。理事エレクトとして参加しました。ショックでした。クラブ運営の柔軟性と多様性を認める議案が決議されていきました。同僚のグアテマラシティの理事エレクトは手を叩いて喜んでいました。このCOLの合間に開催されました早朝理事会では、ラビンドラン会長、ジョンジャーム会長エレクトが、これが通るようならロータリーではなくなる、と嘆いていました。2016年6月、ソウル国際大会の閉会セレモニーでジョンジャーム会長が「ロータリーの潮目が変わった。」と結びました。2017年9月、理事会で「COLが開かれ1年半、クラブ運営の柔軟性を取り入れたクラブがどのくらいデータとしてあるのか？」と問いましたが、3年待たないと傾向はつかめないと言われました。日本国内ではそれら導入の新しいクラブ誕生の報告がポツリポツリありました。月例会2回、インターネット参加OK、ボランティア活動参加を例会出席扱いとする、低い会費や夜間例会、食事なし例会など工夫されているのは新しいクラブばかり。伝統ある名門クラブには変化はありません。ここをいじるとクラブが壊れるからクラブを作った方がはやく、と名古屋開催のロータリー研究会の席上ジョンジャーム会長に言われました。20万人、30万人、40万人都市を有する地方の中心のクラブでは、1つの古い名門クラブのみが増強に苦勞せず会員をキープ、その子クラブ孫クラブは会員が減少して会員維持に苦勞しています。会員20人以下のクラブがガバナーを輩出する時代が12～3年前から始まっています。それに気づいているガバナーさんの中には、クラブを変えよう、地区のクラブの戦略計画を立て変化していこうと、訴えられています。

今、理事会ではここ2～3年前からグローバル会員という言葉が出始めています。クラブを持たないネット上の会員です。多くは若い人で、奉仕活動希望者と言われています。これらの人々を会員として認めようという気配があります。年間1.3万人から“ロータリーに入会するには?”、“ボランティア活動をしたいのでロータリーに入りたい”というアクセスがあるようです。ガバナーが、ロータリークラブが誠意ある対応をしていないようです。法人会員、家族会員、準会員という言葉も出ています。保護者付きの未成年者も国際大会に参加させたらよいとか、国際大会に参加する若者の登録料を安くするという案も出ています。

愛知のあるクラブの友人が、お孫さんの夏休みに一緒にアメリカに行ったら、そのホームステイの家族全員がロータリーのボランティア活動に参加している姿を見たり、そのクラブ会長は25才の女の子というのを聞いて、ショックを受けたと話してくれました。会長の年齢はローターアクターの年齢です。主として南北アメリカ、中南米、オーストラリアなどではよくあるクラブのようです。バリーラシン会長は、ローターアクトクラブを倍増させ、25万人のメンバーをロータリーにかかえ込めないか、と考えているとかいないとか。ロータリー先進国では、クラブの会員数減少と高齢化が進行している為、あらゆる方策を模索されています。

以上申し上げましたことは噂話のように聞こえるかもしれませんが、理事会議事録、COLや理事会の決定事項を注意してチェックしますと世界の変化がよく解ります。

それを感じていただくために、配布資料を準備させていただきました。

今年1月、国際協議会にてビジョン声明がバリーラシン会長より発表されました。

(卓話配布資料へ続く…)

以上

<資料I>

— ビジョン声明 —

（2017年6月理事会決定。今後のR Iの重要な指針として普及させるよう指示があり）

「私たちロータリアンは、世界で地域社会でそして自分自身の中で、持続可能な良い変化を生むために、人々が手を取り合って行動する世界を目指しています。」

世界には、伝統と格式を重んじる先進国のロータリークラブと、支援を求める発展途上国のロータリークラブが存在します。古くからのクラブの中には従来の自分たちの方針を変えようとしなないクラブがあります。R Iとしては、このようなクラブに変化をもたらす必要性、危機意識を感じてこの声明を出したのではないのでしょうか？

また、2017年6月度理事会では以下のような事項が取り上げられ決定されました。

- ・ 2019年国際協議会に公式参加者として選ばれたローターアクターの出席を認める。また家族（特に18歳未満の子供）の出席を認める。
- ・ グローバルメンバーのプロジェクト評価を続ける。（クラブを基盤としない会員）
- ・ 国際大会に参加する30歳以下の人の登録料を安くする。
- ・ ロータリーの研修サイクルから地区指導者育成セミナーを削除
- ・ 職業奉仕委員会と青少年（新世代）奉仕委員会の責務を、社会奉仕委員会に統合する。
- ・ RCCとロータリー親睦活動委員会の責務を社会奉仕委員会に統合する。
- ・ 地区クラブ奉仕委員会をなくす。

（以上2017年6月理事会決定）

等々が最近の理事会で取り上げられています。大きくは、以下の20年のCOL決議を見るとよく解ります。

＜資料II＞

一 過去20年間の規定審議会の主たる決定事項 一

(多くの皆様方が思い出す重大な決定ばかりです。ゆっくり流れて今日に至っています。)

1995年（カラカス）

メイクアップ期延長（定例例会の前後2週）。

1998年（ニューデリー）

クラブ奉仕プロジェクトへの出席は、メイクアップ。「COLをRI唯一の立法機関とする」と決定。

2001年（シカゴ）

C O Lは常時シカゴで開催と決定（費用？）。この年以降のC O Lは例会への出席はさらに緩和拡大。会員基盤の多様性が進行していきます。

- ・ クラブ理事会の裁量で1ロータリー年度に4回まで例会を取りやめることができる。
- ・ 半期例会出席率が50%に達せず、またはホームクラブ出席率が30%に達しない場合、もしくは連続4回例会欠席の場合も、理事会の裁量で会員資格を終結させないことができる。
- ・ クラブが提唱した地域社会における行事や会合、または理事会が承認し指定した奉仕委員会会合への出席、もしくはクラブ理事会への出席を例会出席と認める。
- ・ クラブの指示がなくともローターアクト、インターアクト等の例会に出席すればメイクアップと認める。
- ・ 同一職業分類の正会員については5名以内、会員数が51名以上のクラブでは、その10%まで認める→一業種一会員制の実質的廃止

2004年（規定審議会）

- ・ 相互参加型のウェブ会合に30分間参加した場合には例会出席と認める。

- ・ ロータリー親睦活動への出席を例会出席と認める。
- ・ クラブの合併を認める。→クラブの会員数の減少に対する対応

2007年（規定審議会）

- ・ ロータリー財団学友を正会員とする。
- ・ 会員の資格条件に地域社会の活動に参加し、綱領への献身を示すことを追加

2010年（規定審議会）

- ・ 1地区にEクラブを2つまで指定できる。

2013年（規定審議会）

- ・ 衛生クラブを認める。
- ・ 仕事をしたことない人、または仕事を中断している人を正会員として認める。
→職業人以外の会員を認める。

とりわけ、2016年の規定審議会の決定事項は、ジョンジャーム元R I 会長に「ロータリーの潮目が変わった」と言わせるほどの大幅な改革でした。

2016年（規定審議会）

- ・ クラブ入会金規定を削除
- ・ クラブ例会頻度と出席に関する規定をクラブ細則で定めることができる。ただし、最低1カ月に2回は開催しなければならない。→毎週の例会という大原則が緩和される。
- ・ 祝日のある週は、クラブ例会の取り消しができる。
- ・ 従来型のクラブでもインターネット例会が可能

- ・ 会員身分の条件を簡素化。善良で、高潔性、リーダーシップを持ち、良い評判を受け奉仕の意欲のある成人とする。その他の従来の条件はすべて削除
- ・ ローターアクトとロータリー学友を正会員と認める。

2018年10月理事会決定—COLへ

- ・ ロータリアンアクショングループ委員会、ロータリーフェローシップ委員会、職業奉仕委員会
↑3委員会を統合して「ネットワーキングおよび奉仕グループ委員会」と改称
- ・ 人頭分担金1ドルアップ
- ・ ローターアクトクラブの育成を強化

そして、クラブの目的が新たに標準ロータリークラブ定款に加わりました。

(クラブの目的)

本クラブの目的は、「ロータリーの目的」の達成を目指し、五大奉仕部門に基づいて成果あふれる奉仕プロジェクトを実施し、会員増強を通じてロータリーの発展に寄与し、ロータリー財団を支援し、クラブレベルを超えたリーダーを育成することである。

ここでクラブの目的は、①奉仕プロジェクトの実施、②会員増強、③ロータリー財団の支援、④クラブレベルを超えたリーダーの育成、に規定されることになります。

以上

3.22 豊田RCの皆様へ 5年間の御礼

2019.12.25

前略

今年も残すところ1週間足らずとなりました。この1年、いやこの5年間お世話になり本当にありがとうございました。

この5年間のイベントといたしましては、次の様になるかと存じます。

2014年のロータリー研究会の見学と調査

2015年は準備のための実行委員会への参加

2016年11月 第45回ロータリー研究会の実施

(時の会長ジョン・ジャームをして、見事!!と唸らせた)

2017年6月 ロータリー財団100周年記念アトランタ国際大会の日本人親善朝食会主催

2018年6月 トロント国際大会の打上会

2019年6月 第48回ロータリー研究会(於神戸市)へ直前R I理事として参加

思い起こしますと、この5年間は貴兄にとりましては息のつく間もないくらい緊張の連続で、迷惑至極な月日だったと思います。同じロータリアンとして巡り合ってしまった縁として、御寛容の心でどうぞ御許しいただきたいをお願い申し上げます。

お蔭様で豊田ロータリークラブはロータリー研究会での活躍が高く評価され、一目も二目も置かれる存在になりました。また、2760地区内の委員会メンバーとして活躍されたここ10年間の実績も重ねて評価され、実に嬉しいことこの上もないものであります。次年度はクラブ創立60周年を迎えます。自分達が思っている以上に地区内のクラブはこの節目を注視しています。地区内のリーダークラブの一員として、豊田ロータリークラブの素晴らしい一年になるよう努力していきたいものです。

過去5年間に頂戴いたしました貴兄の有り余る友情と御厚意に厚く

御礼申し上げ、ロータリー研究会のために御尽力下さいました“真心”の
一区切りとさせていただきます。

友情に感謝しつつ……………。

草々

2019年12月25日

齋藤 直美



第45回ロータリー研究会 豊田RCメンバーに感謝

第4章

2018年度～2021年11月

公益財団法人

ロータリー米山記念奨学会 理事長

第4章

公益財団法人

ロータリー米山記念奨学会 理事長

2018年度～2021年11月

奨学会が誕生して50年余、この間に親身になって学生を迎え入れ励まし、蔭になって支えて下さった皆様のお力で、当奨学会の成功が生まれたと思っています。出身国のリーダーへと育つ学友達が、政治やビジネスと関わって国々や自治体を動かし、世界平和へと導く力となってくれることを信じてやみません。

外国人留学生の支援活動は、晩年のやり甲斐を作ってくれました。

4.1 財団設立50周年記念式典 RI理事祝辞

2018.2.4

財団設立50周年記念式典が盛大に開催されますこと、心よりお慶び申し上げます。

間もなく日本のロータリーは、創立100周年を迎えようとしております。この間、ロータリー存続の危機に遭いながらも活動を続け、そんな中で「米山基金」は誕生いたしました。米山梅吉翁の遺徳をたたえ、先の大戦で迷惑をかけた国々からの留学生を支援し、日本を理解してもらおうとする願いからのものでした。この奨学事業は、地区内外のクラブへの参加協力の呼びかけにより大きな事業となり、財団へと成長しました。また、世話クラブ・米山カウンセラー地区・クラブに米山委員を常設するなど組織を特色あるものとして導入し、留学生を物心両面から応援する血の通った奨学

制度へ整備してきました。そして今や、125ヵ国19,908名の元・現留学生を支える財団になり、全国のロータリアンの浄財により維持運営される榮譽ある公益財団法人に認可されるまでになりました。また一方では、「学会」という卒業生による支援団体が9ヵ国と地域に結成されましたが、これはロータリー米山記念奨学会の偉大なる財産、否、日本のロータリーが世界に強く発信すべき成果の誕生をみたのであります。

これからも、この優れた奨学制度の維持発展に努められ、各国の卒業生とその国のロータリアンの交流の場となり、世界平和のために活躍する人材の育成現場となられることをお祈り申し上げ、お祝いの言葉とさせていただきます。

4.2 米山記念奨学会の意義

2018.9.6 第9回定時評議員会

「米山記念奨学会の意義」という大学の講義のようなテーマをいただきました。このテーマは皆様方お一人お一人が講義できる方達ばかりで、新入生の私には手に負えないテーマなのであります。それで私としましては、米山に関心を持つきっかけを作ってくれたお二人との出会いをお話したいと思います。

クラブ会長を終えた翌年、地区の財団へ出向しました。その時に自分の母校で修士コースを歩む女子大生と出会いました。明るく、くったくなく、誰とでも笑ってお喋りをする英語が堪能な彼女は、地区では皆のアイドルでした。スイスの学会へ出席し論文発表をしたり、卒業後は名古屋で就職しインドのポリオワクチン投与に参加し通訳として活躍してくれました。久しぶりに出会った彼女は、2代目の米山親善大使でした。ウー・エイさんです。出会いから15年間、2760地区に拠点を置く彼女の成長ぶりを今も見せてもらっています。

もう一人はやはり中国からの青年で、天津医科大学を卒業した整形外科

科の医師です。関節軟骨の研究のために名古屋大学医学部整形外科に留学しました。教授が2学年上の仲良しの為、「齋藤、面倒を見ろ」となりました。日本語が達者で、天津生まれ、天津育ちの彼は、「私の町の天津には天津飯も天津甘栗もありませんからご注意ください」、と言うくらいのジョークが出ます。月1回出席する豊田ロータリークラブの例会では各テーブルから引っ張りだこの人気者です。青少年交換学生のスキー合宿に出席したりクラブの一泊例会に参加したりと、クラブで、地区で、なじんでいました。なによりうちの家内が養子に欲しいと言わしめた素晴らしい青年でした。名古屋大学の博士号を取得した後、アメリカのフィラデルフィアのトマスジェファーソン研究所へ留学して、北京大学出身の才媛と結婚し2人の男の子をもうけました。今は母国、天津医科大学付属病院の副院長となっています。

確かに天性のものが人間にはあるでしょうが、周りの人間が見守りいつも声掛けという単純な支援を行い続けることが、日本を好きになり勉学に自信をつけ前向きな人生設計を画いてもらう作業だとわかります。そして米山親善大使のような、日本が好きで母国のために日本のために活躍する超優秀な人材が育ってくれるよう手助けすることが、米山奨学会の意義ではないでしょうか。データとしての数値は知りませんが、米山奨学会との関係が途切れたメンバーには何があったのでしょうか？原因を追究する時にその学生さんの周りのロータリアン・カウンセラー・ホストファミリーの資質が問われると思います。米山学友会が各国に広がりつつありますので危機管理を含めて学生への対応が急がれます。そして日本のロータリーが世界へ強く発信すべきプログラム、また青少年育成のための、平和希求のための奨学事業として、各国学生憧れの奨学会になるよう努力したいものです。

4.3 RID2620 米山学友会10周年記念式典 祝辞

2019.3.3

こんにちは！御紹介いただきました齋藤でございます。

本日は、2620地区米山学友会設立10周年記念式典の開催、誠におめでとうございます。学友会の皆様方は母国で大学卒業後、日本の大学や専門学校で最高の教育を受けられ専門家として実社会へ出られました。又は、その途中の知識人集団であります。この専門家と呼ばれるためには、大学、専門学校を卒業してから少なくとも10年間は修業に励まなくてはなりません。大工さん、料理人（シェフ）、弁護士、エンジニア、医師等々、専門職の人々は眠る間を惜しんで努力します。米山学友会の皆様も、この10年同じ努力をされていたと思います。その姿を、実はロータリアンは見ているのです。米山学友の皆様は、その努力があるから皆優秀だと評価されています。これからも周りに居るロータリアンの方々と交流を深めて下さい。きっと沢山の発見があると思います。

2つ目は、日本国内にある33の学友会の皆様と交流を深めて下さい。きっと同郷の仲間や他国のすばらしい仲間との出会いがあると思います。

3つ目は外国にある9つの学友会と交流して、世界に米山のネットを作して下さい。

4つ目はロータリーの国際大会の分科会に参加して、フェイストゥーフェイスの交流会を持ってください。今年7月のウランバートルの学友大会には、大勢の仲間に参加しましょう。

以上申し上げました4つの交流への参加は、学友会の世界的ネットの構築強化に、そして米山学友会の願いであります世界平和へとつながると考えます。

10周年記念まことにおめでとうございます。終わります。

以上

4.4 よねやまだより 理事長挨拶

2019.7月号「ロータリーの友」

ロータリーは新年度を迎えましたが、昨年度、公益財団法人ロータリー米山記念奨学会は全国のロータリアンの皆様の御支援のおかげで、当初の計画通りの事業を遂行することができました。昨年よりも17名多い871名の奨学生を採用することができました。また、624名の卒業生を世界へ送り出すことができました。これもひとえに、奨学生のカウンセラーとして昼夜を問わず支えて下さいました真心の賜物であります。また、ホストクラブとして学生と地区を、さらには母国とを結ぶ努力を頂戴いたしました友愛の心の贈り物だと思っております。改めて感謝申し上げます。新たな奨学生達のオリエンテーションを4月末までに済ませ、カウンセラーや指導教官との対面を行い、奨学生としての義務やロータリーについて理解をしてもらうようにしました。これからもクラブの皆様が温かく迎えて下さるようお願い申し上げます。

私は、昨年9月に理事長を拝命しましてから、3ヵ国2地区の学友大会に出席してまいりました。その感想を一言で申し上げれば、米山記念奨学会とカウンセラーへの感謝の言葉と笑顔に満ちあふれた会合でした。そして、学友同志、他国の学友との絆づくり、そして母国建設への意欲あふれるものでした。いたく感動して帰路につきました。

また、昨年のクリスマスイブを翌日に控えた23日は、北京で迎えました。米山華北分会の総会に出席するためでした。30人位の学友が集まっていました。その輪の中に懐かしいあの人懐っこい笑顔の韓霏君が居ました。すっかり大人びて今は天津医科大学に務めていることを知りました。また、名刺交換をするうちに5～6人のメンバーは、実は私と同じ2760地区（愛知県）の大学の卒業生で、しかも2人は我が町豊田市の二つのロータリークラブがホストをしていたではありませんか。カウンセラーは歯科医の浦野先生、鈴建の鈴木社長だったと知り、なんだか自分がカウンセラー

だったような親近感を覚えました。嬉しいことに今でもLINEがつながっているとのことでした。宴がすすむうちに、華北分会愛知会という言葉も出て、勝手に盛り上がってしまいました。以上、報告させていただいたような事例は各地区、それぞれのロータリアンに無数にあります。米山奨学会の広報担当では、このような事案の投稿をお待ちしています。

ところで、米山学友会は、今夏7月、第2回世界大会を「絆inモンゴル」とテーマを掲げウランバートルにて開催します。第1回熊本大会を引き継ぐものであり、参加学友とロータリアンのためにチャーター便が飛びます。モンゴルの草原で満天の星の下に、友情をあたためる大会になることを期待しています。そして第3回は、2021年台北市で開催されます国際大会に合わせて開催するのはいかがでしょうか？楽しみにしています。

最後に皆様にお願ひがあります。地区内には米山理事、評議員がおります。この方々を地区大会、地区委員会、IM、クラブ例会等にお招きいただき、大所高所より御意見を伺ってください。米山奨学会についてのセミナー・研修会が開催される度に米山事務局長、担当事務員が呼ばれ、その説明にあたるには限度があります。是非とも地区内の頭脳集団であるパストガバナーに御相談下さい。そして応援をしてもらって下さい。

今年もまた米山奨学事業にお一人お一人の御支援を賜りますようお願い申し上げます。



中国米山学友会(華北分会)訪問

4.5 よねやまだより ご寄付に感謝

2020.1月号「ロータリーの友」

前略

いつも米山記念奨学事業に温かな御支援をいただき、心より御礼申し上げます。

お蔭様で昨年は14億円余の御寄付を頂戴致しまして、862名の奨学生を採用することが出来ました。これはひとえに皆様方が奨学生を励まし、学業へ専心できる環境づくりをして下さり、心を通わせ下さいました嬉しい成果と思っております。

さて、米山記念奨学会学友は今や21,000人を超え、日本の32地区と海外9ヶ国に学友会を設置し、現地のロータリアンと交流を深め互いにネットワークを結び広げ、奉仕活動を行っています。

2019年8月28日モンゴルのウランバートル郊外の草原にて、第2回世界米山大会が「絆inモンゴル」をテーマに開催されました。世界の学友の“平和を希求する思い”を込めた素晴らしい大会でした。日本から参加したロータリアンは、モンゴル学友とロータリアン、ローターアクターの心温まるもてなしに感動し握手をかわし、そして第3回世界大会の2021年6月12日台北市で会いましょう、と帰国の途につきました。

奨学会が誕生して50年、この間に親身になって学生を迎え入れ励まし、そして送り出していただいた大学教官の方々、カウンセラーのロータリアンと御家族の皆様、蔭になり支えてくれた地区役員のお力で、このような大会の成功が生まれたと思っています。これから10年、20年後には、3万人、4万人余の学友が巣立っていき、ネットワークを作ります。これは米山記念奨学会にとりまして想像すら出来なかった大きな力になろうとしています。学友達は出身国のリーダーとなって育っております。日本とつながり世界とつながり、政治やビジネスと関わって国々を、自治体を動かし、世界平和へ導く力となっています。これからどうぞ学友を、明日のリーダーを

育てる奨学会事業にお力をお貸し下さいますようお願い申し上げ、御礼の挨拶いたします。

草 々

4.6 よねやまだより 年頭雑感 ～ 新しい年度を迎えて ～

2020.7月号「ロータリーの友」

今日、緊急事態宣言が39県にて解除されました。この3ヶ月間、自粛というソフトな行政命令で社会経済活動は禁止状態が続きました。人影が消え、消費活動が消え、倒産がドミノ倒しで起こり始めており、大学生のバイトが無くなり日給で生活する人々の困窮が始まっていますから、この解除はタイミングがよかったと素人なりに感じています。このような事態に直面してみますと、改めて米山記念奨学会の支援金額の重みを実感できます。当会の本来の意図(目的)が力を発揮してくれました。必要最低限の生活を支え、「勉学・研究に専心して下さい。学位を取得し、帰国して母国建設の為に尽くしてください。日本との友好構築の努力をして下さい。」との願いがこのコロナ禍を機に再認識されました。偉大な事業であることを改めて私達に教えてくれました。

それだけではありません。米山奨学会には学友会組織が新たに誕生し、日本国内の、留学生の母国の危機に、災害にいち早く対応してくれる支援組織に成長してくれています。その活動事例は、世界で日本での災害発生の時に必ずいち早く支援物資や義援金を集め届けてくれていることは、ご存知の通りであります。まさに学友は米山奨学会の財産であります。日本のロータリー100周年にあたる今年度は、学友と学友会が国際親善と世界平和促進のためにさらなる努力をしていただけるものと期待されます。

ところで、コロナ禍が拡がろうかと危惧された本年1月、私は上海市で

開催された米山学友会総会に出席してきました。日本語で会を進める会合は、日本国内のRCの例会と同じで違和感はなく、その進め方で米山学友会の成熟度がよく解りました。その席上、長野県中野市の中野RCにお世話になったという青年に会いました。驚きました。私も小・中学生時代を中野市で過ごしました。同級生には2600地区2011-12年度ガバナー綿貫隆夫君がいます。ロータリーの縁で、半世紀ぶりの再会となり、今でも交流は続いています。

最後に、当奨学会事務局スタッフが新たになることをお伝えします。岩邊事務局長の退任にともない、柚木裕子氏を後任に迎えました。大学在学中にロータリー財団奨学生に選ばれて以来、ロータリーと深く関わってきましたロータリー通であります。また、多忙をきわめる局長を支える為の次長職を新設し、峯純子氏が任にあたります。二人をどうか温かく見守り育てていただきたくお願い申し上げます。

さて！ポストコロナ！米山の組織運営を元に戻していきます。

4.7 東京米山友愛RC創立10周年 祝辞

2020.9月

東京米山友愛ロータリークラブ創立10周年、誠におめでとうございます。この区切りとしての10年目をお祝いしようと努力されている、劉艶明会長と楊錦華実行委員長以下、クラブの皆様方の熱い思いにとっても感動しています。貴クラブが創立された2010年2月は、日本中のロータリー仲間には衝撃が走りました。日本国内では今までにないタイプのロータリークラブの誕生だからでした。スポンサークラブはどこなのだろう、特別代表は誰だろう、ガバナーは地区は協力的なのだろうか？職業分類に基づいて人選されているのだろうか？等々、様々な疑問が脳裏をかすめたことを鮮明に記憶しています。その後、2750地区の増強に役立ったとか、これに刺激

された他地区に同じタイプのクラブの成立が検討されているとか、噂として伝わってきましたが、正しく貴クラブの活動が伝わってこなかったように思います。2016年の規定審議会の決定、つまりクラブ運営の柔軟性、クラブ会員の多様性と例外規定の採用は、貴クラブの時代を先取りする先見性をものの見事に証明してくださいました。その後、貴クラブが10ヵ国にも及ぼんとする出身国の会員構成の多様性を活かして、日本国内をはじめアジア諸国での教育・貧困問題の解決への支援活動の具体例が多数あります。最近ではグローバル補助金活動に成功され、被爆樹木を通じた平和教育活動プロジェクトを行ったと伺っております。このように、ロータリークラブとして素晴らしい成長を遂げられていることを示す、数々のボランティア活動の報告を耳にしたり活字として目にしたりする機会が増えました。貴クラブのこのような活躍は、日本国内の各地区リーダーへインパクトを与え、Eクラブの誕生、同じような会員構成、よく似たクラブ運営をする新しいロータリークラブの誕生が後に続きました。

今回のパンデミックを転機に社会のあり様は大きく変化していくと考えられます。ロータリーも例外ではありません。今まで以上の速さで変化していくと思われますから、その対応が求められます。貴クラブにおかれましては、後に続く皆様のお手本としてさらなる御発展をされますよう御祈念申し上げ、10周年記念の挨拶とさせていただきます。ありがとうございました。

4.8 米山月間によせて

2020.10.1 豊田RC卓話

こんにちは！米山記念奨学会の理事長を仰せつかっています齋藤でございます。日頃は米山へ多大の御寄付を頂戴し、感謝申し上げます。

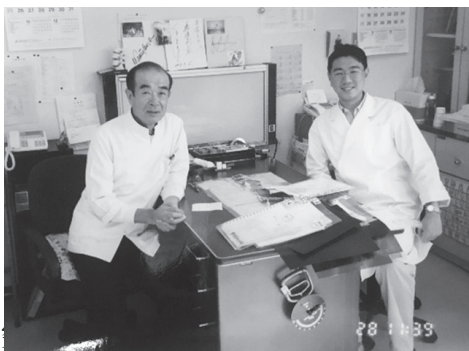
今月は米山月間ということで、会長・幹事から米山について話をするように命ぜられましたので、パワーポイントを使いながら話をすすめていきたいと思います。

米山記念奨学生のコン・メイワンさんを、この春まで豊田RCがホストクラブとして、メンバーの光岡さん、朝比奈さん、杉浦敏夫さんがカウンセラーとしてお世話してきました。3月には卒業するので追い出しコンパを予定していたと聞きましたが、コロナのため実現せず残念でした。今は山口県で働いています。

過去豊田RCは12名の学生をお世話してきました。

私も縁があって、3人目の韓霏さんのカウンセラーをしました。彼の簡単な経歴です。

1971年 天津市生まれ
 1995年 天津医科大学卒業
 1997年 名古屋大学医学部
 大学院整形外科専攻
 1997年 米山記念奨学生
 1998年 3月5日 卓話
 2000年 博士号取得
 トマスジェファーソン研
 2003年 5月 一児のパパ(男の子ばかり)
 現 在 天津医科大学国際医学部長、教授



偶然にも同じ研究室の後輩ということでそうなったのです。担当教授より依頼があり、週に1回僕のところへ通ってきました。日本の整形外科の一線の実習でした。週一のドクターということで職員と仲良くなり、豊田おいでん祭りにも当院の踊り手として参加しました。

彼の人となりからクラブメンバーに可愛がられました。

永野会長、直前会長 浦野さん、直々前会長 河原さん、松尾さん、河木さん、



梅村さん、永田先生、永野年度幹事 杉本さん、事務局の小出さん。

2002年、学会誌掲載が遅れ、博士号を取得してアメリカのフィラデルフィア市トマスジェファーソン研究所へ。岩田教授と天津の御両親にお会いしに行ってきました。

在学中に青い目の嫁はダメだよ、と伝えてありましたので、黒い目の北京大学の才媛と結婚しパパとなりました。男の子でしたので兜と鯉のぼりを持って行きました。ニューヨークから車で70分の自宅です。



現在の韓霏さん

続きまして、お役目の米山記念奨学会について説明させていただきます。

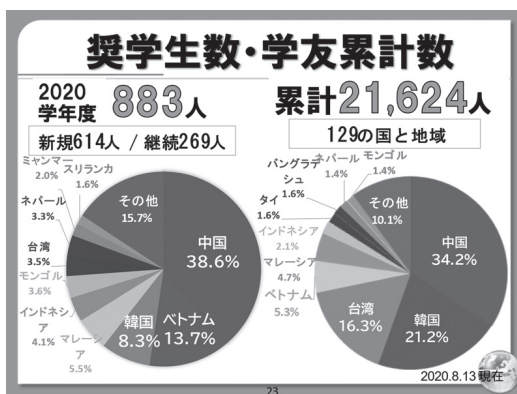
まず、この米山記念奨学会は米山梅吉さんが自分の財産を基に作ったものではありません。米山さんの遺徳を称えて東京RCが米山基金として提唱し、全国へ呼びかけて順々に強い会へと成長していきました。組織が大きくなり（予算も10億から今や14億円、採用する奨学生も700人、800人、今や900人になろうかとしています）、制度が整備され、事業の使命もより明

確になってきました。

『将来、日本と世界とを結ぶ「懸け橋」となって、国際社会で活躍し、ロータリー運動の良き理解者となる人材を育成すること。— 平和と国際理解の推進 —』

この奨学金制度という事業の特徴は、(1)世話クラブ・カウンセラー制度(奨学生一人ひとりに地域のRCが世話クラブとなり、世話クラブ全員がカウンセラーとなり、日常の相談役を務める)、および(2)財政と寄付(財源は寄付金であり、運営はロータリー)となります。

それでは奨学生・学友はどのようなものなのでしょうか？



ロータリアンとなった学友

ロータリアンとなった学友 239人

国・地域別 (18カ国)	台湾	韓国	中国	その他
	82人	68人	48人	41人

うち、ガバナーになった学友3人

林 隆義氏 (韓国) 1997-98年度、RID3650

許 國文氏 (台湾) 2005-06年度、RID3490

林 華明氏 (台湾) 2015-16年度、RID3520

学友とロータリークラブ

学友を中心に設立されたロータリークラブ5つ

1995年1月	台北東海RC	第3480地区
2007年3月	台中文心RC	第3460地区
2010年3月	東京米山友愛RC	第2750地区
2012年6月	東京米山ロータリー Eクラブ2750	第2750地区
2014年3月	さいたま大空RC	第2770地区

やがて各国、各地域にOB会(学友会)が結成されるようになり、米山学友世界大会が1年おきに各地で開催されるようになりました。



このように大きな世界的な規模で拡大する学友会を、米山記念奨学会の財産として育てていくつもりであります。どうぞ御支援賜りますようお願い申し上げます、私の役目を終わらせていただきます。

4.9 米山記念奨学会 次期地区委員長セミナー 挨拶

2020.12.2 ZOOM会議

こんにちは！理事長を拝命しています齋藤直美です。寒くなってきました。そして妙な感染症が広がっていますが、御元気でいらっしゃいますか？

今年度の第1回理事会をWEB型式でしか開催できないことを、非常に残念に思います。やはり皆様の吐く息や手のぬくもりを感じながら、つながりを意識しながら会議を進めたいと思っていましたが、11月24、25日のロータリー研究会にフルに参加してみましたら、これと同じような近いような感覚が生まれました。“ああ、これもあかな？”と思いました。本日は「300人の登録があり、250人参加」と聞いております。宜しくお付き合いください。

今年度も、皆様からの御支援は順調に推移しています。御存知のように883人の奨学生を採用することが出来ました。10月の米山月間を境に、寄付も一気に対前年度比0.5%増となりました。これは本事業に対する日本のロータリアンの熱い思いのあらわれだと思います。顔の見える寄付が、そして

育ってくれた子供達が確実にスキルアップして社会貢献してくれている姿を目の当たりにしているからだと思います。11月25日に開催されたロータリー研究会財団セミナーの席上、モンゴルの学友に助けられたモンゴルの視覚障害者支援の話が御披露されました。

また当奨学会は、御寄付いただく個人や法人は叙勲の対象となりました。これに関連することですが、学友のお二人がこの秋、叙勲を受けられました。お一人は、謝^{しゃ}牧^{ぼく}謙^{けん}さん、もう一人は劉^{りゅう}耀^{よう}祖^そさんです。いずれも台湾と日本の理解促進・友好親善に寄与されたことを評価されたものです。私達にとりまして嬉しい話、栄誉なことだと思います。

お二人の紹介は米山だよりにお譲りして、本事業が人材育成事業であり、学友が米山の財産であることが改めてよく解ります。委員長の皆さん、どうか残された期間を地区ガバナーと相談され当初の事業計画を全うされますようお願いしながら、挨拶いたします。

4.10 台湾米山学友会総会 挨拶

2020.12.5

ニイハオ!こんにちは!

台湾米山学友会総会の開催、まことにおめでとうございます。本日の総会は、郭錦堂理事長をはじめ、歴代理事長や会員の皆様方の、米山学友会への熱い思いとして開催されたと思います。ここに改めて敬意と感謝を申し上げます。

今年の初めより始まりましたコロナウィルスの感染拡大はあまりにも速すぎまして、日本国内では感染予防のマスクが大きく不足する事態が発生しました。この現況をすばやくキャッチした貴学友会は、支援活動を直ちに開始して、沢山のマスクをお送り下さいました。そして、日本国内の多くのロータリークラブは、その恩恵にあずかり、地元の医療機関にそのマスクをお届けすることが出来ました。この支援活動はほ

んの一旦にすぎず、災害が発生するたびに御助力をいただいています。

また、台湾に留学する日本人留学生のための奨学金制度を設立・継続され、感謝に耐えません。

これからも、共にロータリーの目的である世界平和のために、互いの友情が永遠に続くよう祈ります。

4.11 よねやまだより 理事長年頭挨拶

2021.7月号「ロータリーの友」

希望にあふれた新年度を迎えました。これ以上日本はコロナ被害にさいなまれることはないでしょう。団結した時の日本人はすばらしい“力”を発揮しますから。皆様の御支援も微減という素晴らしい成果を頂戴いたしました。ありがとうございます。

なにより嬉しいのは、このような状況下にも関わらず、米山奨学生への支援活動が少しも衰えていないことです。各々の地区での、クラブでの、学生との交流は、感染を最大限に防御しながら続けられています。卒業式、合格祝、オリエンテーション、入学式と交流を続ける努力をしています。とにかく奨学金を届けるよう、銀行振込を認めたり、日本へ長期間入国できない奨学生への特別措置を認めたり、規定内での最大限の配慮を行っています。

3日前の4月21日、嬉しいニュースが届きました。私の友人のロータリアン、韓国学友会の会長 全炳台氏(韓国建国大学名誉教授)からメールが入りました。それには、東北大学大学院留学中の思い出話、とりわけ日本の皆様方にお子様や奥様も含め、身に余る御親切を受けたことが記されておりました。一昨年、京都の大学に入学した孫娘が同級生とともに二人で「韓国グルメ」の旅にソウルを訪問しました。その時に、ソウル滞在中のお目付けとして彼にお願いしました。無事に帰国でき安堵いたしました。コロナ禍が終わりましたら、彼と日本グルメの会を持つ予定です。

4月15日は2760地区米山奨学生のためのオリエンテーションが、午前18人、午後19人に分かれて開催されました。その席上、ある指導教官をお勤めいただく教授と名刺交換しました。先生の教室では、「モンゴルやウズベキスタンの教育行政官など専門官の育成を行っている」とのお話を伺い、米山奨学会の果たしている人材教育の広さを実感しました。

2020年度末、累計22,000人余りの米山奨学生が世界に巣立っています。そして各々の分野で、地域で、リーダーとして輝いています。

このような事例は、米山学友の世界ではごまんとあることなのですが、お互いの信頼関係があってこそ成り立つことでしょう。改めて本事業の価値を見直しています。

以上

『海外の米山学友会総会 訪問履歴』

2018

- 12月 1日 台湾米山学友会 総会、台湾・台北
- 12月23日 中国米山学友会(華北分会)忘年会、中国・北京

2019

- 2月 9日 タイ米山学友会 総会、タイ・バンコク
- 7月27日 世界米山学友の集い「絆inモンゴル」、モンゴル・ウランバートル
- 11月30日 台湾米山学友会 総会、台湾・台北

2020

- 1月11日 上海米山学友会 総会、中国・上海



2020年1月 2770地区IMIにて米山学友と

第5章

いままでのロータリー
これからのロータリー

第5章

いままでのロータリー これからのロータリー

5.1 名古屋栄RC IM新人研修セミナー

2011.5月

皆さんこんにちは。豊田RCの齋藤でございます。本日はI.M.という非常に大事なミーティングに、講師という形でお呼びいただきまして、身に余る光栄であり、感謝申し上げます。

去年の秋だったと思いますが、ホストクラブの栄RC前会長の長瀬さんのほうから、I.M.講師の話があり、「新入会員の皆さんにロータリーを分かり易く話すように」と、西村教授からは「皆に発破を掛けるような話を」と、難しい注文を頂戴しました。特に長瀬さんは地区の環境保全委員長の時も、私に「これからのロータリーのテーマは何でしょうか」と難しい質問をされた方で、私は「多分、青少年の育成支援と環境保全が主要なテーマになるのでは」と苦し紛れに答えつつ、そうした質問を非常に嬉しく思ったものです。それから長瀬さんとは親しくさせていただいております。

秋からせっせと資料集めをし、半年でファイル2冊になりましたが、どういふ話をしていくか悩みました。結局行きつくところは、私が新入会員だった頃の話をして、少しでも皆さんのお役に立てればということになりました。

困ったことに、私は優秀なロータリアンではなかったですね。いつ理事

会で除名処分を喰らってもいいような、不良会員でした。入会を誘ってくれたのが、豊田北部の大地主の方で、名鉄電車を自分の敷地内に引き込むというような荒業をやってしまう、そんな方でした。私は、会員の義務として、出席をする、「ロータリーの友」を読む、会費を納めるという3原則の話も全く聞かないで入会しているようなわけです。

3年経つか経たないかの時に、「面白くない、ただランチを食べに行くのか」というようなことで、退会届を持って行きました。その時は結局引っ込めましたが、それから7年位経ち、また退会届を持って行きました。すると、青年会議所の仲間たちから「地域のリーダーとしての面目が潰れるだろう、そんなことをしていいのか」と延々と説かれまして、なるほどなあと言っ込みました。

それからというもの私は、ロータリーを単なる異業種交流会と考えて、ゴルフ会、飲み会、一泊旅行、忘年会等にせっせと出るようにしました。地区大会やI.M.は全て欠席で、例会はさっさと早退する、席を立つのは斎藤と決まっていたんですね。ある地方銀行の頭取が言いました。「あなたはロータリーに入る条件が整っていない。その条件整備をするのが先だろう」と。こっぴどくやられて、以後、何とか仕事のほうを法人組織に立ち上げるところまで持っていました。

2000年1月、次期役員の発表で「副会長、斎藤君」と言われ「はい」と答えたんです。同じテーブルにいた大勢の仲間から「おめでとう」と言われて、何だろう、と意味がわからなかったですね。副会長をやってから会長エレクト、会長というのがRCのしきたりだということすら知らなかったのです。

ロータリーに関して私は、失われた20年というような長い歳月を過ごしていました。何か参考書はないかとパニくって、クラブの書庫にあった「ロータリーに関する14の断章」松井幸雄著という本に出会いました。1970年の本で、松井さんは2500地区ガバナーで歯科医です。目次を見ま

すと「ロータリークラブとは」から始まり、「国際奉仕とは」「ロータリーとは」とあります。私は小躍りして喜び、これをむさぼり読みました。

2冊目の出会いは「ロータリークラブその理論と実態と批判」小堀憲助著。これは非常に重い本で、ロータリーは哲学ですよ、人生の生きざまですよ、ルールはこうで、職業奉仕とはこうで、と実に懇切丁寧に書いてあります。私は本を後書きから読む癖がありまして、後書きに「3名の優れたロータリアンのご協力を得て」とそうそうたるお名前が載っていたのがまた非常に嬉しくなりました。

そのロータリアンのお一人、紋別港RCの田巻明男さんという方がお書きになったのも凄い本でした。先生が「本は幾ら読んでも良い、それを孫引きしても良い」とおっしゃるので、私は片っ端から読みましたね。会長が始まる頃は自信満々で、これだけロータリーの知識がある奴は我が豊田ロータリークラブにはおるまいと自惚れておりました。そして、豊田RC新入会員のための本まで作ってしまいました。

皆さん御存知の通り「出席なくして親睦なし、親睦なくして奉仕なし」というフレーズがあります。私の同期に青森のガバナーがいらっしゃり、彼は各クラブをお願いして、例会ですっとこれを唱和してもらったそうです。例会出席については、私も不良会員でしたが、考えてみますと空白の20年というのが、例会の意味を知らずに過ぎてしまった20年であったと。1業種1人の意味を、「俺、エリートなんだ」と勘違いしていましたね。

例会に行きますと、業界では会わない素晴らしいリーダーとお会い出来ます。決してお喋りすることのないような方とお会いして、仕事上のヒントとか、社会人としての所作、専門的知識など様々なものを頂戴するわけです。逆に言うと、自分も専門家としての知識を差し出しているわけです。お互いに発信し合うわけですね。

例会に出ることは、クラブ奉仕なんですよ、と同時に、職業奉仕をやっているんですよということに、私も会長が終わる頃やっと気付きました。

ロータリーは例会を最重要視するという意味が、実はこのクラブ奉仕と職業奉仕を通して、それを職場・家庭・地域に持って帰るということにあるのです。

それから、「ロータリーの友」ですが、私は、どこの奉仕団体が何をしたというような記事が多く気に入らず、20年間、全部ゴミ箱でした。しかし、最近よく分かりましたが、「ロータリーの友」は知識の宝庫ですね。今年は1月号がシェルドン特集で、「忘れ得ぬその名はシェルドン」とあります。新入会員の皆さんはぜひアーサー・フレデリック・シェルドンという名前を覚えて下さい。ロータリーの真髄、職業奉仕という概念を作った人で、「He profits most who serves best.」というフレーズがあります。

ガバナーが終わった頃、私はあちこち散歩くようになりました。ロータリーの理論勉強ばかりして各クラブで偉そうなことを言っていましたが、社会奉仕や国際奉仕の世界へ飛び込んでみよう、と、地区のWCSに参加しました。愛知奨学基金のチェンマイでの授与式です。地区では20年前にチェンマイの小学生のための基金を作り、毎年、70人位に1年分の奨学金を授与しております。また、ラオス奥の部落に学校を建てようということで、2005年に小学校を建てました。半田RC 杉浦さんらが一生懸命やってきた成果です。他は、去年のインドでのポリオプラスで、青森や愛知のメンバーが参加しました。私は特に国際奉仕の活動がロータリーらしいとは思いませんし、好きな方がやれば良いと考えますが、今年もまたインドのポリオプラスに行く予定でおります。

よく出す絵ですが、これはモネ、ルノワールと同じ頃に活躍したモリゾの



モリゾ作「自画像」1885年

1885年位の自画像です。自己主張する強い眼差し、背筋をピンと伸ばし職業人としてのプライドを感じさせる、素晴らしい絵だと思います。私たちはこういう姿勢を見せながら、自分の周りに様々なドラマを作り上げていく。そのドラマの一つが、やっぱりロータリーであろうと私は思うようになっています。

私が入会した頃、大先輩から「ロータリアンスマイル」という言葉をいただきました。例えバッジを付けていなくても、物腰と顔から絶対ロータリアンだと分かるスマイルがあると。私もロータリアンスマイルが滲み出るような男になりたいと思ってきたんですが、遠く及びません。

ロータリーは、考えてみれば、すべて応用問題。出発は親睦と奉仕のアイデアであると、RI会長レイモンドが1927年に既に言っています。例会でロータリーソングを歌うのは、ハリー・ラゲルスという5人目のロータリアンが、例会が陰悪なムードになってきたから歌おうと言ったからだそうです。それから、親睦委員長になった歯科医の奥さんが料理好きでパーティーばかりやったので、親睦例会がそういう形になったとか。そもそも例会をやるようになったのは、ポール・ハリスが寂しいから一度会合をやろうと4人集まり、自分の故郷を語り、人生を語った。そこが出発点なんです。

最後にまたこのフレーズが出ます。「出席なくして親睦なし、親睦なくして奉仕なし」。この後に続く「奉仕なくして感動なし」。これがロータリーの真髓の様な気がします。でも、ロータリアンはあくまでも自分の会社を大きくすることです。それがロータリアンに課せられた使命だろうと思っております。

5.2 戦略計画とクラブの活性化

2015.10.24 RID2780地区指導者育成セミナー

御紹介いただきました豊田RCの齋藤でございます。地区大会の開催、おめでとうございます。また、田中ガバナーさんに、荣誉ある地区指導者育成セミナーの講師としてお招きいただき、感謝申し上げます。また、本日10月24日は世界ポリオデーでありまして、この記念すべき日にスピーチの荣誉を賜り感激しております。しかし私は、本日はとても緊張しております。この地区には、日本のロータリーの重鎮でいらっしゃるPGの神崎先生、元RI理事であり元ロータリー財団管理委員、現公益財団法人ロータリー米山記念奨学会理事長の小沢一彦様、そして元RI理事 松宮先生と御三方がいらっしゃいます。その御三方の前でスピーチをするような見識も度胸も持ち合わせておらず、緊張し恐縮しております。田中ガバナーさんから頂戴致しました宿題は、「戦略計画とクラブの活性化」ですが、この2780地区にはすでに戦略計画委員会が配置されています。2750地区や2650地区と並んで、戦略計画先進地区でありますので、後進地区の愛知の私には荷の重い本日のテーマであります。お役目と心得、自分なりに考えてみました。従いまして、非アカデミックなクラブの戦略計画について、話をさせていただきたいと思います。戦略計画と言いますと、どこの研修会に行かれましても、この図(次ページ参照)が必ず出てきます。ここにお集まりの方々には、「またか!」とか「その図はもういいよ!」とおっしゃられそうなので、この図の類は出来るだけ使わないで、本論と外れながら話を進めてまいりたいと思います。

まず戦略計画を考える時に、自分の町の現状分析とその歴史を知ることから始めるのがよいのではと考えています。町の変化が読めるからです。そうすれば、我が町の中で、「自分達のロータリークラブが何をしたら地域の人々のお役に立てるのか?」が解ってくるのではないかと思うからであり、解れば、あとは立案と実行あるのみです。ここまでの作業が出来

ましたら、3つの戦略的優先項目のうちの2つの柱、「クラブのサポートを強化」及び「公共イメージと認知度の向上」の項目をクリアーしたことになるのでは、と考えます。第3の柱は、グローバル化された地球規模での人道支援への参加です。その参加の形は多様であってよいと思います。ただし、「人道的奉仕の重点化と増加」が求められていますから、充分にご検討ください。

戦略的優先項目と目標



ロータリーの戦略計画は、3つの戦略的優先項目を掲げ、その下に16の目標を定めています。ロータリーが将来も強く活気ある組織であり続けるために、私たちはこれらの優先項目と目標を指針としています。

R I 戦略計画



申し遅れましたが、自己紹介させていただきます。昭和13年(1938年)生まれです。ロータリー入会は1979年2月ですから、もう36年になります。職業分類は整形外科、卒業して10年で開業いたしました。当時は、整形外科をまあ開業してよかろうという技術水準は、腰と首の椎間板ヘルニアの手術を、そしてポリオの後遺症を持つ子供達の下肢の障害の矯正手術を執刀医としてやれる、というものでした。開業してすぐJCに入会させていただきました。当地区の小沢一彦さん、麻生太郎さん、大阪の鴻池さんが在籍されていて、とんでもない組織に入会してしまったと思いました。しかし、自分の町の町づくりを考え、明日のリーダーを夢見て切磋琢磨する若者の為の良い組織だと思います。その組織を通じて、名古屋の一流の経営者のジュニアとお付き合いさせていただいて、とても刺激を受けました。

当時は、老人病院の設立を思いついたのですが、大学の研究室から整形外科医のやることじゃないと叱られました。当時、交通事故、労災事故が多発して救急病院が不足していましたので、第2、第3の斎藤整形外科クリニックの分院システムを考えましたが、医師会で反対にあいました。チェーン化するつもりか?と。

40年経ってみますと、老人病院は、特別養護老人ホームやら老健となって町が変わり、私の第2、第3病院のチェーン化に反対した内科・外科の先輩方は、老健やデイサービス、デイケアと介護事業へ参入してその業態を変えました。我が町豊田に存在した下町の小さな工場は消え、その工場を頼りにしていた喫茶店や食堂が消え、チェーン店ばかりが目立ち、またそれも直ぐにオーナーが変わります。豊田の町は恵まれているとはいえ、市内の事業所の形態が変化しはじめました。豊田ばかりではなく、日本中の町々はこの30年、40年で大きく変化しているようです。

町々が変化している中で、“ロータリークラブ”は何をやろうとしているのでしょうか。その存在意義は何でしょうか? 地域の人々に役立っているのでしょうか? クラブの会長-幹事は“何をやりたいか?”ではなく、

“何をしなければならないか？”を考えなくてはいけない時代に入ったと思います。

クラブのメンバーは、自分の町が変わってきていることの確認作業から、続いて我々ロータリークラブは“何をしなければならないか？”を自問自答することから戦略計画は始まります。戦略計画は、地域社会に貢献していくための将来への指針であり、リーダーが毎年交代しても一定方向(目標)へ向かうことを維持するための計画です。そして3つの戦略的優先項目を持っています。戦略計画と言わないで、「我がクラブの目標—ここ3年間でやるべき事—」、「強いクラブを作ろう」というキャッチコピーにしたらなじみ易いのではないのでしょうか？

3つの戦略的優先項目

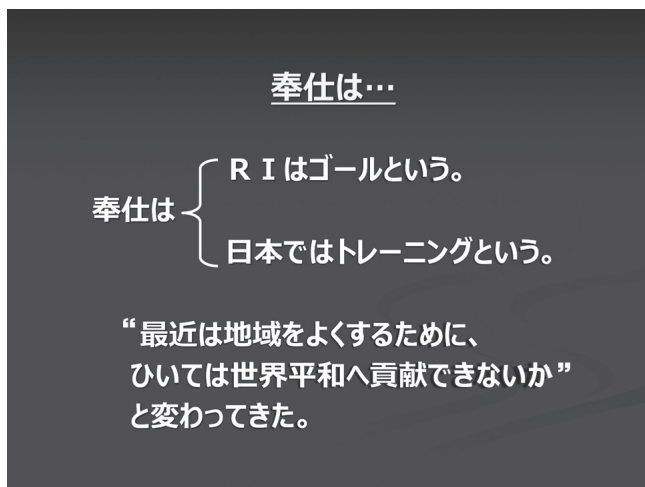
①クラブのサポートと強化(目標7項目)

②人道的奉仕の重点化と増加(4項目)

③公共イメージと認知度の向上(5項目)

さて、次にロータリーが変わってきているということを認識しなくてはなりません。とりわけ奉仕の概念が変わってきています。変化していることを知ることは、怖いこと、認めたくないことですが、ロータリーというグローバル化された善意の団体の在り方が、大きく変わってきていることに我々は気づかなければいけないと思います。このスライド(次ページ参照)は、ある先輩が講演で述べられたものです。「日本のロータリーの奉

仕概念が変わってきている、気づいてください」と述べられました。



PGになって8年、もっぱら縁あってYEに関わってきました。NPO法人RIJYECの設立に立ち会ってきました。毎年7月に全国34地区YE委員長会議が開催されます。そして毎年同じ質問が出ます。

- ① 生徒のためのオリエンテーションマニュアルを作ってくれ(引継ぎがない)
- ② ホストファミリーをどう確保するのか
- ③ ホストクラブ、ホストファミリーの礼金は統一できないか?
- ④ 危機管理委員会の設置要項を作ってくれ
- ⑤ ガバナーが地区資金を節約してくるので困っている、等々。

各々あなたの地区のクラブの問題でしょう、と答弁してきました。地区でもクラブでもいずれも引継ぎがうまくいかないで、また書類の作成が繁雑すぎて、プログラムの継続が困難なことを訴えます。

ところがここ2、3年、あなたのクラブ、あなたの地区の運営上の問題でしょうというわけにはいなくなってきました。青少年交換事業を続けるための再認定地区申請をめぐる作業が発生したからです。危機管理要項の

見直し、学生旅行保険の保障金額増額による保険料の値上げ問題が発生し、日本34地区がまとまって同じものを作り申請する必要が出てきました。これに携わるロータリアンの仕事量や専門知識など、どうしてもプロ集団が必要になりました。

つまりRIの要請を処理するには、各々の地区では対処出来なくなってしまって、34地区を一本化、専門化したロータリアンの力が必要となったのです。それがNPO法人国際ロータリー日本青少年交換委員会RIJYECの誕生の背景です。そしてこの3点セット（青少年交換委員会の法人化、危機管理委員会を設置、賠償責任保険（人格権侵害特約付き）国際ロータリー青少年交換委員会用に参加）を要請されたことは、ロータリーがグローバルな善意団体として、安心して世界中の人々に認められているわけではない、落ち度があれば責任を問われる、訴追される、という時代に入ってきたことを思い知らされました。我々ロータリアンの歩みよりも早く時代は進んでいるようで、どうしても現状認識が遅れます。近代歴史学の祖と言われたランケは、「時代精神」という概念を歴史学に導入したと言われます。よく言われる“昔はそれでよかったが今は違う！”にあたるのでしょうか。第2次世界大戦後のヒューマンな思想の台頭に合せたRIのロータリープログラムの提案は、時代に呼応したものであり、青少年・3Hプログラム〔health（保健）、hunger（飢餓追放）、humanity（人間性尊重）〕・ポリオがあります。そして今の6つのテーマ（平和と紛争予防/解決、疾病予防と治療、水と衛生、母子の健康、基本的教育と識字率向上、経済と地域社会の発展）を考えると納得がいきます。

変化する社会情勢に対応すべく、国際ロータリーはすでに約30年前からDLP、CLPプランの基本構想の検討に入っていたと言われています。クラブの活動を、適確に機能的に維持発展させるプランとして生まれたものです。DLPは地区の棚卸し、CLPはクラブの簡素化を、そして戦略計画はクラブの奉仕活動の特化を推奨していると思います。会員数平均36人と

小さくなったクラブでは従来の四大奉仕(五大奉仕)に基づく各々の委員会の奉仕活動を細切れに行っても、それと類似の奉仕活動をしているボランティア団体がいくつもありロータリーの存在価値がその地域で薄れてきているのです。ですから、奉仕活動をしたら地方紙を使ってPRし、公共イメージの向上に努め、「ロータリアン自身がブランドになりなさい」と自覚して身を正し輝きましょう、と戦略計画の柱にしています。地域奉仕活動とは別に、一方では、一年に7000人余の高校生の交換をする青少年交換やライラ、インターアクト、ローターアクトなどの青少年奉仕活動や、ポリオ、水、母子衛生、疾病などグローバルな人道奉仕もやっています。その奉仕活動は、危機管理委員会に担保されていますから活動しやすくなりました。これが戦略計画の第3の柱です。人道的奉仕です。

ロータリーはここ15～16年、様々なルールを変えました。一体、どんな社会変化に対応してロータリーは変化しようとしたのでしょうか？そして最終的に、ロータリーのメンバーも変わらなくてはなりません。地区やクラブのリーダーが「クラブ活性化のために」という話を何回聴いても役に立ちません。聴いて「はい、終わり！」なんです。何故なのでしょう。クラブ会長が、研修委員会が、具体的な指示を出していないのではないのでしょうか？なかなかクラブ内へ浸透しないようです。ロータリーのメンバーは、皆さん超優秀な人達ばかりなのに…妙な話であります。原因は、私はある種のためらい、ロータリーに対して様々な迷いがあるのではないかと思います。とりわけシニアリーダーの方々にはロータリーは倫理運動とする考え方が残っています。継続して3年も5年も先の社会奉仕活動の計画を立てましょう、と言われてもためらいが出ます。でも考えてみれば、たかだか3年5年先のビジョンを語れない社長(トップ)の会社に、若い有望な従業員が入社してくるでしょうか？また我が社の夢を語れない、成長の目標を示さない社長の元から、若い社員は去っていきます。ロータリーも同じことだと思えます。毎年のロータリー入会者と退会者を比べてみますと、退会者の方が多

いのです。クラブのメンバーが減少しているのが解ります。ですから、ロータリーは、クラブは、夢を語る必要があります。ボランティア志向の強くなった今の青年には、ロータリーはどのように映るのでしょうか？ 他の団体と協力して事業に取り組んだり、大々的にメディアを使って報道することなどなど、以前のロータリーではタブーでした。このタブーを破ることへのためらいが、クラブ内に浸透しない要因の1つだと考えます。ロータリーをとりまく世界は大きく変わってきているのですから、自分自身も変わる必要があります。

戦略計画立案のワークシート

戦略計画立案の際に、このワークシートをご活用ください。

1. クラブの現状はどうか

記入日：_____

クラブの長所

クラブの短所

地域社会に存在する機会（例：新しい会社やビジネス、増えている人口層など）

地域社会に存在する課題（例：経済の悪化、競合する奉仕団体など）

2. クラブは何を目指しているのか

達成期日：_____

クラブが目指す未来像の主な特徴（例：会員数、会員維持率、地元と海外のプロジェクトのバランス、ロータリー財団への支援など）

ビジョン声明（地域のほかの奉仕団体と比べ、クラブを際立たせるような表現を入れる。

例：「地域において最も国際性のある奉仕クラブとなること」「青少年の支援に地域で最も力を注いでいる奉仕クラブとなること」など）

3. どのように目標を達成できるか

以下省略

くどくど述べてきましたが、これらの事を解決しながら、我がクラブの3年間の優先項目と具体的目標を書きましょう。こんなワークシートを作りましょう。「肝心なのはクラブ全員で話し合い立案しましょう」とマニュアルにはありますが、当該年度会長が指針を出して、直前会長、会長、会長エレクト、会長ノミニーの4人でまず統一してプランニングすることが大事

です。クラブ総意となります。クラブ次期会長予定者の方々そしてクラブリーダーになる皆様方、このスライドのようなワークシートに基づく計画をクラブの元・次期リーダーの方々と相談して作ってみてください。

さて、時間も押してまいりましたのでまとめさせていただきます。

戦略計画を立案するにあたり、まず第1に、自分は何のためにロータリーに入ったのか、第2に自分の地域(町)はどのように変わったのか、町の人々のニーズは何か、第3は、自分のクラブは何が出来なのか、計画を立てます。第4は、その計画を向う3ヶ年としてチェックシートを作ってみます。以上4点の作業ですが、クラブに帰られて早速作業にとりかかって下さい。この作業は、無機質な物理的工程に従って進めることが出来ますが、肝心な「心」の部分が抜けています。つまり、絶対無視してはならない前提があります。それは5つの中核的価値観「親睦・高潔性・多様性・奉仕・リーダーシップ」であります。責任あるリーダーとしての資質であります。この5か条を自分の内面に少しずつ構築することこそ、戦略計画立案の前提だと思えます。そして戦略計画からの贈り物だと思えます。

最後にこの戦略計画を早く上手に作るコツをお伝えします。全国3つのゾーンには、ゾーン毎のロータリーコーディネーター及び補佐がいらっしゃいます。この方々は、ロータリーの地区やクラブの研修リーダーの教育担当を受け持っています。幸いなことに、当地区2780地区には、鎌倉RCの菅原光志さんがいらっしゃいます。ですから、実際の計画作りには菅原さんをお招きして作業を進めてください。これが早く上手につくるコツです。このコツをクラブへのお土産にして下さい。

終わります。ご清聴ありがとうございました。

5.3 ロータリーの流れ ～ 私見～

2016.2.24 RID2710田原榮一様宛 手紙より

前略

お手紙を頂戴してから2週間が過ぎようとしています。その頃ギックリ腰で動けず、食欲なく思考停止状態が続いていました。2週間が経とうとしてやっと体の動きは80%位回復しましたが、頭は鈍化のままです。その為、先生へのお返事になっているのかどうか解りかねますが、思いつくままにペンを走らせていただきます。

ある地区より「これからのロータリー」という、とんでもないテーマをいただき、これをプレゼンしなくてはなりません。一体どこを切り口にして、どこから話し出してよいかわからず途方に就いていましたが、以前より、1960年代からロータリーは大きな変化をし始めたと根拠文献も定かでないくせに思い込んでいましたので、1944年～1945年のRIのエピソードの記載のある「奉仕の一年」や、ハロルドトーマスの「ロータリーモザイク」など拾い読みしました。すると途切れ途切れでしたロータリーの歴史などが継時的につながりはじめ、大分すっきりし始めました。「日本のロータリーと世界のロータリーとはギャップがありすぎる」というシニアの方々(60才代以降のリーダーの方々)の苦しい、そしてとまどいの声を度々耳にしてまいりました。僕もそのうちの一人でした。日本は、職業奉仕を中心として職業生活、日常生活を営みその余力をロータリー活動に捧げてきたのに、今やクラブや会員は集金マシンとされ、その多大な集金をもって国際奉仕にうつつをぬかす国際ロータリーの方針には納得がいかないというもの、荒っぽくまとめるとそんなところでしょうか？

RI理事ノミニーに任命され、慌てて勉強のし直しなど始めましたが、とりわけ戦略計画について意見を述べなくてはならない機会が増えたものですから、青少年交換プログラムと、危機管理とそれに先行したDLP、CLPなどについて考え込んできました。そして、1960年代の青少年奉仕ブ

プロジェクトの総花的^{*1}提案、そしてそれを可能にさせたロータリールール
の改正などを並べてみたりして、ロータリーの流れを自分なりに考えてみ
たりしました。

大分すっきりしてきたという点を申し上げますと、

- ① RI本部を設置し、ロータリーの発祥から育成に多大の労力を費やした
アメリカは、初期には職業奉仕を実にまじめに追求し、職業倫理訓を作
り四つのテストを作りだし、市民から不信の念が出ないよう業界をあ
げて個人として企業人としてエリを正して生活を送っていた。
- ② 当初(設立より30年間位?)社会奉仕—ボランティアの概念はなく、単
に困っている人、弱者には手を差し伸べる企業人として存在し、自ら
行った社会的行為は口をつぐんで、商取引などの宣伝に使用すること
はなかった。(このことは日本のロータリアンは知らないと思います。)
- ③ 1922年以降制定されたアメリカ全国の業界の行動基準(300件余)の
うち、145件はロータリアンの指導下に制定され業界の浄化につとめた。
- ④ つまり「23-34号の声明」の頃には、すでにアメリカを中心とする欧米
諸国では、ロータリークラブの社会的役割とロータリアンの役割につ
いては深く議論され、「ロータリー運動とは」がかなり浸透していたの
ではないか?と思われます。
- ⑤ 1944年～終戦頃には、ニュージーランド・オーストラリアではロータ
リー精神に基づく商取引の基本が崩され、国家統制経済下に入り大い
に憤慨し、各種委員会を作り政府とわたりあっている。終戦後(勝つと
解っていたようです)の商取引の健全化もすでに検討していたようだ。
- ⑥ 第二次世界大戦後の1960年代に入って、青少年奉仕プログラムは多分
に「新世代の反乱」といわれる各国での青少年問題が顕著になってい
たのではと考えます。(データがありませんので……)

*1 すべての関係者を満遍なく立てること、あるいは皆に恩恵を与えることを意味して使用

- ⑦ 1970年代にはいって、3Hプログラム、ポリオワクチンというグローバルなテーマは、ロータリーに課せられたテーマであると全世界に提起したものであり、ロータリアンがそれに呼応したものと考えられます。ロータリーのすばらしい成長と評価できると思います。
- ⑧ このことは何もロータリーが精神的個人的奉仕から、金銭的団体奉仕に寝返ったものでなく、自分自身の周りの日常的ロータリー活動は地域的個人的なものでありますから、寝返ったことにはならないと思います。
- ⑨ 次に何故これほどまでに日本では精神的個人的奉仕にこだわり、ロータリーの真髄として説かれてきたのでしょうか？勝手に小生が考えるには、ロータリーが米山梅吉―福島崑三次によって日本に紹介され導入された時期に、大いに関係していると考えます。1917年、日本政府より経済特派員として派遣された米山は、ロータリー運動に興味を持ち、エジンバラ大会に福島を派遣させて調査を依頼しました。その報告書は見えていませんが、おそらく職業倫理を中心とする実業界の市民からの信頼を回復維持させるための条例づくり論争の真ただ中ではなかったかと考えます。そのエジンバラ大会以降のロータリーは、10年に及ぶ「職業倫理の確立か福祉事業への強力なる参加か」の論争が続きましたが、23-34号の声明をもって、一応の決着がつけました。しかし、この論争の大渦中に調査に入った福島は、日本人固有の精神的伝統としての“道”の修行にも似た倫理追求の事業経営者たるロータリアンの姿に痛く感銘したことは想像できます。従いまして、このことがロータリー運動として日本に紹介され導入されたのではないのでしょうか。この歴史が、日本のロータリー感、ロータリアンの座右の銘としての「職業奉仕」になって固定されてきたと私は考えます。
- ⑩ 日本のロータリーは、23-34号声明以降の欧米諸国のロータリーの活

動—とりわけ社会奉仕への取組みと論争—を見ていない、情報として取り入れていない(小生もそうですが…)のではないかと思考します。しかし世界は、20年代後半より各国とも軍部が強くなり騒然となります。30年には世界恐慌、日本の国連脱退、第2次世界大戦の勃発と、ロータリーとは無縁の世界となります。ですから、職業奉仕は無論のこと、社会奉仕という概念は存在したのでしょうか？

- ⑪ 1945年から70年、世界の変化の中でロータリーに求められているものは、人間が本来持っている生存への希求(平和)を願う人達への、小さくてもよいからの援助だと思います。今や世界一のボランティア団体となったロータリーのなすべき行為ではないでしょうか？創立以来111年、時代の要請に応えながら変貌するロータリーの姿に惑わされることなく、自身の軸がぶれることなく死ぬまでロータリアンでありたいと思っています。

思いつくままに勝手なことを書きなぐりました。お許しください。ガバナーを終えて気づきましたが、地区はクラブは、ガバナーの姿を絶えず見つめその方針に従おうとしています。どうぞ思うがままにお務め下さいますようお願いしております。

草 々

5.4 ロータリー親睦活動月間について

2016.6月号「RID2760 ガバナー月信」

ある猿のグループの縄張りの異なる集団が森で遭遇すると、双方とも大声を出して仲間を集め対立威嚇し合うが、相手の数が多いと解ると相手に道を譲るようだ。

霊長類はそんな知恵を持っていて互いに相手を傷つけ殺し合いをすることを避けているらしい。とりわけ表情筋の発達したチンパンジーは相手の表情を見て判断するようだ。つまりコミュニケーションは相手あつてのことで相手の対応を見て自分の反応を決めているらしい。表情筋から言語という道具を獲得した人間はこの道具を使ってコミュニケーションを拡げ互いの高次な交流を作り上げてきたという。つまり親睦活動と称するものである。

僕は4月5日、日本を飛び立ってシカゴ(米国)に入った。規定審議会前の理事会にオブザーバー出席するためだ。規定審議会を15日午前で終え16・17・18日の3日間9:00～17:00までみっちり理事会オブザーバー出席の義務を果たし、19日はホテルで安息日を過ごし、21日に帰国。この7日～18日の間に開催された会議は夕方5時にピタリと終わる。その後ほとんど毎日ホスピタリティーと称するワインとお喋りタイムが約40分間開かれる。そして各自が夕食に散ってゆくかあるいはその場の隣の部屋で招待ディナーとなる。そして問題はワイン片手のホスピタリティーだが「どこの国から?何年?クラブの人数は?日本に来たことはある?あなたの国の〇〇は有名だね。」と杓子定規の質問がいきかいそこから先へは進まない。つまり言語の壁である。ワインによるリラックス効果もホスピタリティーにならない。でも表情筋の動きを見事に捉えニツと笑い「では明日またネ!」となる。こうしてみると親睦の基本である言葉を操って自分の考えを伝え、相手の考えを理解することに言葉がいかに大事かが解る。相手を理解するためには言葉の「純度」と「深度」を推し進めないとなかなか相手を理

解できない。

ゴルフに興じカラオケに夢中になってもこの二つの「度数」は深まらない。互いの人生を語り恥を喋り、企業を家庭を語らないと相手に伝わらない。だが困ったことに言葉にすると文字にするととたんにウソっぽく浮いてしまう。それでも1割2割解ってもらえば親睦への糸口となると思う。

親睦活動月間は「クラブの中で自分を語る」ことを意識的に実行してみる1ヶ月と考えてみてはどうであろうか？表情筋を豊かに使い乏しい語彙を一生懸命駆使して相手に自分を解ってもらう努力の1ヶ月間にしたいものだ。できることなら「ロータリー用語を使わず自分の言葉で」である。

5.5 ロータリーの魅力、本質そして可能性

2017.4.8 RID2650地区大会

ロータリーの魅力と本質

入会して38年ですが、20年はスリーピングメンバー、ランチタイムメンバーをやってロータリーの魅力を感じず、豊田の町では他者（よそ者）の僕は、その町に同化する為に、子供達のふるさと作りの為、地域の政財界のリーダーとの交流の場として利用していました。だからロータリーの魅力については考えもしませんでした。ですからこんな機会を与えて下さった刀根ガバナーに感謝です。

ロータリーは会長をやって地区へ出てガバナーをやって海外のプロジェクトをやるうちに楽しくなりました。そんな時に、ちょうど10年前の2500地区大会に、パネラーとして呼ばれました。やはりパネラーとして出席されていましたお一人が壇上の元RI理事 松宮さんでした。テーマは「He profits most who serves best」でした。ガバナーになりたての僕には難題すぎました。2500地区にはやはり壇上の小船井さんがパストガバナーとなって4年目でいらっしました。

何故このお二人を覚えているかと申しますと、クラブ会長時代、お二

人の地区協議会や地区大会の報告を読ませていただいて、この本は私のバイブルになったからです。当時の私が知りたかった事、— ロータリーとは、職業奉仕とは — を述べておられました。

でもこの頃(ガバナーを終えた頃)より、ロータリーとは、職業奉仕とは、等の解説書やセミナーに触れることを止めました。情報が多すぎて整理できないこともあり、考えないでいる自分に気づいたからです。このテーマを考える事がアレルゲンとなって、思考回路を封鎖させてしまう今日この頃だからです。

しかし運命のいたずらでしょうか。またこうして福井で、刀根さんにアレルゲンとなる宿題をいただいています。師匠のお二人と同じテーマで話し合うことになり、これこそが私にとりましてロータリーの魅力だと思います。尊敬できる友人が、馬鹿話や飲み会のお喋りの中から生まれてくることが、ロータリーの効用の第一だと思います。このお喋りから“何か良いことをしよう”が生まれてくるのです。これぞ私にとってのロータリーの魅力です。大村北ロータリーのパストガバナーの佐古亮尊さんは、他者を思う心が昇華されて生まれてくるもの、それが社会奉仕なのだと言われています。こんな出来事がロータリーの魅力です。

そして、ロータリー運動はこのように、語り合える仲間づくりから町づくりへ発展し、さらに最後は自分づくりに繋がるかなと、期待しています。自分の人生の余白に何を描くかは、自分次第。その余白こそがロータリーではないか?これがロータリーの本質だと考えます。

ロータリーの可能性とは(素晴らしい未来を創るために)①

「戦略計画の最新情報」

2016年COLのガイダンスで発表。これは、RIの時代認識をふまえた危機意識とビジョンづくりへの決意表明と見るべき。

2016年6月のガバナーへのアンケート回答

- ①会員減少に対する危機感を強く感じている一方、会員増強に対する倦怠感もある
- ②高齢化に悩み、若い会員、女性会員を勧誘できない
- ③クラブ組織、地区組織の硬直化があり、改革が遅れている
- ④新しい奉仕プロジェクトの遅れ
- ⑤ネット社会への対応の遅れ
- ⑥RIの変化についてゆけない伝統的なロータリー感のクラブが多い
- ⑦RIに対する発信力、影響力の低下を憂える
- ⑧RIの方向性に対する疑問を感じる

アンケート①②③⑥をを考えてみるに、だからこそCOLの活用が望まれると考えます。今、ロータリーの各種セミナーが開催されていますが、その内容もワーキンググループによる問題解決のための作業内容とプログラムが必要であり、理念、心を一時横に置いておくべきと考えます。「○○○だから、こうしたらどうか？」の発表の場にすべきと考えます。

※1978年3Hプログラムが発表され(RI75周年記念)、アイサーブからウィサーブに替った時、「ロータリーは崩壊する」と大声の長老と、「時代の変化でしょう」とする若いパストガバナーの論争やインタビューがありましたが、現在「ロータリーの友」誌上で見られる2016年COLをめぐる、各地区・クラブのこれを否定する声は、当時とよく似ています。

※日本のロータリーが「世界に向けリーダーシップを」とは、どういう事でしょうか？

※元気な○○(日本ロータリー、クラブ)の元気とは？具体的に何を指す言葉でしょうか？僕達自身で言葉を探す努力をしなくてはなりません。仲間と自分の町づくりを喋り、自分と企業(家業)を考え、自分のクラブ

の行く末を見つめる作業をする必要があります。後輩のロータリアンのために。

ロータリーの可能性とは(素晴らしい未来を創るために)②

本日のパネルディスカッションのテーマは、刀根さんの地区スローガン「夢を語り現状を刷新—日本ロータリーへの提言—」となっていますので、これに少し触れたいと思います。いずれについても言及しなければならないのは、会員を増やすという現実問題でしょう。

昨年、名古屋市でのロータリー研究会で、ジョン・ジャーム会長に質問しました。

Q.「日本のロータリーの問題は？」 A.「会員を増やすこと」

また、前述の2016年6月ガバナーへのアンケート(本田さんが実施)では

- ①会員減少への危機感と倦怠感
- ②高齢化
- ③組織の硬直化

の3つの問題点が上位に指摘されています。

過去20年間、各クラブ会長やガバナーは必死で取り組んだが、効果が上がらなかった問題点です。このことを考えても方法・手段をガラリと一変しなくては、効果は上がらないという事です。

つまり今年の国際協議会で提言された「2016年のCOLを重要視して下さい」という事を具体化することです。まず第一に、徹底的にクラブ運営に柔軟性を持たせ、従来のクラブ運営を壊し、新しいクラブを作り直す事。2つ目は自分の町づくりに役立つプログラムを作り、結果が見えるまで継続する。いわば奉仕活動を特化させ、そのイベントばかり行うクラブとする。第3に、分区を大事にした組織づくりを考える事。地区の会議は極力止めて、ガバナー補佐の分区会議中心の地区運営とする。分区内の町づくり、地域づくりのプログラムや、クラブ共同プログラム・合同プログ

ラムを作る。俺が町の域を超えた会員増強を計る。

まだまだユニークな発想からクラブ作り、地域作りが考えられると思いますが、もうロータリークラブの運営の固定概念は止めましょう。固定しておくべきことは唯一「ロータリーの心」でしょう。

終わります。

5.6 もう一度考えるロータリー ～入会40年にあたり～

2019.8.5 豊田西RC例会 卓話

お招きいただきありがとうございます。

このクラブには私の人生の大恩人であります井戸さん、猿投へ出て開業してからの御支援をいただいています小幡輝夫さん、また高校大学と同級生の皿井寛さんなどなど、その他何人もの若かりし頃の悪友の方々が在籍されておみえで、敷居が高いものでつついづい足が遠のいてしまい、御無礼をお許してください。

今月、この8月はロータリー特別月間「会員増強月間」でありまして、古井増強委員長さんから「増強について」という宿題をいただきました。ところが西クラブさんは、そんな話が必要ないクラブさんで、その証拠にはこの6月の地区の打上げ会に於いて、内藤会長さんの昨年度は、会員増強優秀クラブとして7人以上増強というすばらしい実績をあげられ、表彰されました。ですからむしろ私たちは西クラブさんに増強方法を教えてもらう必要があります。この増強についてですが、入会して10～15年間位でしょうか、「ロータリー本部は毎年金集めのために会員を増やすことばかり言っている」とベテラン会員が声を張り上げていました。その先輩方は皆企業人で数多くの従業員さんがいらっしゃいます。従業員を毎年切れ目なく採用していかないと企業活動は滞るということをご存知なのに、ロータリーとなると思考停止を起こすようです。

さて、本論に入らせていただきます。

「もう一度考えるロータリー ～入会40年にあたり～」とタイトルをさせていただきましたが、今ロータリーはとりわけここ10年間はすごいスピードでルールが変更されてきています。

スライドは入会の頃のルールです。2014年になり、標語が変わります。でも日本は変化しません。例会第一、人間教育を。

入りて学びて出て奉仕せよ (I)
～本部玄関の標語～

入会の頃 (1979年) のルール

1. 例会の重視 (100%出席の為のメーキャップ)
 - ・ 4回連続欠席は退会
 - ・ 自クラブ出席は60%以上
 - ・ 政治・宗教の話は禁止 (親睦のため)
1. 身の周りの奉仕 (会社・地域)
1. クラブ事業は単年度・継続なし・協同なし
1. 良い行いは密かに (宣伝しない)

入りて学びて出て奉仕せよ (II)
～本部玄関の標語は変わった (2014) ～

Join Leaders, Exchange Ideas, Take Action

例会重視のクラブ活動
— 会員交流と親睦を大切に —

そこから生まれるロータリーの意義

1. 人間教育の場
1. ビジネス交流の場
1. 友情を育む場

➡ 社会奉仕

2019年のCOL。そして、これとて繰り返しになりますが、入会の頃。

今、ロータリーは大きく変化しています (I)

ex 1. メーキャップは当該年度内

2. 「同一職種は10%以内」の廃止
3. 例会出席はボランティア活動でも可
4. 会員は世間で評判がよく、ボランティア活動に意欲のある人なら有資格者
5. etc.

僕の入会の頃 (1979年2月)

1. メーキャップは例会の前後一週間
1. 一業種一人
1. 出席は例会時間の60%、自クラブ出席60%
1. 入会審査の厳しさ

入会は厳しくて、推薦者は誰かというのが暗黙の基準みたいなどころがありました (反対者が出ないために)。2～3か月かけて許可が下りたようでした。

入会させていただいてから私は、2回の退会届を提出しました。“ロータリーの勉強をしてください。”と言われても、何をどうやって勉強するのか解りませんので、結局Sleepingに入りました。実はこの20年間で大きな声では言えませんが、よかった (忠告の

入会許可は難しかった (親睦を大切にした)

会長方針により、増強委員会が方針

- 職業分類委員会 (欠員チェック) (地域チェック)
- 会員選考委員会 (推薦者の決定)
- 理事会
- クラブ内公示 (反対者の有無: 1人まで)
- 理事会にて決定

お蔭のため)。40代という若さにまかせて、手術をどんどんやり、院内の体制を整え、法人化しました。

アツという間の20年間が過ぎました。順番だからと副会長に任命されました。ウン！いいよと受けた副会長が、会長へと続くことも知らずに。

失われた20年

1979年2月 入会
1984～85年 国際奉仕委員長（2回、1997年）
1989～以降 6回の小委員長
2000～01年 クラブ副会長

*この間、時々注意を受けた。
多忙との言い訳 —「ロータリー活動を
するための社内体制の整備をしなさい。」

副会長に任命されて（2000～01年）

- ・副会長→エレクト→会長 の順番を知らず
パニックとなる
- ・副会長は単に会長の補佐ではなかった!!
- ・ロータリーの勉強を何もしなかった20年
- ・新会員のための研修システムがない

パニックとなり、大学受験のようにロータリーの教科書を読みあさりしました。

そして2002～03年、クラブ会長になります。（親睦委員長は鈴木元弘さん）張り切りました。ロータリアンは勉強しなくちゃと研修会を開きました。失敗でした。

その後、一泊例会をやりました。大成功でした。

皆ロータリーが好きです。自分の考えを言いたくて仕方ないのです。皆リーダーですから、当然です。一人一人が発言する場を作る、5～6人のグループとして。

クラブ会長に就任して

- ・大失敗だったクラブ研修会
～田巻明男PGをお迎えして
—土曜日、ホテル、教室式、講義式—
研修会の進め方の難しさ

- ・大成功だった一泊例会
—かしわが鳴くまで朝までトーク—

*正しい提案は受け入れられる

クラブ会長を終えて

地区委員会へ出向（ロータリー財団）

1. 新しいロータリー仲間を知る
1. ロータリアンの人間力を知る
1. 各種大会・委員会活動の楽しさを知る
1. ロータリー財団のすばらしさを知る
（世界のロータリーが見える気がする）
1. 多彩なロータリー活動に参加

（インドのポリオワクチン投与、白馬のスキー、ラオスの小学校、井戸堀、世界大会をのぞく、海外メーキャップ）

会長を終えて地区へ出ました。

地区は出向しなくては損です。自腹を切っても。クラブ持ちの登録料ですから、当然クラブで報告する義務があります。しかし、すばらしい新しい景色が見えます。地区へ出向して下さい。また、世界へボランティア活動に行くと

目を見張ることが沢山あります。例えば、インドへポリオワクチン投与に行きましたが、どのような方法でどんな町で投与しているのか、インドのロータリアンの姿が見えます。ラオスの貧しい山村に小学校を送ったと言うが、300万円でこんな学校が建ったのだ、とか国際大会は開催国によってこんなにも違うのだとか、海外ロータリークラブのメーキャップに出席するとこんなに大切なおもてなしを受けるのだとか…です。ロータリーを楽しんでいる自分に気づきます。

さて、まとめに入らせてください。

初めに今、ロータリーは大きく変化していますと申し上げました。2016年、2019年の規定審議会で、ロータリーの方向転換を示す事案が可決されました。この5番目の項目「優良ボランティア団体を目指す」方向へ舵を切りました(2016～17年RI会長ジョンジャームのつぶやき“ロータリーは潮目が変わった”)。

(軌道修正)

今、ロータリーは大きく変化しています(Ⅱ)

2016、19年の規定審議会より

1. 例会の柔軟性
1. 会員の多様性
(グローバル会員、ボランティアに意欲のある人、ローターアクトクラブetc.)
1. 職業分類表 不用の方向へ
1. メーキャップの事実上の廃止
1. 世界有数の優良ボランティア団体をめざす

(軌道修正)

今、ロータリーは大きく変化しています(Ⅲ)

戦略計画(2016)を学ぼう

- * クラブと地区、そしてロータリーが前進していくためのロードマップ(活動指針)
- * ロータリークラブは奉仕活動を行っている会員からなる団体と定義

この変化を日本のロータリーはどのように対応していくのでしょうか？2016年、19年の決定をクラブは受け入れなくてもよいのです。クラブ細則に明記した方法でクラブを運営すればよいのです。クラブが考える必要があるのです。

しかし、もっと大きな変化が出ています。それは2016年戦略計画が発表されたことです。発表をさかのぼること10年、十分に調査活動をして多数のロータリアンから意見を聞いて、「ロータリーはこうした方がよい」ということをまとめて方針としたものです。3つの重点項目と16の目標が設定されています。日本ではあまり知られていません。是非ともクラブで一度勉強会など開催して下さい。私はいつの間にか40年在籍することになってし

まいりましたが、段々と面白くなって感動する事や新しい発見があり、新しい知人との親睦が深まりロータリーから抜けられなくなったようです。歩けなくなるまで例会出席を続けようと思っています。

例会は仲間と会うことが心の穏やかさを保ってくれます。ロータリーは楽しいです。

「あなたは何故例会に出席するのですか？」

貴重なお時間に駄弁を労してしまいました。

おつきあい下さいましてありがとうございます。

5.7 ロータリーの将来ビジョン

2019.10.8 第4回ガバナー補佐研修会

こんにちは。2760地区豊田RCの齋藤でございます。本日はこのような大切なセミナーにお招き下さいましてありがとうございます。講師という任に耐えられる器ではございませんが、宜しくお付き合い下さい。今日のお話を進めるにあたって良いメモが出てきました。一寸古くて2年前の2017年1月に実施しましたRIの「ロータリーの将来ビジョン」のアンケートの報告です。

RI戦略計画委員会アンケート

「ロータリーの将来ビジョン」(2017年1月調査)

回答者数: 日本のロータリアン8,590人中、2,122人(27%)

内 訳 所属年: 5年未満 33%、10年以上 47%

年 代: 50代 32%、60代以上 34%

①ロータリーは変化する時代にリードしていけるか?

はい: 51% (70%以上欲しい)、いいえ: 44%

②ロータリーの文化は新しい考えや変化に対応しているか?

はい: 51% (80%は欲しい)、いいえ: 46%

「日本のロータリアンは次の100年に楽観的だ!」「改革的リーダーとして?がつく」と報告。結論として、「日本のロータリー文化が新しい考えや変化に柔軟に対応していくとは感じられない」と、同委員会では報告しています。

ロータリーに入会させていただいて40年6カ月になりますが、最初の20年間はSleepingメンバーでしたから、実質20年の会員ということになります。2016年6月ソウルの国際大会で、ジョンジャーム会長は「潮目が変わった。」と言いましたが、何故なのかを考えなくてははいけません。これからの日本のロータリーを語ろうとするならば、今までの日本のロータリーを確認しておかなければなりません。簡単に“こうだったネ、そして今でもこうだよネ”と確認しておきましょう。そしてここ20年間のロータリーの方策を見つめそれを検討してみて、これからのロータリーの方向がおぼろげに見えてくるのではないのでしょうか。例えば2016年のCOLは、ロータリーの打開策となったか。現状では世界の会員は減少しています。どうしても英語圏では増加しないようです。日本、ドイツは横ばいないしゆっくり上昇しています。日本ではRCの合併、脱会がゆっくり進行しています(「ロータリーの友」2019年9月号)。

ところで、今年4月のCOL(規定審議会)の決定の1つには驚きました。ご存知のメーキャップは当該年度内にして下さい、という決定であります。出席の補完を年度内に、と柔軟な対応になりました。しかし出席というあり様が多様化している今、出席の型が問われなくなったのであります。これは僕にはショックでした、例会出席はロータリーの根幹中の根幹であります。例会出席して“お元気そうですネ!”, “もうかりますか”という挨拶から始まる仲間との交流は、奉仕プログラムを語る前提であります。つまり、例会出席のあり様の様々な型が容認されているので「例会出席ばかりが出席じゃないでしょう!!」と言われる昨今、このプログラム参加が出席扱いですか?と考え込む事例が出始め、僕にとっては内心容認しが

たいものですから、この(19-35)の決議はロータリーの危機と感じます。僕が入会した頃は、入会出席は厳しく辛いものでした。その為でしょうか。40年前に入会した時は例会出席をやかましく先輩から言われ、1週間以内のメーキャップは今でも身にしみついています。ですから、メーキャップは当該年度内に行えばよいという例会軽視・否定とも解釈できるこの決定は、ロータリーが崩壊すると感じました。僕等世代は、例会が全てなのです。例会出席=ロータリーでありまして、委員会や奉仕活動は二の次でした。例会出席して互いに人格を磨き、社会的リーダーに成長し社運を高め社員を育て、地域社会活動に参加していこうというのがロータリーですから、例会軽視は許されません。採決を見ますと、286対217と拮抗しているとはいえ、全世界の地区代表の約半分がメーキャップは当該年度内に行えばよい、そう騒がんでもよいと決められましたので、世界の流れは確実にメーキャップ不要であります。

これは急にそういう風潮になったわけではありません。この20年間(マークマローニ会長がエレクトの時に無駄な20年と言われたようですが)のルール改訂を眺めますと、ロータリーという団体の屋台骨を揺すりあっちへ行こうか、こっちへ行こうかと迷走していることが読み取れます。その出来事を一覧表にしました。

過去20年間のルール改訂 (その1)	過去20年間のルール改訂 (その2)
2001 規定審議会 試験的プログラム E-club 2002 DPL 2004 CLP(2002年 DLP義務的) 2005 危機管理委員会 2007 RI戦略計画発表(2004年COL)、中核的価値観の誕生 2011 ブランディング戦略(2017年第2弾)→公共イメージ向上 4つの試験的PG(衛星・法人・準M・柔軟性) 2014 ロータリーを表す言葉の変更(2014年国際協議会より) → Join Leaders, Exchange Ideas, Take Action	2016 規定審議会 例会の柔軟性、会員の多様性の導入 [例外規定の採用] ・16-36「会員身分を独自で決定できる、正会員のサブカテゴリーに準会員:家族会員、ジュニア会員、法人会員」 2017 RI戦略計画 新ビジョン声明 2018 RI戦略計画 新優先項目と目標 2019 規定審議会 RACのRI加盟、柔軟性推進 ・19-33「少なくとも毎年40回例会を開催すること」122対384否決 ・「同じ職業分類の人が何名いてもよい」403対108可決 ～これが世界のロータリーの流れと認識すること

まずDLP、CLPによってロータリーのぜい肉をそぎ落としました。身軽になってクラブ活動(ボランティア活動)が行えるようにしましょう、としました。DLPにいたっては、必須委員会5つとそれに関係する委員会はガバ

ナーが設置すればよいことになり、ガバナーの仕事量を考えてガバナー補佐に分区内クラブの指導を依頼し、自分は全体のコントロールにあたるようにしました。このコントロール作業中にミスが起きても、クラブ会長がガバナーが第三者よりの訴訟から守られるために危機管理委員会を設置しました。こうしてロータリーの組織強化をはかり、1985年から始まったポリオ根絶活動をRI全体の活動の中心に置き、これを支える会員基盤の強化を絶えず年度目標として掲げてきました。2007年戦略計画、公共イメージ向上戦略、「ロータリーを表す言葉」の提案などを行ってきました。そして大きくロータリーの方向転換になろうかという決定が、2016年のCOL決定であります。そしてそれに続く2017年新ビジョン声明、2018年RI戦略計画、新優先項目と目標、2019年COLの決定。20年間を大雑把にまとめますと、こんな風にRIは流れていくでしょう。RIは私たちの母体ですから、この流れに従って日本のロータリーも賛同し、たまには横を向いて理事を困らせることはあっても反対の流れになってはいけません。同じ団体のメンバーですから。となると、団体の構成員としてのクラブの姿勢が大切です。クラブの独自性をつくらなくてはなりません。その独自性がその町に存在する理由だからです。自分のクラブが自分の町に存在する理由を検討してみましょう。

さて最後になりましたが、自分達のクラブはどうするのでしょうか？自分はどうするのでしょうか？定款より上位とした例外規定のクラブ細則への明記を多用して、クラブ運営を柔軟に行いながらRIと協調し、日本のロータリーの伝統を守っていきましょう。

まとめるとこのようになるでしょうか？

「ロータリーは人生を語る場でありたい。」

ご清聴を感謝します。

5.8 RID2770地区大会 RI会長代理挨拶

2019.11.10

皆さん、こんにちは！国際ロータリー第2770地区 地区大会が埼玉県知事 大野元裕様、越谷市長 高橋 努様をはじめ、多くのご来賓をお迎えし盛大に開催されますことを心よりお慶び申し上げます。本地区大会の開催にあたり、「ポリオ根絶活動からクラブ活性化へ」とテーマを掲げた小林操ガバナー、堀野真孝地区大会実行委員長のリーダーシップと、関係各位のご尽力に敬意を表する次第であります。

私は本地区大会に、国際ロータリー会長マーク・D・マローニー氏とゲイご夫妻の代理として派遣されました、第2760地区豊田RCの齋藤直美と家内の雅子でございます。どうぞよろしくお願い申し上げます。

かねてより貴地区は、田中作次 元RI会長ならびに現ロータリー財団管理委員 北清治氏を輩出され、また数多くの日本のロータリーのリーダーの皆様方を育ていらっしゃる由緒ある地区であります。活動的な地区、ロータリーを学ぼうとしている先進的な地区と、常日頃から敬愛申し上げております。このようなすばらしい地区にRI会長代理として訪問することは、この上ない栄誉であります。マークマローニー会長には感謝申し上げます。マークマローニー会長は、「ロータリーは世界をつなぐ」というテーマを発表されました。ロータリアンの一人一人が“行動することによりクラブ内で、地域で、そして世界とつながっていく。世界平和へとやがては進んでいく”と訴えられています。小林ガバナーはこれを受けて、「ポリオ根絶活動からクラブ活性化へ」と地区方針を掲げられました。ポリオ根絶はロータリーの最優先項目ですから、素晴らしい地区方針、地区大会方針であります。10月24日のポリオデーには、2770地区74の全クラブが各々のイベントを開催したと伺っております。ガバナーのリーダーシップとそれを支えるメンバーの皆様方に敬意を表します。

本日はRI会長代理として、マークマローニー会長のお言葉をたずさえて

まいりましたので御披露させていただくのが本意ではありますが、時間の関係上要旨だけ申し上げ、お許しをいただきたいと存じます。

会長メッセージ概要

今年の大会は幸先の良い大会となります。というのは、19～20年度の新しい戦略計画が導入される年度だからです。戦略計画では4つの優先事項があり、中核には「ロータリーを成長させる必要がある」というメッセージがあります。そのためには、一人一人がどのようにロータリーとのつながりを築くかということです。この地区大会は、皆様が未来の行動計画を作りあげる良い機会となることを願ってやみません(マーク・マローニー)。

さて、今回私は貴地区にブライダル委員会が34年も前に設立されたことを知りました。まことに不勉強この上ないと恥じ入っています。この委員会が設立されました1985～86年頃、フランスの文化人類学者が人口問題の学術集会に参加するため日本を訪れまして、「さすが日本。すでに人口問題に取り組んでいる」と感心されたようです。このブライダル委員会創設の先見の知恵に、深く敬意を表します。

本地区大会は、小林操地区ガバナーが「ポリオ根絶活動からクラブ活性化へ」という大会テーマを掲げられました。ポリオ根絶はロータリーが世界の皆様方とかわした約束事であり、対外的課題として宣言しております。根絶まで、ロータリーは次なるテーマを自らに課しないと全世界に表明しております。10月24日のポリオデーは、本地区全クラブが何らかの取り組みを行ったと伺っております。心より敬意を表し、マークマローニー会長に、この事をいの一歩に報告させていただきます。

この20年間、ロータリーは変化の速度をあげているやに感じられます。1998～99年RI会長カルロ・ラビッツァさんが「来たるべき世紀の信じられないほど増え続けるニーズに、自信をもって立ち向かい対応できる、より柔軟な機構になるために、ロータリーは変わる時ではありませんか」、と述べられましたが、この提言を受けてでしょうか、今世紀初頭のDLP、CLP

の導入、危機管理への取組み、戦略計画と中核的価値観の表明、2016年の規定審議会による柔軟性と多様性を取り入れたクラブ運営、例外規定の採用と、クラブ活性化に、会員基盤の強化に向けて目まぐるしく動いています。さらには、2018年新しいビジョン声明と行動計画を発表し、皆様方の行動への参加を呼びかけました。そして本年1月、理事会からの要請として「ロータリアンの行動規範」に5番目が追加されました。5番目は以下のようにあります。

「ロータリーの会合、行事、および活動においてハラスメントのない環境を維持することを支援し、ハラスメントの疑いがあれば報告し、ハラスメントを報告した人への報復が起こらないよう確認する。」

5番目は、クラブの活動が活発になり、行動範囲が拡大した時に陥りがちな事態への警告であります。これは4つある行動規範の再確認を促すことになり、ロータリー運動のコアに倫理性を置く日本のロータリーとして歓迎したいと思います。蛇足ではありますが、他の4つを申し上げます、

ロータリアンの行動規範

ロータリアンが使用するために次の行動規範が採択された。

ロータリアンとして、私は以下のように行動する。

- 1) 個人として、また事業において、高潔さと高い倫理基準をもって行動する。
- 2) 取引のすべてにおいて公正に努め、相手とその職業に対して尊重の念をもって接する。
- 3) 自分の職業スキルを生かして、若い人びとを導き、特別なニーズを抱える人びとを助け、地域社会や世界中の人びとの生活の質を高める。
- 4) ロータリーやほかのロータリアンの評判を落とすような言動は避ける。

となっております。

3代前の会長 ジョンジャーム氏は、中核的価値観の中心になるべきは

「高潔性」と発言され、マークマローニー会長方針の「職業人のスキルに基づく地域での貢献」等のメッセージから、日本のロータリーは決して国際ロータリーとは乖離しておりません。日本の古き良き伝統を守り、世界のロータリーの流れと伴に歩んでおります。

RIの現況について触れなくてはなりませんが、申し上げようとしたデータは全てマイロータリーから表示されることばかりなのでチェックしていただき、プログラムをご参照ください。

長々とお時間を頂戴いたしました。ありがとうございました。

終わります。

5.9 RID2750地区大会 RI会長代理挨拶

2021.5.26

こんにちは！豊田RCの齋藤直美です。

福原ガバナーならびに遠藤 彬実行委員長と東京銀座RCの皆様！本日の地区大会の開催、誠にありがとうございます。とりわけ今年は、皆さまご存知のような状況の中での開催でありますので、全国のロータリアンが注視しているかと思います。非常にご苦勞されたかと思います。様々な配慮や工夫にご努力されたかと思うと、改めて敬意を表します。クナック会長も高く評価され、感謝の意を捧げられております。

さて、本日は会長代理としてお邪魔いたしました。会長は現在、スザンヌ夫人とドイツのラッツェブルクにお住まいです。お仕事は、不動産業を営む「Knaack KG」のCEO。125年続く家族事業の「Knaack Enterprises」の元パートナー兼ゼネラルマネジャー。地域社会では、ラッツェブルク市民財団の創設メンバーであり、Gut Grambekゴルフクラブの会長を務めた経験を持ちます。カール・アダム財団の会長で創設者であります。

ロータリー歴といたしましては、1992年にロータリー入会。ロータリーの財務長、理事、モデレーター、各種委員会の委員や委員長、規定審議会代

表議員、ゾーンコーディネーター、研修リーダー、地区ガバナー、2019年ハンプルグ国際大会ホスト組織委員会の共同委員長を歴任。現在は恒久基金／大口寄付アドバイザーを務め、スザンヌ夫人とともにメジャードナー、遺贈友の会会員としてロータリー財団を支援しております。

昨年の国際協議会では、「ロータリーは機会の扉を開く」という会長テーマを発表され、皆様からすっかり受け入れられ、2750地区ガバナー福原さんは、バリアフリーマインドとアレンジされ、地区運営をされています。また、会長は会員の入会促進と維持、ローターアクトの育成、そして世界中でつながりを築き人々と地域社会に機会をもたらすよう訴えておられます。

それでは、会長メッセージのビデオを持参しておりますので、ご覧ください。

はい！ありがとうございます。次に日本ロータリーの、世界での立ち位置について報告いたします。

日本のロータリーは昨年100周年を迎えました。振り返りますと素晴らしいロータリー大国となっていることに気づきます。財団への寄与率、会員の維持とRIの組織の一員としてその責務を果たしていることを誇りに思っています。トップランナーとして走っています。日本のロータリーは強い、優秀であります。私は理事在任中に、2～3回、自分の担当ゾーンの成績一覧表に基づいて成果を発表させられました。

①増強はスマイルカーブと称すゆるやかな上昇傾向、②財団寄付率(ゼロクラブゼロを2回発表)、1回はイアンライズリー会長の時で、信じられない！と言ってくれました、③理事の経費利用がほとんど未使用である。それで、この効果、と強調。④マイナスもあります。女性会員、若い会員の比率が非常に悪い。これについては、「日本の文化の歴史のなせるもので、皆様のレベルになるには3代の世代交代が必要だと申し上げました。繰り返しますが、日本のロータリーの優秀性はトップレベルですから、世界旅行をする時はバッヂを付け、日本のロータリアンと胸を張りましょう。

それは日本のロータリーがこの100年、頑なまでに守ってきた「ロータリーの心」つまりロータリーの奉仕の哲学を各クラブが受け継いでいるからです。やはり親睦を第一義としてきた100年の成果ではないでしょうか？

日本は明治の開国以来、物づくり人づくりを建国の中心に置き、大国として成長してきました。ロータリーもまた人づくりを事業計画の中心に置き、運営してきたやに思います。とりわけ近年は、横一線のクラブ事業からクラブの独自性を主張する事業へと変化しているように思えます。青少年交換事業を、クラブをあげ、町長以下、町民の方々と支援したり、ローターアクトの2地区合同事業(2760地区・2830地区)による「板柳宣言」を行ったり、形を変えてクラブ固有の事業にしたりと、多彩になっています。

今は時代の大きな変わり目にいるんだと実感します。日常生活の変化と、それとの関わり方の試練の時ですが、これを乗り越え対応していけば素晴らしい日常はちゃんと戻ってくる、という希望を持っていきましょう。ロータリーも変わるでしょう。でも、日本のロータリーの心は変わることはないと思います。

長い時間、お付き合い下さいましてありがとうございました。

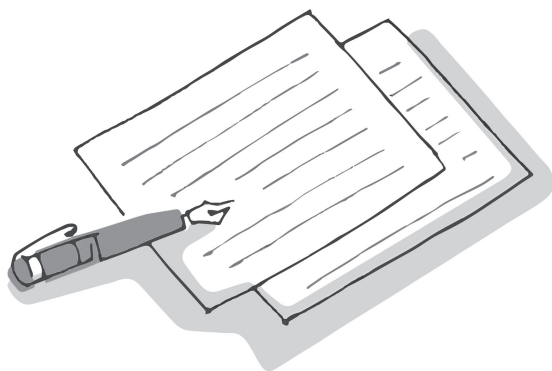
終わります。

第 6 章

お世話になった方々との交友録

第6章

お世話になった方々との交友録



6.1 手紙 (豊田ロータリークラブ 横山眞久氏 宛)

豊田RC 横山 眞久 様

前 略

会長をやってから、頭がおかしくなったのでしょうか?それとも考える事が無くなったのでしょうか?いわゆる「ロータリー馬鹿」現象が現れています。ロータリーに関する本を、むさぼるように読んで(でも片端から忘れてゆきますが)新しい発見があり、知識欲が満たされるにつれて突然変異的にエネルギーが湧いてくるのが、自分でもよく解りません。新しく覚えた事などすぐにメンバーに伝えなくては、という思いがすぐに出てきます。周りの人にとりましては若干迷惑だとは思いますが…。

今日FAXしましたのは、これまた迷惑な話ですが、ゆっくり貴兄と話を詰める時間が無いものですから、杉浦栄さんと電話で「ロータリー情報委員会及び企画情報室の主催で、ロータリー概論をみっちりやりたいのだが」と話をしました。その結果、次の様な要領で計画しました。日程、テーマはあくまでも講師の都合に合わせました。

- ・平成15年11月15日(土)10:00~11:30AM、1:00~3:30PM
- ・「ロータリー概論」
- ・講師：田巻明男氏(紋別港RC、2500地区パストガバナー)

質疑時間を充分にとり、コーヒーを飲みながら硬くなく形式ばらずにやれたらよいと思っています。

1975年位から、日本のRCはゆっくりと変質しています。古典的なロータリーの考えと申しますか、ロータリーの基軸をなす考え方と申しますか、そんなものが失われてRIの世界的なプログラムへ傾斜してしまい、基軸について話す、再確認するという事が少なくなってしまうようです。今回企画しましたプログラムは、もう一度、基軸を考えてみようよという意図からです。

御賛同いただければ幸いです。JC時代のL・Dを思い出して燃え続けようと思っています。お電話をお待ちしております。乱筆、FAXにて失礼します。

草 々

2003年9月2日

齋藤 直美

6.2 手紙 (紋別港ロータリークラブ 田巻明男氏、御令室 宛)

紋別港RC 田巻 明男 様
御 令 室 様

前 略

珍味の海の幸をありがとうございました。毎晩、舌鼓を打って酒が進みます。

一昨日(9月26日)、田巻様の担当医のフモト先生(?)にお電話でお話を伺いました。「11月14日に飛行機で名古屋まで、翌15日の御講演があること」の件であります。結論を申し上げますと、①飛行機はもうよい、②再発はどこに居ても可能性はある。その可能性は予測しにくい、③問題は歩行能力がどこまで回復するか、④御家族の同意が得られるか、等々をご親切に説明していただきました。この件につきまして、当病院の院長(他クラブロータリアンです。内科)に報告し、その意見を求めましたところ、①発作後1週間で車椅子に乗ってメーキャップに行く許可が出ていること、②言語障害がほとんどないこと、③発作時、奥様とTEL可能であり、少しは歩行できたこと。そして進行が止まっていること、④左上下肢の筋肉低下は認めるも自動運動が可能であること、等々を考えると回復が早いと思われ、11月14日の御来豊は充分に間に合うという嬉しい意見を貰いました。「豊田ロータリーで喋らなくては!」という意識は、リハビリ効果を上げ回復を早めてくれるのでは、ともおっしゃっていました。

そこで、田巻様が順調な経過をたどられる(多分そうなると思われますが)ということを前提に、以下のような事を考えてみました。

11月14、15日の御来豊に際しては、

①平野克昌様と御一緒に来ていただくこと

(田巻様のセミナーでの役割を平野様へ一部お願いし、負担を減らす)

②奥様の付き添いがあれば、先生も私達も大いに安心しておられること

③当地滞在中は、小生の病院々長(内科)が付き添って行動を共にします

④当市の二つある総合病院の脳外科はスタッフが充実しており、とりわけ一方の脳外科部長は私の病院の非常勤医であり心強い仲間です。

⑤田巻先生のお体(体力)を考えて

a. 11月15日(土)10:00~11:30AM 90分

基調講演「我が心のロータリー」のみとする

b. 1:00~4:00PM パネルディスカッション

・コーディネーター:平野克昌様

・パネラー:当クラブ委員長4~5人

・アドバイザー:田巻様

c. 上記a. b. の企画にしますと、

田巻先生への負担が大幅に軽減され、当クラブメンバーのセミナーへの参画意識、ロータリーへの関心が高まると考え、一石二鳥かと存じます。

⑥お帰りに際しましては、その日(11月15日)のうちに札幌に帰られる(中村記念病院があり安心できます)もよろしいし、あるいは体調次第で、当地の温泉でゆっくりされて16日(日)にお帰り下さいましてよろしいかと存じます。

以上、自分に都合のよいように解釈して計画させていただきました。

これはあくまでも田巻先生が「順調な経過である」ことを前提としますので、順調であられることをひたすら小生としては御祈念申し上げます。

草々

2003年9月28日

齋藤 直美

6.3 手紙（小学校恩師宛）

前 略

突然、60年前に引き戻されるような御本『生きる＜前編＞人生二十五・戦時中ノ記』の著者名でした。失礼ながら、先生は御記憶に残っておられないかと存じますが、小生は斉藤直美（ただみ）と申します。引揚者で作った新興繊維という会社の専務の長男で、四年生の時に沼津市立小学校より転校してまいりました。修学旅行は柏崎海岸で写真を取りました。それ以外には、三井君という男の子とよく喧嘩して叱られた記憶しか残っていません。中野中学へ進み、桑原耕三先生、綿貫先生のクラスでした。下高井郡の中学対抗珠算大会に選手として出場し優勝したこと、クラス対抗駅伝の選手として出場したことや、合唱コンクール指揮者を大久保先生（女性）に命じられたこと（シューベルトの魔王をよく聴かされました。）などが浮かんできます。高校は、綿貫隆夫君、松本英夫君、井上和延君は長野北高へ、小生は須坂西高へ進みました。

父の会社新興繊維が倒産したため、高校三年生の春に愛知県半田高校へ転校し卒業して、名古屋大学医学部へ進み整形外科を専攻しました。大学時代は岡沢司君と交流を続け、桑原先生のお宅（松川）へはスキーの帰りなど時々お邪魔し、先生が長野日赤病院にて逝去されるまでご指導を受け続けました。井上君とは年賀状のやりとりが50年続きましたし、綿貫君が中野市長になったことも知っていました。彼とは品川プリンスホテルにて55年ぶりに今年再会しました。ロータリークラブがとりもってくれた縁でございます。今は、名古屋市在住の大村健次君と斉藤雅子さんの小学同級生同志の御夫妻とも付き合っております。9月10日には、三重県津市の県立美術館で開催された菊池契月のすばらしい日本画展を一緒に見に行き、“中野市の誇りだ”とあって帰ってきました。桑原先生の奥様の遠縁にあたる豊田家出身の方ともうけたまわりました。

先生の御本はまだ読んでいませんが、「あとがき」のみ読ませていただ

きました。いつの頃からか小生は本を「あとがき」―「まえがき」―「目次」と目を通すくせになっていますので…。秋の夜長、これからゆっくり読ませていただきます。後編を是非とも早く御完成下さい。もうすでに執筆をお始めになられている由、楽しみにしています。

それから小生の住所をお書きとめ下さりまして、貴本のご惠贈の栄誉を洛しましたこと心より厚く厚く御礼申し上げます。

草 々

2009年10月28日

6.4 手紙 (RI理事 松宮 剛氏 宛)

RI 理事 松宮 剛 様

賀状を拝読させていただきました。

毎年、貴兄の賀状に感動したり、同感したり、はたまた首を傾げたりして、その感性の豊かさを羨ましく感じさせていただいたり、嫉妬したりしています。

私は、昨年11月に満74歳となりましたが、貴兄の身をよじり、のたうつ心やシジフォス神話ならぬ人生の不条理をうらむ苦悩を我が事のように感じています。人間いくつになってもこの青臭い悩みを持ちたいと思っていますので、貴兄のファン、サポーターの一人としてエールを送り続けたいと思っています。ふとした縁でお知り合いになりましたが、貴兄という先輩ガバナーの文献を読み発言を聴き、ロータリアンとしてガバナーとして成長させていただいたと感謝しています。PGとして各地区へ出入りさせていただき、NPO法人RIJYECの理事長として各地区PGと交流させていただいていますが、雑音が多すぎます。自慢ではありませんが我々2760地区は、PG同志に不協和音はありません。ですから地区運営に関しては、ガバナーはとても楽です。むしろ小生が院政をしていると地区メンバーに陰口を言われます。それというのも、小生の時のガバナー補佐8人のうち3人がガバナーを務めた為でしょう。小生はその3人のサポーターです。新しい委員長のサポーターです。それがPGの任務でしょうから・・・。

小生はPGとなってから、ロータリー運動に関するトラウマと申しますかコンプレックスと申しましょうか、そんな事項がありまして、その克服に努めています。貴兄の文献を読んだり、紋別港の故田巻PGの書いた物を読んだり、小堀憲助先生の本を読んだりして(勿論、佐藤千寿PG、深川純一PG等々)理論武装したつもりでしたが、(もう一つの“輪”である)社会奉仕の現場を知らない、見ていない、参加していない、という負い目です。

ですからPGになってから積極的に参加しています。ポリオワクチン投与に、GSEにWCSに新しいクラブの設立の特別代表に、新しいローターアクトクラブ設立に関わってきました。そして今は再び“これってロータリー?”と感じつつ、暇があるからとこれ等に参加したりフラフラして、軸の定まらないロータリアンをやっています。今年はNPO法人RIJYEC理事長として宿題があります。青少年交換のための統一旅行保険、オリエンテーションプログラムの整備、危機管理などと取り組み、5月18・19日平和フォーラム広島への参加と、悲願(らしいのですが?)であるローテックス(学友と改称)の全国統一組織の結成が、その宿題です。

ですから、まったく多忙で楽しいロータリー活動をやっています。そして“これってロータリー活動か?”と反芻しています。RI理事というのは、RIのリーダーです。3～4年前だったでしょうか、貴兄はすでにRIの方向について予見し発言していました。貴兄の意に沿わないもののようでした。そういう文章もチラチラ見えていました。しかしRIのリーダーですから、他人が一向に認めてくれない自分の価値は捨てなくてはならないのです。でも日本で生まれロータリーに入会させてもらい育ててくれたロータリーですから、時々牙を剥く必要があると思います。(上流志向があれば別です。)それがどんな形で出来るのか解りませんが……。

あるPG達は、RIの方針を宗教の教典の如く唱え、臆面もなくメンバーへ向かって反復し、ロータリーのリーダーの顔をしています。身もだえしながらロータリーを語ろうとして絶望しているリーダーは、素敵です。でもRIのリーダーですから気を付けて言葉を選んでください。

今年もまた、のたうちながらロータリーを語って下さい。下流志向こそ真のロータリアンの姿ではないでしょうか?

2013年1月2日

6.5 名古屋大学医学部 整形外科「晩成会」50年誌 寄稿文

2014.5.2

卒後40年誌を作るためにエネルギーを使い過ぎたのか、50年誌のための筆の進み方がすこぶる悪い。卒後40年(2003年)以降の時の流れの中で、病院の経過とロータリー活動の流れを記録するわけだが、サッパリ人と時が符合しない。あちこちしながらまとめてゆきたいと思う。

昭和59年(1983年)豊田第一内科病院を新設した。初代院長に会津三郎先生をお迎えした。名市大 佐々木生化学教授を当院の保証人 井戸春幸さんに、同郷の仲良しということで紹介していただいたが、その佐々木教授に推薦していただいた先生だった。穏やかで柔和なお顔で白髪の紳士であり、第一内科病院には良いスタートが出来た。

2代目は、名市大第2外科出身の中島慶二先生(胸部外科)だった。そして1988年(平成元年)、愛知医大第一内科から近田直人先生をお迎えして順調な病院運営となった。

ところが1990年、4年間頑張っていた中島先生が退任してしまい、近田先生が孤軍奮闘しなければならない辛い状況が生まれてしまった。あちこち駆けずり回りやっとのことで同級生の加藤健一先生(愛知医大第一外科で医局長を山本教授の命令で5～6年続けて務められた)の助けをお借りして、1991年(平成3年)愛知医大第一内科講師 加藤勝久先生を院長としてお迎えした。第一内科 加藤克己教授のお部屋にお訪ねして、「整形外科の僕には内科的管理がほとんどできない。内科的治療を必要とするクランケが沢山居るので、是非ともこのクランケのチェックと治療をお願いできませんか?」と懇願した。僕らがポリクリをやる頃には東新町に名大病院の分院があり、そこで加藤教授はまだ当時は助教授としておつとめになり、僕等にはインターン時代を含めて大変お世話になった大先輩であった。「どなたか院長として派遣していただけないか」、とお願いした。その時、院長ジッツなら、と医局長をお辞めになったばかりの

加藤勝久先生をご指名していただいた。先生は、豊橋時習館高校から早大に進み「医者がいい!」と愛知医大に入学した才気あふれる医師で、豊田厚生病院の前院長 妹尾先生をして「なんでそんな病気を知っているんだ!」と舌を巻かせるほどの診断治療に精通した医師であった。院内の従業員からとても慕われ、豊田おいでん祭の斉藤病院70~80人の連の後に付き、脱水予防の水と西瓜と塩とをリヤカーに積んで引いて歩いていただいた。我が病院の連は豊田市長賞(準優勝)、優秀賞などを毎年獲得したことが楽しい記憶として残っている。

1992年斉藤病院と豊田第一内科病院とを合併させた。業務の効率化のためであったが、その効果は大きく3月期にもボーナスを「出そうよ!」という時代が続いた。その絶頂期は2年で終わって医療冬の時代に入って行った。

1999年(平成11年)麻雀仲間の鉄工場のオヤジから、「お年寄のための病院を作って」と言われた。あまり気にしていなかった患者さんの、それも高齢者の入退院をめぐる右往左往を指摘され45床の療養病棟を増築した。それに伴い2000年、従来の急性期病床を75床→62床→45床と減じ、看護病棟として適切な病床数とした。

そうこうしている時に、上飯田第一病院の整形外科医 紙本寛先生が入社してくれた。膝と股関節のOPEが上手で助手を務めさせてもらった。僕のOPEは頸椎・腰椎のヘルニアまでで、人工関節の股関節膝関節はまだ発展途上だった。

2005年(平成17年)長男 伸一郎が名大医学部整形外科の大学院を卒業、そのお礼奉公も済ませ石黒教授の許可もいただき帰ってきた。そのため内科も整形外科もスタッフに恵まれ楽しい日々が続いた。が、良い日々は長くは続かないと言われる通り、2007年(平成19年)加藤院長が大腸がんで鬼籍に入られてしまった。享年56歳という若さだった。すべてに出来る人間は短命とか…残念無念で仕方がない。そして「加藤勝久先生が居

るなら…」と入社してくれた多賀谷先生が院長を引き継いでくれた。本当にありがたかった。真面目な先生は、「あと内科医1人居ないと内科は廻らない」と松本先生を連れてきてくれた。穏やかで40歳前だというのに妙に家族へのムンテラが上手で感心させられる。内科医の関連する資格を沢山有する勉強熱心なドクターである。

結婚そして開業と、クラスで一番早かった僕は、40歳の時には豊田ロータリークラブの会員に推挙されメンバーとなった。会員は、一業種一人の原則を持つロータリーでは、整形外科医は大先輩の菊池英先生が在籍されていたので、理学療法という職業分類で入会が認められた。一業種一人のクラブは、豊田市内の政財界のトップが並び、なかなか常日頃お話しできない方々ばかりで、駆け出しの町医者では肩のすくむ皆様方であった。毎週木曜日(12時30分～13時30分)例会が開催される。100%の例会出席が求められ、自分の仕事へのたゆまざる努力が欠かせないと教えられた。医者・経営者・校医・地域の予防医学推進者と様々な顔が必要であった。愚痴を言いつつ20年例会に出席し続けた。

青年会議所運動(街づくり・平和づくり)に一生懸命だった僕は、ロータリー運動のゆったりとした活動はなじめず、昼食会と割り切っていたが、次第に関心がうすれ遅刻・欠席が多くなり、不良会員となっていた。ある飲み会で、自分の仕事が多忙のため遅刻・欠席が増えて…と弁明したら、ある信用金庫のお偉さんから、“先生!自分の病院の組織を、自分が万一不在となっても動くようにしないとロータリー活動はできません。組織づくりをまずしなさい”と強烈なアドバイスを受けた。そして人づくりの難しさを思い知らされた。

2000年1月 副会長、2001年7月 会長エレクトに任ぜられた。そして2002年7月には、会長に選出された。

ロータリーの会長は、何をやるのか?ロータリーとは何なのか、20年間在籍しながら全く知識がない。(今では空白の20年と自嘲している。)ある

日、クラブ事務所に行って書庫を漁っていて、「ロータリーに関する14の断章」「ロータリークラブ—その理論と実態と批判—」の2冊が目にとまった。読み始めてどんどん惹きつけられ今まで知らなかった事を次々と明らかにしてくれ、さらにロータリーに惹きつけられ、それからというものは文献をどんどん読破していった。

50年前の1960年の安保騒動に熱をあげた男が、半世紀を経てロータリー運動にうつつを抜かすとは、首尾一貫しないのではないかと己が生き様の節操のなさを嘆きあきれはてる。

週1回知人とランチを食べ、世間話をして親交を深め、お互いの企業の方針、人づくりの方策などをヒントとして学び、企業収益をあげ社会還元をしていくという、目立たないがすばらしい心を持つロータリー活動に共鳴して賛同して夢中になったような気がする。

クラブ会長が終わって3年、私は息つく間もなく2006年には2760地区(愛知)ガバナーに選出された。その縁で、同級の半田市民病院長の六鹿君や旭労災病院長の犬野良之君もロータリアンであることを知り、ロータリーのすばらしい組織力と人材の宝庫を思い知らされた。

日本のロータリーは、34の地区に区分され各々に一人ずつ34人のガバナーが選出される。ガバナーは国際ロータリーの役員であり地区の管理責任を負っている。同期のガバナーには、札幌市の丸山淳士先生(産婦人科)、大阪の岩田宙造先生(元阪大薬理学教授)、米子市の新宮彦助先生(整形外科)、河内長野の三軒久義先生(泌尿器科)、広島 of 岩森茂先生(外科)、長崎の田口厚先生(整形外科)、と列挙すると小生を含め7人の医師が並んだ。会計士(2人)、僧侶(2人)、神官1人など多種多様なリーダー群であり、「無門会」なる呼称の会のもとに年1回の親交(2泊3日)を深め、死ぬまで付き合いたい男が、仲間が出来た。ガバナーの務めが1年で終わると、パストガバナーと呼称され各々の地区の御意見番となる。1960年代以降の国際ロータリーは、次世代の健全育成のために様々なプ

プログラムを開発してきたが、その中の1つ青少年交換事業は日本でも活発に事業展開されていた。私も、同期のガバナー 青梅市の小澤秀瑛さんから「パストガバナーになって暇になったから付き合え!!」と誘われて青少年交換事業に関わることになっていたのが2007年7月のことである。2010年7月より2013年6月まで3年間、NPO法人国際ロータリー日本青少年交換委員会RIJYECの理事長に推薦された。2011年3月、東日本大震災が発生。世界各国から集まっている留学高校生70余人は、福島第一原発の事故が大きく報じられた為、母国より帰国命令が出て大混乱となった。幸い、来日高校生にケガ一つなく被爆もなく収束した。日本のロータリーは、この事故で世界中より膨大な物心両面の支援をいただいたので、2012年5月ロータリーのバンコク国際大会の席上、お礼のスピーチをする榮譽に浴した。

このように、病院経営も、人生の余白としてのロータリー活動も並行して順調に過ぎてきたのだが、実はこの私の歴史の中で黒子に徹して大きな支えとなって働いてくれた仲間が2人居る。支えばかりでなく、病院発展のエネルギー源となり推進力となった事務長の山田泰男君と、婦長の吉永喜美子さんだ。山田事務長は、薬大を卒業してすぐに、ある県会議員が「こんな青年が居るが」と紹介してくれた。社会人として第一歩を当院で踏み出すこととなった。薬剤師の先輩もなく、手探りの泣きたくするような門出だったと済まなく思うが、これがその後の事務長を大きく育ててくれることになった。医局へ挨拶、中学校へ看護師の求人、官公庁へ届ける書類の提出、職員の労務管理と、慣れない仕事をよくぞ今日までつぶれることなく付き合ってくれている。院内のミクロからマクロまでの仕事は、頭と体のフル回転と唯々頭を下げる。もう1人の吉永婦長は、看護婦不足の中で退職していった若いナースと常に連絡を取り合っていた。彼女は、何人かの同僚看護婦と同様に目立つことなく仕事に明けくれていたのであるが、平均年齢21歳のナース達の中で30代と最年長であった為、何かと母

親的姉さんの存在であったから、自然に押し出される形で婦長の立場に立たされてしまった。婦長にと頼み込む小生の申し出を“准看の私には婦長になれない!”と拒否し続けていたが“婦長は周りが作ってくれるもので初めから婦長さんは居ないよ。そのうち婦長さんと言ってくれるよ”と口説いて、やっと婦長になってもらった。しかし今までと変わることなく先頭に立って仕事をこなしてくれた。だから退職して嫁入りした若いナースが、何かと電話で相談していたみたいだった。しかも、その仕事振りは例えば冬の大雪の日は、家事は母親にまかせて早朝より“雪かきがあるでしょう!”と若手を集め、当院入口の坂道の雪かきをしたりと一事が万事の仕事熱心だった。また、小生が発熱すると、朝8時にはメチロンを大臀筋へ注射し解熱させて、昼まで外来をやるようにしてくれた。当時は永年勤続の看護師には愛知県知事賞が授与されることが時々あったので、彼女もその栄誉に値すると県に申請して審査され、その功績が認められた。その晴れの受賞記念祝賀会パーティーには、退職していった看護師のほとんどが顔を見せてくれて、彼女の人徳の広さ高さに絶句した。その後も彼女は、当院の看護介護の充実のために後輩を育て患者さんのためにその指導力を発揮してくれた。

山田事務長と吉永婦長は、私の両手両足そのものであり、開院40年の歴史を創りあげた人物である。

若手医師が入れ替わり立ち替わり当院へ出入りしてくれるにつれて、MRI、CT、心エコー、関節鏡などの医療器材を設置して診断の盾を上げる努力を行ってきたからか、医療行為そのものが次第に楽しくなっていった。勉強嫌いの小生には何とも不思議な変化であり、“趣味ですか?”と問われると“お医者さんごっこかな?”と照れながら答えるようになった。そんな小生を同級生は何と言うだろう。豊田市内の遊び仲間の医師会のメンバーは、“ウソだろう!”と叫ぶにちがいない。

卒後50年の同級生文集を執筆するに当たり、そのまとめ方が決まらず

思いつくままに書きなぐったが、この50年に関わった人々との一人一人に物語があり、とても書きつくされない。それ等人々の励ましやら、お叱りやら、なぐさめやら、応援やらの様々な言葉や、生き様が僕の背中を前へ前へと押しまくってくれた。博友会(名古屋JCのOBのある同好会)の先輩であり、麻雀仲間、カラオケ仲間、ゴルフ仲間との交わりの中で数々の生きるヒントを頂戴した。これ等の仲間が居たからこそ今日までやって来られたとつくづく思う。時には、仏前での父母や祖母みねとの会話であり、女房と口ゲンカの忠告であり…。感謝々々である。

さて、我等晩成会の卒後60周年記念誌の発行はあるのだろうか？

あと9年…そして米寿を大勢の晩成会の仲間と祝いたい。

6.6 千田先生(名古屋大学整形外科医局39会の同期生) 追悼文

2014.5.2

こともあろうに津島の後藤先生からの電話は、君の逝去の知らせだった。受話器を持ったままの僕は動けなかった。そしてそっと机に置いた。君、千ちゃんが御子息の関係する病院に入院しているらしいとは聞いていた。最近、奥様からの話では、体調不良が元で歩くのに不自由になったとのことだった。昭和39年慈恵医大を卒業して、40年には名古屋大学医学部整形外科学教室に入局した。同時入局の9人は中川教授の1回生(実際は2回生)と言われ、いいにつけ悪いにつけ教室の中で目立つ存在となっていた。当時は60年安保闘争の余波を受け、大学医学部の医局改革が全国的に声高に叫ばれていたため、僕達9人も大島医局長先生に「赴任先の病院へ出向する医師は、僕達で責任をもって決めますから。」と言ひ、大島先生は笑って「うん、いいよ。君等で決めてくれ。」と言ってくれた。当時は医局長の人事権を奪取した気でいたが、今にして思うと実に無鉄砲な事であった。それに気づかない僕らは意気軒高で豊浜のまるは食堂で一泊して、千田先生の歓送会を行った。その夜のシャコは食べ放題だった。この時を境に、39生はそれぞれ赴任していった。

月に1回位だったろうか、医局会議に参加するために各々赴任先から昭和41～42年の頃は若手医師が集まったが、ある時「脊椎カリエスにギブスベッドを使いますが効果はあるのでしょうか？」と僕等一同の疑問を千田先生が代表して発言した。発言が終わるか終わらないうちに中川教授が「常識じゃろが!!」と一喝した。僕らは下を向いてしまった。あの時の君の勇気を今でも尊敬している。その一喝が元で、僕等は以降ほとんど中川教授に質問しなくなった。でも教授は、僕等39年卒の9人を“圧力団体だから怖いよ”と言っては可愛がってくれた。ある日、伊豆療護園の君を訪ねて後藤先生と遊びに行った。3人で園のマイクロバスを持ち出して伊豆スカイラインにドライブに行った。帰路、下りの続く道でブレーキを多用する

僕に、君は「ペーパーロックを起こすよ。エンジnbrakeキを使えよ。」とブレーキの多用を注意してくれた。よく気が付く君だった。

それからの39会の僕等は、2ヶ所目の研修病院へ移っていった。一ヶ所目は一般総合病院、2ヶ所目は肢体不自由児のための療護園にて各々研修する計画が医局方針だった。千田先生は名古屋国立病院へ移り、牧山先生、長屋先生お二人の素晴らしい薫陶を得て臨床トレーニングに没頭し、学会発表も数多くこなしていた。日々新しい症例に出会いその診断と治療を学び、カルチャーショックから僕達はよく集っては報告しあって、4年5年と過ぎていった。実に楽しい日々を送っていた。

間もなく僕等3人は開業の話が出て、教授をはじめ教室への挨拶を済ませてからという礼儀を捨て、社会的常識も心得ずに準備を進めオープンしてしまった。開業してからは、3人がそろって勉強不足、経験不足なのを十分に意識していたので診療現場に対する危機感があり、毎月1回夜8時より先輩の先生や他科のドクターを招き講義を受けた。その講師手配は人脈の広い信望の厚い千ちゃんが一手に行き受けてくれた。その後何人かの後輩がこの勉強会に参加してくれて、学会にゴルフにと一緒に楽しんだがこの幹事役も引き受けてくれた。39会の皆は千田先生におんぶにだっこと感謝している。

医師会などの勉強会に出席すると、あの人懐こく笑いながら近づいてくる、ありし日の千ちゃんが懐かしく思い出される。惜しい盟友を失ったことを淋しく思っている。残念である。どうぞ安らかに眠りください。

— 合 掌 —

6.7 手紙（佐古亮尊様宛）

佐古 亮尊 様 御机下

前 略

寒くなりました！お变りございませんか？妙な病が流行っていますが、いかがお過ごしでございますか？この病のためにロータリーの諸活動はほとんど停止状態となってしまう、「書面」あるいは「インターネット」による連絡会議を余儀なくされています。

「日本のロータリー100周年を祝う会」も新年1月22日開催予定の準備実行委員会の席上、検討されることになっています。インターネットによる開催ではなく、出来る限り多くの人に御臨席いただく対面方式によって行いたいという委員会の希望もあり、会場となるホテルを予約するにしましても、キャンセル料との関係上、その決定に躊躇しております。式典は、千玄室実行委員長による基調講演後、パネルディスカッション「日本のロータリー100年とこれからの100年（仮題）」を予定しており、パネラー渡辺好政パストガバナー（1993～94年）、神崎正陳パストガバナー（1994～95年）、三木明直前RI理事のお三方を予定しております。この司会進行を仰せついている小生が佐古様の御意見を途中紹介、と考えております。

現在、机上の計画のみで場所と日時が未だ決まってはおりません。今年度のRI会長ホルガー・クラークが5月25日なら来日の可能性があるようで、これも調整中でありますので、この来日に合わせて100周年記念式典の開催も検討しております。佐古様には逐次ご報告申し上げるべきと存じますが、クルクル日程が動きご報告の機会を失っております。大変申し訳ありません。1月22日の準備会が開催されますので、追ってご報告申し上げます。いましばらくご容赦下さいますようお願い申し上げます。

最後になりましたが、奥様にもよろしくお伝えくださいませ。

それでは良い新年をお迎え下さいますよう。

草 々

2020年12月23日

齋藤 直美

6.8 江崎柳節パストガバナー追悼文

2021.4.21 小牧RC 江崎PG追悼例会

豊田RCの齋藤でございます。

この度は江崎PGさんの追悼例会に出席できますこと、この機会をお作りいただき厚くお礼申し上げます。

江崎さんを失うことは、小牧RCの大きな損失であります。2760地区の損失であります。私にとりましても、ライバルを失って心の支えがなくなり、足許がくずれるようで、非常に残念です。片山PGと共に私達3人は、お互いを意識してロータリーを楽しんでいました。西尾張分区のIMではこの3人が登壇させられ、職業奉仕だか、ロータリーとは…だかの難しいテーマをぶつけられ、汗をかいた覚えがあります。

ガバナーを拝命した時、ガバナー補佐の方々のところへご挨拶に伺いました。しかし、江崎さんは“私があなたの所へご挨拶に行くのが筋だから”と事務所へわざわざお越し下さいました。先輩のドクター、それも4つも年上のドクターです。医者の世界は1年違うと軍隊と同じ大違いとなります。礼をつくしていただきました。私は持ち前の勝気が出て、言葉遣いなど恥ずかしい態度をしました。

インドにポリオワクチン投与にご一緒しました。その時、人生をご一緒に語ればよかったのにしませんでした。またWCSでフランス～スイスの国境の町にも行きました。

パストガバナーとなられてから、国際ロータリーの研修リーダーもお務めになり、生徒さんが何人もパストガバナーとして活躍しております。その時に頂戴した御本が「ロータリーマジック」であります。この本は、日本のPGさんの多くが読まれたロータリーの教科書であります。

昨年11月でしたか諮問委員会にてお会いした時、「ぼつぼつロータリーを退会したい」と弱音を吐いておられました。まさかこんな形で退会とは、残念でなりません。江崎PGさんのご意志を受け継ぎ、小牧ロータリーさんはリー

ディングリーダーでありますから、次のガバナーを出して下さいますようお願いしながらご挨拶とさせていただきます。

以 上

6.9 豊田西ロータリークラブ50周年記念誌 祝辞

2021.5.22

豊田西RC創立50周年記念、誠におめでとうございます。創立の頃の記録を紐解いてみますと、時のガバナー小田切貞夫さん(名古屋西RC)から、豊田RCの時の会長 渡辺末次郎さんに設立の要請がありましたが、機熟さずと先送りにされたようでして、翌年の中野会長の時に設立準備会が発足しました。1970年2月に、新クラブは豊田西RCと称し、特別代表に渡辺末次郎さんが就任されました。

4月1日付にて、滝沢DGより特別代表への委嘱状が届き、5日、神野PG(豊橋RC)、安野PG(一宮RC)とナゴヤキャッスルで面談し激励を受けました。10日、寺田勝一君をガバナーエードとして指名いたしました。

6月に入りますと、準備委員会は設立発起人キーマン5人(柏木正雄、大竹千明、石川嘉重、成瀬竜二、大矢興司)を推薦し、度々会合を開催いたしました。

キーマン5人の推薦をうけて、30名のチャーターメンバーが決定しました。平均年齢48歳という活気あふれる新クラブの誕生であります。

7月27日 初会合。ロータリーソングの練習をしたと記録にあります。

8月20日 チャーターメンバーを、ゲストとして豊田RC例会に招待しました。

8月24日 創立総会開催(柏木新会長、大竹新幹事)

出席者:第360地区ガバナー伊藤次郎左衛門、PG内藤卯三郎(豊田RC特別代表)、中根 岡崎RC元会長(豊田RCのスポンサークラブ会長)、佐藤保 豊田市長、柴田千里 商工会議所会頭

9月1日付 加盟承認

昭和46年(1971年)4月29日、チャーターナイト(国際ロータリー加盟認証状伝達式)を開催しました。以降、クラブとしては国際奉仕部門への貢献活動に目を見張るものがあり、例を挙げますと、デトロイト交換学生、青少年交換学生を、毎年足助の一の谷にて歓迎会、1973～74年米山奨学生南ベトナムのポーカチフィン嬢のホストクラブ、またスリランカなど途上国への医療支援、教育支援、農村の水支援等々、ボランティア活動が活発で、また、国際大会への家族ぐるみの参加など、奉仕活動の範を示されました。

簡単に創立の頃を見てまいりました。思い返しますと、創立の頃の会員の方々は私にとりましては尊敬すべき大先輩で、お一人お一人との出来事が懐かしく思い出されます。これからも我が町のロータリークラブ同志、共に奉仕活動に専心したいものです。今にも増しての御交誼の程、宜しく願いいたしまして、御祝の挨拶とさせていただきます。

以 上

6.10 RID2830友好地区協定締結後の交流記録

2007

2月23日～25日	青森鯉ヶ沢温泉・スキー場(加納PG夫妻、名古屋北RC2名、豊田RC6名)
3月3日	2830地区会員増強セミナーへ、菊岡深智子会員増強委員長 派遣
3月5日・6日	2830地区10名が来名し、懇親ゴルフ大会(岡部PG、片山GN、地区役員6名、豊田RC4名)
4月28日・29日	地区ローターアクト代表、幹事及び地区新世代委員メンバー4名を派遣。板柳宣言を両ローターアクト地区代表にて採択。
5月12日・13日	2760地区ローターアクト大会(於岡崎市)に2830地区ローターアクト代表、幹事、及び川崎ガバナー補佐一行が参加。
8月6日～8日	青森市へねぶた観光(ロータリー財団地区委員6名とガバナー夫妻及び、地区幹事夫妻)。
10月19日～21日	2830地区 地区大会へ江崎G、片山GEが出席し、交流を深める。祝辞、記念品贈呈。
11月17日・18日	2760地区 地区大会へ2830地区小林G、鐘ヶ江直前Gが出席。祝辞、記念品贈呈。

2008

4月2日・3日	八戸東、南RCメンバー6名と、三好CCにてお花見ゴルフ(遠山新世代委員長、片山GE)。翌日、同メンバーにてトヨタ自動車PR館見学。
7月17日	ロータリー財団セミナー講師として、2830地区鐘ヶ江PG来名。

7月31日～8月3日

両地区交歓会議のため、2830地区を訪問（斎藤PG夫妻、江崎PG夫妻、地区役員、豊田RC等）。

11月下旬

2830地区増強委員長セミナー講師として江崎直前がバナーが招聘。



2008年7月31日 友好地区交流会

2009

1月26日

2008年～2009年2830地区職業奉仕委員会メンバー約20名が来名し、トヨタ自動車工場見学。

8月4日・5日

青森訪問（青森県庁、クラブ訪問）

2010

8月1日～3日

友好地区交流会。むつ原子力発電所見学と八戸三社大祭見物、下北半島周遊。

10月29日～31日

友好地区交流会。常滑、半田、西尾など。陶磁器博物館、徳川美術館、貞宝GCなど。



2010年8月1～3日 友好地区交流会

2011

2月23日

八戸東RC50周年記念祝賀会 出席

8月3日～6日

東日本大震災支援合同会議。三社大祭見学、青森ねぶた見学、被災地・陸前高田など。



2011年8月3～6日 被災地赤松訪問

2016

2月6日

八戸東RC55周年記念祝賀会 出席

9月8日

衆議院議長公邸訪問



2016年9月8日 議長公邸訪問。大島理森衆議院議長(当時)と

第7章

写真で振り返る16年

第7章

写真で振り返る16年



2006年 ローターリー研究会希望晩餐会
ビル・ボイドRI会長夫妻を囲んで



2006-2007年度 ガバナー同期(無門会)



2008年 GSEフランス



2012年 マドリードのRCでメーキャップ



2015年 青少年交換白馬スキー



2015年 サンパウロ国際大会 GOTOSEOULランチョン



2016年 サンディエゴ国際協議会



2016年 ガバナー時代のRI会長ビルボイド氏と再会



2016年 ソウル国際大会にて 江崎さん、関場さんと



2016年 第45回ロータリー研究会



2017年 アトランタ国際大会 ビルゲイツ氏を迎えて



2017年 アトランタ国際大会 近藤真道さんと



2017年 アトランタ日本人親善朝食会 RI会長と握手



2017年 アトランタ日本人親善朝食会 ロータリー財団(ポリオ)へ寄付



2017年 アトランタ日本人親善朝食会 豊田RCメンバーと



2018年 RI同期理事と



2018年 国際協議会 斎藤RI理事夫妻紹介



2018年 RI同期理事とグアテマラツアー



2018年 トロント国際大会 石黒RI理事と三木RI理事エレクト夫妻と



2019年 世界米山学友の集い“絆inモンゴル”

第8章

活動略歴

第8章

活動略歴

8.1 私のロータリー歴

2018.4月

(I)ロータリークラブ入会の時(1979年2月入会)

「JCメンバーの君はどんどん評判が悪くなるから、JCを卒業したらすぐ入れ」と土地を文筆してくれたスポンサーの言葉に従って入会。委員会も開催しないロータリーに1年で愛想がつきて退会届を提出。「紹介者の許可がないからダメ」と受理されず、3年目に青少年奉仕委員会招待学生委員を拝命。この年、スリランカの仏教遺跡を旅行してコロombo RCにメーキャップ。卓話で、この国の子供の死亡率が高いので保健婦を育成すべきという話を聞く。帰国して、「2～3人の看護師の卵を招き看護学校へ送りたい」と先輩に申し出る。そんな事業計画は会長の専権事項で、新会員は静かにしてろとたしなめられる。失望して退会届を提出。会長ノミニーがその事業計画を検討してるから、と受理されず。この町で開業した若造は、スリーピングを決めランチ仲間と町のリーダーの方々との交流の場としてぬるま湯につかり20年。

(Ⅱ)クラブ会長に選ばれる(2002-2003年度 豊田RC会長)

「会長おめでとう」という例会場の円卓のメンバーから祝福される。「俺、副会長だよ」「2年後会長をやるのだから」と副会長から会長エレクト、そして会長に就任という我がクラブのルールを初めて知った。慌てた。青ざめた！ロータリーの事を全く知らない。そもそもロータリーって何だ？空白の20年！失われた20年なのだ。事務局の古参の事務局員さんに、「ロータリーについて本ない？」と尋ねるありさま。「書庫に古いのが沢山あるから持って行っていいよ」と言われ、書庫に入る。あった。すばらしい入門書。一冊目「ロータリーに関する十四の断章」(茅室ロータリークラブ 松井幸雄)。松井PGの執筆、実に丁寧に書かれていて読み進むうちに目からウロコ。書庫の二冊目「ロータリークラブ」(小堀憲助)。読み進むうちに感動して、そうなんだ！初めて知った、教えてもらった、と有頂天になった。この本は絶版となっているために、この本が他所にないかと求めてあともがきからたどりついた先輩は、紋別港ロータリークラブの田巻明男PGだった。電話でご指導を受け、紋別市へお尋ねして教えを乞うた。クラブ会長に就任して9か月、桃の花の盛りの折、豊田までクラブセミナーの講師としてお迎えできた。クラブにロータリーを学ぶ土壤がないことに気づき企画したものだが、クラブ会長エレクトとノミニーを交えて3年間のセミナーを企画するも、1年間で挫折した。そのため、4～5人の有志による学習会を開催。1年で解散。この学習会の進め方の難しさを痛感。

パスト会長1年目に地区財団委員会へ出向。2年目にガバナーノミニーに指名される。「クラブ創立50周年にはガバナー輩出クラブになろう」を合言葉に担がれる。

(Ⅲ)2006-2007年度ガバナーに就任

まず手掛けたことは、①地区研修委員会の新設、②ロータリー情報委員会の新設、③広報委員会の強化、の3点。①はガバナー補佐8人にて構成し、②各クラブがロータリーを学ぶ体制づくりを提唱したもので、③はある大企業の元広報部長を中心にしてロータリーのすばらしさを訴えるクラブ活動の推進をはかった。その他、GSEの応援のためアメリカ・アーカンソーの地区大会へ参加したり、インドへポリオワクチン投与に参加して2760地区にポリオワクチン投与の参加を呼び掛けた(2760地区初めての参加)。年度末の6月24日、地区9番目のローターアクトクラブ「豊田広域ローターアクトクラブ」を設立。タイには2760地区国際奉仕の足跡が沢山あることに気づく。半田RCの図書館、名古屋西RCのグランドなど。

2007 —————

- | | |
|------------|--|
| 1月20日～27日 | ラオスへWCS、小学校建築 |
| 2月25日～3月4日 | 名古屋みなとRCラオス支援活動に参加
ビエンチャンRC設立へ協力
ラオスにロータリーは根付くのか? 政府はRCは寄付団体と決め公認? しているようだ |
| 4月17日～25日 | GSEにてアーカンソー市へ、地区大会へ参加 |
| 6月24日 | 「豊田広域ローターアクトクラブ」設立 |
| 7月 | NPO法人国際ロータリー日本青少年交換委員会(RIJYEC)設立 |

2007-2009 ——— RIJYEC委員

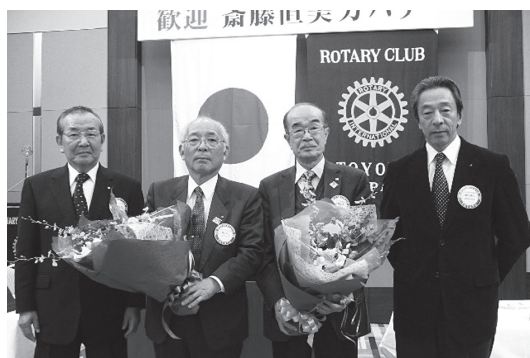
2010-2013 —— RIJ YEC 2代目理事長
新しい組織づくりに奔走して強固たる組織へ

2011 —— 東日本大震災を教訓に、危機管理システムと新しい保険を委員会に導入

2014-2015 —— 国際ロータリー理事エレクト

2016-2018 —— 国際ロータリー理事

以上



2006年11月16日
ガバナー公式訪問最終日は我が豊田RCへ



2017年アトランタ日本人親善朝食会にて
米山記念奨学会へ寄付。小沢理事長(当時)と

8.2 第2760地区10年史に寄せて

2019.5月

- 2015 ————— 理事という大任に、愛知から「選ばれた」というより「担ぎ出された」と考える。頭が真っ白というか震えに近いものが全身にあふれた。
- 6月6日～10日 サンパウロ国際大会参加のため、カタール航空にてドバイ経由サンパウロ行に乗った。せっかく南米の地に來たからとイグアスの滝、アコンカグア山の見物のためブエノスアイレスに宿泊した。この街には、世界三大オペラハウスの1つがあると聞いた。その見学ツアーに参加したり、アルゼンチンタンゴのディナーツアーに出掛けたり、アルゼンチン一番のワインの里 メンドーサに足を伸ばしたりした。サンパウロの大会会場に登録に行くと、同期のガバナー鐘ヶ江さんと、RI通訳部の寺尾栄子さんにお会いした。会場では大先輩の元RI理事 小沢一彦さん、オンツアトランタの大島さん、RI-RYLAの副委員長 御手洗さん等にお会い出来た。大会1日目2016-18年度理事として、会場でアナウンスされた。“ホントに俺やるの?”と実感。
- 6月25日 第45回ロータリー研究会は名古屋市にて11月28日～12月1日と決めた。
- 7月1日 ガバナー・元・次期ガバナー懇談会にて理事エレクト就任
- 7月22日～28日 スイスモンブランへ、フランスの同期Gerard Allonneau理事を訪ねる旅。「Mt.モンブランを見ないのか」と、初対面の時笑われた悔しさから。

- 9月 4日 第13回日韓親善会議
- 9月25日 WHOナイジェリアのポリオゼロ宣言
アフリカよりポリオ撲滅
- 12月 1日～4日 第44回ロータリー研究会
(歓迎パーティー527名、東京お台場)
この研究会に運営研修の為、豊田ロータリークラブの準備委員会のメンバーが多数参加した。

2016

- 1月16日 ガバナー時代(2006-07年度)のRI会長ビル・ボイドさんと再会
- 1月17日～23日 サンディエゴ国際協議会、ジョン・ジャーム会長
テーマ:「人類に奉仕するロータリー」
2760地区ガバナーエレクト服部ご夫妻の入場光景が、手を繋がれていて印象的だった。
- 1月26日 帰路アトランタ市に立ち寄る。6月国際大会のガバナーナイト、日本人親善朝食会会場を視察。シカゴ・オヘア空港で降機してワンロータリーセンターの見学をする。案内は通訳部の加藤君。
- 4月10日～15日 規定審議会に出席。日本のロータリーが大切にしてきたロータリーの基準を否定。クラブ運営の柔軟性と会員基盤の多様性が可決された。地区代表議員 岡部快圓PGと元RI会長 田中作次さんと。
- 4月11日～18日 理事会(オブザーバー)
- 5月26日～27日 理事会(オブザーバー、ソウル市)
小沢一彦、イアン・ライズリー両氏の共同主催大会のスピーチ。理事引継式:杉谷理事の席へ案内され、着席。

- 5月29日～6月1日 国際大会(閉会式にて“ロータリーの潮目が変わった”とジョン・ジャーム会長)
- 6月3日～5日 京都・奈良観光へ同期生3組の夫妻来日(Dean Rohrs夫妻、Mikael Ahlberg夫妻、Jorge Aufranc夫妻)。犬山RC岡田君、豊田RC孕石君、名古屋アイリスRC落合君らが応援に駆けつけてくれる。奈良の大仏様を台座に上って見学。
“Rotary-Something!”と悦に入った。
- 6月20日 石黒RI理事ノミニエを祝う会へ出席(鶴岡市)
- 7月1日 RI理事就任
- 8月22日 電話会議(エバンストン⇔日本)「ゾーン再編について」
- 9月15日～22日 理事会
- 9月15日 ノエル理事とゾーン再編について「日本の主張は考慮するが、1ゾーン35,000人という基準が」と冷たい反応、アドバイスもなし。
- 9月16日 ジョン・ヒューコ事務総長とゾーン再編について日本の立場を主張する僕に、ニコニコ笑顔で対応してくれた。そして日本のロータリーの協力に感謝、と言ってくれたが、どこまで納得してくれたか。
- 9月30日～10月1日 第2830地区大会(八戸市) 会長代理出席。エイドは大先輩 元RI理事 黒田先生。恐縮至極でした。
- 11月24日 豊田ロータリークラブ例会にて総決起大会(第45回ロータリー研究会の成功を祈って)
- 11月27日 ジョン・ジャーム会長、名古屋入り
ジュディ夫人をご案内して。エイドの田中正規直前ガバナー夫妻と。

- 11月28日～12月1日 第45回ロータリー研究会招集者として開催
(名古屋市)
参加者672名。海外参加者：D.K.Lee元RI会長、田中作次元RI会長、ゲーリー・ファン元RI会長、Sangkoo Yun元RI理事、蔡熙秉元RI理事
研究会基調講演：「LEDは世界を照らす」
ノーベル物理学賞受賞 天野浩 名古屋大学教授

2017

- 1月15日 ジョイントミーティング：財団管理委員との合同会議・研修会
- 1月15日～21日 サンディエゴ国際協議会、イアン・ライズリー会長
テーマ：「ロータリー：変化をもたらす」
神野ガバナーエレクトが開会式に先立つグランドオープン行進に参加
- 1月22日 ガバナンストレーニング(理事研修会)
- 1月23日～26日 理事会
- 1月24日 ジョン・ヒューコ事務総長とゾーン再編及びロータリー文献の和訳について特別許可の依頼をする。
- 1月26日 ノエル理事とゾーン再編について話し合う。1ゾーン35,000名のロータリアンの基準を盾に0.5ゾーン減少と言われる。ゾーン1Aとなるらしい。
- 3月13日 RI会長夫妻(ジョン&ジュディ・ジャーム)へ礼状を書く。日本語で書いて秘書の山口美保子嬢が英語へ訳し、さらに通訳部の寺尾栄子さん校正とする(永久保存のため)。
- 4月25日 伊勢ロータリークラブ65周年記念例会に出席。JC時代から親友の外科医 河神通宏氏の招待にて出掛ける。

- 5月3日 平和センター電話会議
22:00～23:30間の、通訳を入れての会議。疲れる。
- 5月22日 ゾーン1Aと分割後、RRFC、RC、RPIC、EMGA、
研修リーダーを独自に持つことを調整する（6月の
理事会に向けて）。
- 6月5日～8日 理事会
- 6月8日 理事交代セレモニー実施
- 6月10日～14日 アトランタ国際大会
2年目理事として壇上にて紹介される。
- 6月10日 日本人親善朝食会（ホテルハイアットリージェンシー
アトランタ）。780名の登録あり。領事館関係、当日
受付、RI本部関係など含め800人と実行委員会より
報告。
ジョン・ジャム会長、ポール・ネッツ財団管理委員
長、ジョン・ヒューコ事務総長、小沢一彦RIポリオ
委員会委員、会長エイドらの参加。ロータリー財団
に100万円、米山に70万円寄付。
- 6月17日～18日 理事会（バーンスレイリゾートにて。イアン・ライズ
リー会長が元ガバナーの夫人と相談しながら進行
するシーンが微笑ましい）
- 8月14日～15日 平和センター大口寄付推進活動委員会（エバンス
トン）。（ヒロシマ被爆の木の植樹、平和フェローの
派遣国はアメリカに次いで上位、との報告あり）
- 8月14日 ジョン・ヒューコ事務総長と国際大会を名古屋市
へ誘致について相談
- 9月25日～28日 理事会（2023、24、25年国際大会都市が決定される）

- 10月6日～7日 RID2500地区大会(網走市) 会長代理出席。基調講演は、十五代酒井田柿右衛門氏。友好地区のタイより参加者10名弱あり。
- 10月27日 深夜の平和センター電話会議(23:00～25:00)
アンドリュー信子さん通訳
- 11月14日 深夜の平和センター電話会議(23:00～25:00)
アンドリュー信子さん通訳
- 11月20日～23日 第46回ロータリー研究会招集者として開催
(東京お台場)

2018

- 1月14日～20日 サンディエゴ国際協議会、バリー・ラシン会長
テーマ:「インスピレーションになろう」
- 1月22日～25日 理事会
- 1月26日～31日 グアテマラシティRC訪問(同期Jorge Aufranc理事、Mikael Ahlberg理事(スウェーデン)、Gerard Allonneau理事(フランス)と一緒に4組の夫婦で、グアテマラの自然を楽しむ。ロータリーとは?を語りながら旅をする。
- 2月4日 (公財)ロータリー米山記念奨学会設立50周年式典
(グランドニッコー東京 台場)
- 4月14日 ジョイントミーティング
- 4月15日 理事研修会
- 4月16日～19日 理事会(文理事、日・韓通訳部4人と焼肉ディナー)
- 4月19日 ジョン・ヒューコ事務総長と話し合い。ロータリー重

- 要文献(ロータリー章典、ロータリー財団章典、理事会議事録、財団管理委員会議事録、監査済財務報告)等の和訳について条件つき許可の承認を求める。
- 4月28日 RI会長主催世界平和会議(伊ターラント市)出席。
ターラントの地下には、埋蔵文化遺産が多数ある。
発掘中とのこと。
- 5月16日 平和センター電話会議(22:30~24:00)
アンドリュー信子さん通訳
- 6月21日 理事会さよならディナー(トロント)
- 6月23日 豊田ナイト(トロント)
豊田RCより9人の参加、焼肉各種を楽しむ。
- 6月24日~27日 トロント国際大会
- 6月25日 壇上にて理事交代セレモニー
- 6月30日 日本ロータリー翻訳委員会 設立(日本ロータリーの悲願だった。元RI理事 渡辺好政氏のアドバイスを基に順調)。
- 7月1日 ガバナー・元・次期ガバナー懇談会出席
(石黒、三木理事の代理として)
- 7月4日 元RI理事 千玄室さんと面談
(日本のロータリー100周年について)
- 8月1日 元RI理事 小沢一彦さんと対談
(米山記念奨学会理事長就任にあたり)
- 9月 米山記念奨学会 理事長就任
- 9月18日~10月2日 南仏列車の旅。同期のRI理事(仏)を訪ねて。
- 10月12日 第2780地区役員の方と歓迎夕食会(鎌倉パークホテル)
- 10月13日~14日 RID2780地区大会 会長代理出席

以上

第9章

episode

～ エピソード ～

第9章

episode

～ エピソード ～

9.1 フランスのGSEに参加して

2008.5.2

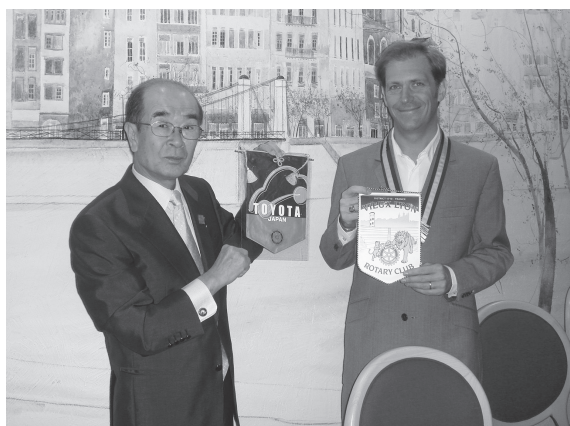
本年度はRI第1780地区（フランス ローヌ・アルプ モンブラン地方）との研究グループ交換がありました。5月2日パリ入りして、その晩はガバナー分室柚之原さんがフランス留学中に御世話になったロータリアン御夫婦と名古屋西南ロータリー吉田会長エレクトを始め、3組の御夫婦、深谷地区ロータリー財団委員長、矢形GSE委員長、同松尾副委員長と留学生の柿沼君と賑やかな夕食会でした。

5月4日にジュネーブに入り、1780地区ガバナーアルド氏、地区幹事ジャンさんとレマン湖で昼食、ワイン畑-工場など見学しました。5日は憧れのリヨンへTGVで1時間40分かけて入り13世紀の石の家屋を改修したホテル クールデローージュにチェックインしました。11時にロビーでロータリー財団親善奨学生だった、佐藤大輔君と待ち合わせをすることにしました。佐藤君は愛知県豊橋市出身で時習館高校—早大—慶応大学院と進み、豊橋ロータリークラブの推薦でリヨンの大学へ留学してそのままりヨんに居ついてしまったようです。

起業してアルファリスという会社を興して日仏の企業グループの応援をしているとおっしゃっていました。目の輝いた、はっきり物を喋る素晴らしい青年(昭和45年生まれ)でした。

リヨンの旧市街地を案内してもらい、パスタの有名店でボンゴレを食べ、ラ・ヴューリヨンロータリークラブ例会に出席しました。34人のこのクラブは連休の後とかで10人の出席者しかいなく、そのうち4人が女性でした。“今日は報告事項がないので「豊田ロータリークラブの事を聞きます。」と会は進行しました。

①何故渡仏したのか②豊田市はどんな町か③豊田ロータリークラブはどんなクラブか、特に奉仕活動と女性会員について等々の質問がありました。とりわけ③番目の質問の答えは汗をかき赤面しながら答えましたが、何故女性会員を入れないのかと語気を強められ世の流れであると金髪の老女は言い放ちました。はっと思いついた僕は、今年は証券会社の支店長が女性会員第一号になりそうですと追加発言しましたら、機せずして全員から拍手が沸き上がり、びっくりしました。佐藤君という通訳のお蔭で楽しい例会でした。尚、このクラブは佐藤君の留学中のスポンサークラブで、メンバーとの交流が疎遠であったのがこれを機会に交流が再開できると喜んでいました。



9.2 中部名古屋みらいRC創立総会 挨拶

2009.5.24

新緑のこの佳き日に、日本では数少ないロータリー財団学友、ロータリーファミリー等を主体としたロータリークラブが誕生することができました。まことにご同慶のいたりであります。この類のクラブは日本では、3番目のクラブであり、第2760地区82番目のクラブであります。今日の経済情勢の厳しい下では短期間に1つのクラブが誕生することは並大抵の努力ではできない事であります。これも偏に2760地区片山主水ガバナー、2630地区由良久ガバナーをはじめ、両地区財団委員長と拡大委員長のご指導の賜物であり、スポンサークラブ豊田ロータリークラブ、コスポンサークラブ岐阜西ロータリークラブの特別のご支援ご協力のお蔭と心から感謝申し上げます。

この両地区出身の若い世代を中心としたクラブは、「燃えるような思いやりの心と学識豊かな専門職としての奉仕活動」を創立の合言葉に発足いたしました。ロータリーには「ロータリーは人づくり」という哲学があります。1つは例会場での会員同志の交流による自己啓発と言われ、2つ目は次なる世代を育てるためのプログラムの支援であります。このプログラムは多岐にわたるものですが、その中の代表的なものがロータリー財団親善奨学生の派遣事業であり、ローターアクトクラブの提唱と若手リーダーの育成事業です。すでにそれ等プログラムを体験し社会人として活躍している方々が沢山おみえです。そのメンバーを中心に新しいロータリークラブが創立されましたが、この事実は拡大によって地区に1つのクラブが増えたという事だけにとどまらない大きな意義があります。とりわけ日本のように成熟した産業社会と街づくりに於いては、従来のようなメンバー選考基準にもとづく人材の発掘は困難をきたしているため、今回の新クラブ創立は拡大の新たな可能性の指針となると確信しています。つまり、

①安い会費(食事代、会場費の工夫)、②仕事を終えてからゆっくり例会、③フレキシブルな例会参加(但し原則は守ること)、④奉仕活動への参加、⑤専門職能を生かした活動等々をクラブ運営の柱にしてDLPに基づく組織の運営を考えれば、ロータリーファミリーによる新しい明るく活動的なクラブが誕生すると考えられます。第2760地区は東西に1つずつ、第2630地区は南北に1つずつこの若いクラブを設立すれば、老齢化した伝統あるクラブも、再び勢いづく可能性があります。この「中部名古屋みらいロータリークラブ」の創立は、まさにRI会長テーマ「夢をかたちに」の実現であります。ロータリーの哲学「ロータリーは人づくり」の具現化であります。

最後になりましたが、このクラブは今日生れたばかりです。これからロータリーの事を学びます。メンバーの学びの速度は極めて早いと私は自負しますので、機会ある毎に御指導たまわりますようお願いして挨拶とさせていただきます。



9.3 中部名古屋みらいRCの皆様へ

2010.3.5

前略

ロータリークラブに入会して31年になります。今もってロータリーって何だろうと時にふれ考え、後輩に説明することを求められます。情けないことにきちんと説明できません。先輩諸兄の言葉、文章をつなぎ合わせて喋りますが、自分の言葉で自分の考えたことを十分に解り易く語れない自分が居ます。

昨夜の例会で小野順子さんが問題提起をしてくれましたので、久しぶりに“まとめる”作業をしました。自分のロータリー歴の中で、ロータリーとは？を一番考え込んだ時期は、クラブ副会長→エレクト→会長→ガバナーノミニ→エレクト→ガバナーと経た年月(2000年～2006年)の6年間でした。それが、ガバナー方針となりました。

ロータリーに壁を作られ、(自分で作った)ロータリーの組織の中でもがき、出口が見つからずロータリーは“飲み会”と定義し、それでよしとすることにしましたが、やはり納得できずにいました。ある時、“ロータリーから何か貰おうとしているのに、何も貰えないと嘆く情けない自分がいる”と気がつきました。それならロータリーの何かを自分から取りに行こう、奪ってしまえ!と考え方を改めました。それを境にロータリーが楽しくて仕方なくなりました。そしてロータリーの文献を漁りに漁りました。受験勉強をするが如くに。理論武装で身を固めました。そしてガバナーの任に着く時がきました。自信満々でした。片端から委員会に出席し、ロータリーとはと喋り、プログラムを説明し協力を求めました。ところが、ある時に気づいたのです。理屈抜きに奉仕活動に時間とお金をさいているロータリアンが多数居ることに。青少年のために、地域の人々のために、やれることをやっているロータリアンの存在に。そんなのロータリー活動でないと僕が叫んで

も、黙々とその活動を遂行していきます。とうとう僕はもう一度ロータリーとは？を考え直しまとめる作業を始めなくてはなりませんでした。それはガバナーの任期も半分になった2007年の初春の頃でした。ラオスの寒村に小学校を建て贈呈式を行い、タイの山間部の村々に残っている2760地区からの贈り物の痕跡（小学校の図書館、小さな運動場、少数民族の為の授産所等々）、愛知育英基金の存在（25年も続いている）を見つけたWCSの活動への参加がきっかけでした。ロータリーは自己研鑽、自分の職業の倫理向上活動と決めていた僕には、このWCS活動は相容れないもののように映りました。この時期になって、「例会で切磋琢磨した心のエネルギーは御縁があって外なる奉仕へとほとぼしる。それが社会奉仕、国際奉仕です。しかし奉仕活動は、安売りしてはいけません。」と諭してくれた大村北RCの佐古亮尊PDGのフレーズが思い出されました。この、例会からクラブの外への思いの流れは、十分に納得のいくものでした。まさに「入って学び、出でて奉仕せよ」なのです。例会を楽しく演出するのは自分です。プログラム委員ではありません。例会がつまらないのは、つまらない自分が何かちょうだいと両手を伸ばしてボーっと座っているからです。他のクラブの例会にメーキャップしたり、他クラブ主催の会合に参加して伸ばした両手で何かをつかんで取ってくることをやると、ロータリーは楽しくなります。

「いつかクラウンを！」に似た憧れのステイタスシンボルはロータリーバッジから消えかかっています。シンボルを汚しかねない人達がロータリーの増強路線に誘い込まれ、そして去っていきました。それ等の人々は、ロータリーは商売を拡大拡張するふさわしい場、入会は絶好のビジネスチャンスと思っていたフシがあります。それ等の人々には、ロータリーは何も与えてくれませんでした。人間関係の中の知り合いという関係だけが残りますが、その中で自分の誠実さと一歩退き相手を敬う謙虚さ、そして共に学ぶ向学心があればビッグチャンスに発展する可能性があったはず

なのに、手にすることなくそれらの人々は去っていきました。

今度は悩みさまよえる期間は短くて済みました。実は悩んでいる暇がなかったのです。僕は豊田広域ローターアクトクラブを豊田地区5クラブの協力提唱で設立することに奔走して、年度末には設立総会を開催するところまでこぎつけました。ガバナーの勲章だな、と言ってくれた人がいます。勲章はどうでもよいのです。その形あるものを作り上げる作業が、仲間とつくる行為が財産なのです。

「仲間とつくる行為」は2008年も続きました。中部名古屋みらいRCの設立の為に、親友の篠田PDGの協力もあり、深谷、矢形両君に励まされ一緒にパワーと時間を使いました。とりわけ深谷R財団委員長のリーダーシップは見事なものでした。この4人は、単に徳積みの心で行ったものとは思われません。パストガバナーのプライド、見栄でもありません。業績は時のガバナー片山主水さんになるわけで、そんな事は思ってもいませんでした。とにかく不思議な位に燃え上がりました。とにかく新しい若いロータリークラブを設立したいという学友の熱意に負けて、走り続けた1年でした。

この頃になると「ロータリアンの2本の足の1本は、職業奉仕(職業の倫理向上活動)の軸足で内なる智の足であり、もう1本の足は外へ向かって何か良いことをしようと身を粉にする徳積みの足だ」と自分を納得させました。ロータリーは、最後は「己が心」に問われます。「お前は何をしようとしているのか」「何をしているのか?」です。創造的活動を続けることによって、自分はいつの間にか成長し、回り的人々がビッグチャンスを与えてくれるようになります。入会3年で退会した人々を引き止められなかったリーダー達の失敗は強く反省されるべきです。

3年も経たないで退会した人々といえども、その人はいやしくもその業界のリーダーなのですから、「ロータリーとは」を、心ゆくまで話すべきでした。ロータリー哲学を語るべきでした。日本のロータリーはこの30年間、哲

学を語らず、ポリオを、世界の貧困を、平和を目的にしてその根元を語らず手段ばかり語りました。似つかわしくない人々は去り、残っている我々は寄付に顔をそむけます。この寄付で行われるプログラムは、ロータリーの活動行為と納得していないからです。軸足ともう1つの外へ向かう足の話を、夜を徹して語るべきです。そうしたらロータリーが好きになります。自分の仕事が生き生きして夢が広がります。ロータリーは人生哲学なのです。



9.4 豊田広域RAC 創立10周年記念誌に寄せて

2017.5.1

クラブ創立10周年おめでとうございます。思い起こしますと、10年前私はガバナーを拝命しておりました。やれる事は何でも「やる!!」と意気込んでいました。ですから当初に計画していなかったローターアクトクラブ(RAC)を一つ創設するという暴挙に踏み切りました。それは「豊田地区にRACがないのはおかしい」という声に押されてのものでした。迷惑したのは地区RA委員長の服部良男さん(現ガバナー)以下地区委員会のメンバーだったと思います。とりわけ自分の分区になる服部さんは、分区内9クラブを訪問し、説得して協力を求めたと後から伺いました。大変なご努力をされた事を感謝申し上げます。

創立後の数年間は、豊田ロータリークラブの奥田清仁・秋田敬治(現在一宮中央)両君の御息女方の息の合ったリーダーシップのお蔭でクラブ運営も軌道に乗せる事が出来ました。当時からロータリー仲間の間では、自分の息子や娘は一流企業に就職させるよりも、RAに入れると言われておりました。早くから企画運営に携わり、チーム作りに心血を注ぎ、プログラムの予算建てをするというトレーニングを知らず知らず身に着けて、リーダーとしての修養がつまれてゆくからだと言われていました。2016年からロータリーのルールに変更があり、「ローターアクターはロータリークラブの会員となる」となりましたのでご応募下さい。

クラブ創立以来10年が早くも経ちました。伝統と歴史を作るのはこれからです。大勢の仲間を集め、力強いクラブ作りに励まれる事を祈念してやみません。



9.5 翻訳委員会 発足の報告

2018.11.20 第47回ロータリー研究会 各種報告

御報告いたします。

日本のロータリアンのボランティアによる翻訳委員会が発足いたしました。この委員会の前身は、かねてよりRI本部から発信されます様々な情報（英語）をなるべく早く日本のロータリアンにお届けしようと、友人相互の日本語訳交換としておりました。英語を母国語としない私達は、ともしれば訳に間違いはないか、趣旨が外れてはいないかと危惧して、翻訳文書を公式の和訳文書扱いの申請はしてまいりませんでした。この度、ジョン・ヒューコ事務総長、コミュニケーション部の特別なご配慮により、RI五大文書のうち①理事会議事録、②管理委員会議事録、③監査済財務報告の3点の和訳が承認されました。但し、条件として①継続性を保証する組織づくり、②和訳者の明記、の2点が提示されました。そこで直ちに理事・元理事が中心となってこの検討に入り、組織図とそれを支えるタスクフォース委員会とを結成しました。今後この組織を中心にして和訳作業を進め、日本ロータリーのお役に立ちたいと思います。

最後に、ここまでこぎつけるのに御尽力下さいました元RI理事 渡辺好政様、2650地区の刀根パストガバナーと地区の皆様方、そしてこの和訳作業に御支援下さいました各地区のパストガバナーの皆様方、並びにRI日本事務局長の小林様に厚く御礼申し上げましてご報告いたします。

翻訳委員会発足の経過

以前より、理事会にロータリー章典、財団章典等の重要文献の翻訳を日本の理事が訴えてきた。

2016 ————— 手続要覧の白いページ(理事会決定など)が削除され、RIの理事会決定、管理委員会決定など重要な文献を見る機会が減少した。また、RI Webサイトに掲載される重要文献にも、日本語に翻訳されない重要文献などもあり、これらの日本語訳が望まれていた。

4月 日本のボランティアによるRI重要文献の日本語への翻訳の実施を規定審議会にて提案した。
2017年8月、RIの要請により請願書として再提出した。

2017-18 ————— これらの重要文献についての翻訳を日本語で、ボランティアを組織して翻訳が可能かどうかを、日本の理事2名がRI本部と交渉。

2018 —————

2月 RI事務総長より、翻訳ボランティアの持続可能性における課題についての検討と、RI公式翻訳ではない旨を明記する書面が送付される。

3月 現職理事を中心に持続可能性のある組織を検討。

4月 持続可能性のある組織案をRIに提示し、日本の理事2名と理事エレクト、RI事務総長・コミュニケーション部との協議後、承認。

- 6月30日 日本での翻訳委員会設立準備委員会開催。
- ・翻訳委員会の設立と運営方針について決定
 - ・タスクフォース委員会(専門委員会)の設立を決定
 - ・各地区ガバナーにタスクフォース委員の推薦依頼を決定
- 7月 タスクフォース委員(専門委員)の推薦依頼を地区ガバナーに送付。
- 10月6日 東京にて第1回タスクフォース委員会開催。
- 11月10日 4月以降の理事会、管理委員会議事録の翻訳を完了し、翻訳委員会、アドバイザーの指導、RI本部の確認を経て、各ガバナー事務所にガバナー会より発信予定。

今後の予定

理事会及び管理委員会の議事録は、その会合から60日以内にRIウェブサイトに掲載されるものと章典に規定されており、発表次第、継続的に翻訳委員会で翻訳し、各ガバナー事務所に定期的に参考資料として配信する。

RI本部 …… ロータリー章典、財団章典(毎回更新)

翻訳委員会 …… 理事会議事録、管理委員会議事録、財務報告
(日本サイド)

(第47回ロータリー研究会報告書より一部抜粋)

あとがきにかえて ～お礼の言葉～

本拙文上梓にあたり、妻 雅子に捧げます。

まとめを書き上げて不足していることは何だろうと自問自答すると、感謝の一言が足りないと思ったので、追記したいと思います。順不同に思いつくまま、良きリーダーとの関わりをおしゃべりしたいと思っております。

まず初めに、大村北RCの佐古亮尊PGについてであります。老師は北海道紋別港RCの田巻明男PGから紹介された素晴らしい師匠であります。地区大会の基調講演をお願いし、先生の講演は当日会場の多くの人に感動を与えてくれました。以後たびたび大村北を訪れるようになり、指導を仰ぎました。

次に小沢一彦PG(横須賀RC)と出会ったことは、僕のロータリー人生を大きく変えてくれました。ガバナー終了後の進むべき道を、小沢さんは黙ってそこへ導いて下さいました。気が付いたら、RI理事というポジションまでたどり着いていました。小沢さんのご指導無くして現在の私は存在しないと思っております。ただただ感謝の念であります。

次に、高槻西RCの近藤眞道さんとの出会いであります。近藤さんは、RIの青少年交換の世界では三本の指に入るリーダーであります。その出会いは、東日本大震災後の青少年交換事業のあり方について、ご指導をいただきました。

次に、姫路RCの三木明 現ロータリー財団管理委員とのことです。彼は、生まれながらのロータリアンでありまして、高校生の頃からインターアクトのメンバーで、その後ローターアクターとしてRYLAに関わり、ロータリアンになったロータリーの化身であります。柔らかな口調でいつのまにか人を自分のファンに巻き込むという特技があります。若い頃、長野県白馬の岩岳のゲレンデでスキーの板の調整をする等、小生との関わりは岩岳を通して知り合いました。

次に、鐘ヶ江義光さんであります。第2830地区の同期ガバナーです。2006年、「なぜ2760地区は出席率が良いのか？」という質問をもらい、以来、交流を

続ける明るいナイスガイです。

次に、水野功さんであります。第2750地区のパスガバナーです。15歳も年下の、頼りにしている会員。気がつけば依頼する予定の案件のほとんどをまとめていただきました。日本のロータリー100周年の事業は彼の存在なくしてあり得なかったでしょう。

次に豊田ロータリークラブの孕石邦雄さんであります。そこに居ることに気づかないほど静かな会員ですが、ここ20年のデータ収集は彼の業績です。「あれ!?こんな記録があるんだ!」と感謝の一言であります。

次に、我がクラブの鈴木元弘、通称もっちゃんであります。小生がクラブ会長の時、親睦委員長を務められ、夜を徹しての議論を企画してくれました。次に、ガバナー在任中の地区大会で総指揮をとってくれました。そして、RI理事在任中のアトランタ国際大会では、日本人朝食会に我がクラブをまとめ引率し大挙して訪れ、その朝食会はジョンジャーム会長、駐米日本大使7～8名の参加のもと、大成功に終わりました。このように、小生の豊田RCの歴史を大きく作ってくれた仲間であります。感謝しても感謝しきれるものではありません。

そして、両親に御礼を申し上げます。83歳まで生かしてくれている丈夫な身体をくれたことであります。そして、家計が苦しい時と言えど、絶えず進学を進めてくれた恩人であります。

最後に妻へ。あれやこれや言いつつも陰ながら僕を支え、それでもロータリー活動を一緒に楽しんでくれた彼女の懐の深さには、感謝しかありません。

その他、小生の人生に関わってくれた全ての方々、ロータリーの仲間達、膨大な原稿を一冊の本にまとめて下さった方々、そして最後までこの記録を読んで下さった全ての方々に、厚く御礼申し上げます。

2021年11月

齋藤 直美

秘書(山口美保子)について

本稿(原点回帰そのⅡ)を発刊するにあたり、その殆どを彼女に依頼した。16年余に及ぶデータを保存してくれていたこと、そのデータを整理、分類し、テーマ別、年代別にまとめられていることから、まさに「俺の出る幕はないな!」と全面的に頼った次第である。従って、彼女の助言助力が無ければ本稿はなかったのである。彼女の経時的参加記録は以下の通りである。

2005年	ガバナーエレクト事務所立ち上げから勤務
2006年～07年度	ガバナー事務所事務局 地区便覧作成、地区大会等諸会議の事務局業務
2015年	第44回ロータリー研究会(東京)へ視察見学(ホテルグランパシフィック LE DAIBA)。RID2720 ロータリー研究会事務局およびRID2780 柚木裕子氏 (現 米山記念奨学会事務局長)に研究会準備の指導 を仰ぐ
2016年	豊田RCメンバーとソウル国際大会参加 ジョンジャーム会長エレクトの「潮目が変わった」に感動 し、ロータリーの重要な変換期である旨を実感
2016年～18年度	RI理事補佐業務としてRI本部との連携、理事会資料 の事前準備、海外出張の手配等
2016年	第45回ロータリー研究会事務局
2017年	アトランタ国際大会日本人親善朝食会事務局
2020年	パストガバナー以降16年間の膨大な資料のまとめ作業 に入る
2021年6月	中心的データの抽出作業、製本への準備

以 上

令和3年11月10日

齋藤 直美



2016年 ソウル国際大会 RID2760ガバナーナイトにて

齋藤 直美 (サイトウ タダミ)

生年月日 昭和13年11月10日生
勤 務 先 医療法人豊寿会 斉藤病院
愛知県豊田市四郷町森前200
役 職 名誉理事長
最終学歴 昭和39年 名古屋大学卒業
ロータリー歴

1979年2月8日 豊田ロータリークラブ入会
2002年～2003年 クラブ会長
2003年～2005年 地区財団奨学委員会 委員
2005年～2006年 ガバナーエレクト
2006年～2007年 ガバナー
2010年～2013年 NPO法人国際ロータリー日本青少年交換委員会 理事長
2013年～2015年 国際ロータリー青少年交換委員会 委員
2016年～2018年 国際ロータリー 理事
2016年～2018年 ロータリーの友事務所 社員、及び友委員会 委員
2016年～2020年 公益財団法人ロータリー日本財団 評議員
2017年～2018年 国際ロータリー平和センター大口寄付推進活動委員会 委員
2018年～2021年 一般社団法人国際ロータリー-日本青少年交換多地区合同機構
RIJYEM 顧問
2018年9月～ 公益財団法人ロータリー米山記念奨学会 理事長
2018年～ 公益財団法人米山梅吉記念館 理事
2019年～ 翻訳委員会 委員
2021年7月～ 一般社団法人国際ロータリー-日本青少年交換多地区合同機構
RIJYEM 相談役

母子の健康のための齋藤直美・雅子基金
大口寄附者
ベネファクター
ポールハリスソサエティー
マルチプルポールハリスフェロー
第52回米山功労者メジャードナー

2021年7月号「ロータリーの友」よねやまだより インタビューより

Q1. 自分を表現する3つのキーワード

- ・ いい加減、好い加減
- ・ Noと言えない、言わない生来のロータリアン
- ・ くよくよしない。

Q2. 趣味

クラシック音楽を聴くこと。中学生の時にシューベルトの歌曲「魔王」に衝撃を受けて以来、はまっています。

特にベートーベンが大好きで、ピアノソナタ「熱情」や、交響曲第7番も好きです。

Q3. 小さい頃の夢

幼い頃から医者になることが目標でした。

母が夜中に心臓発作を起こし、幼い私は医者と呼ばれに雪道を必死に駆け、医院の玄関ドアを叩きながら「先生、お母さんを助けてください!」と叫んだ時のことを今でも思い出します。

高校では、先生から「お前は文学部へ行け」と言われるほど落ちこぼれてでしたが、1年浪人し、無事、名古屋大学へ合格できました。

その後こうして医師になり、元RI理事の小沢さんをはじめ、多くの方々のおかげで、ロータリーでたくさんの経験をさせていただいています。本当に感謝しかありません。

げん てん かい き

原点回帰Ⅱ

～ あるRI理事の記録より ～

2022年2月23日 初版第1刷発行

著者 齋藤直美

医療法人豊寿会 斉藤病院

〒470-0373 愛知県豊田市四郷町森前200

電話 (0565)44-0033

編集 山口美保子

題字 安藤豊邨

印刷・製本 ユタカ印刷株式会社

